Cisco BroadWorks 版 Webex 設定ガイド

解除 46.1

ドキュメント・バージョン1

目次

1 変更の概要 1
1.1 リリースの変更46.1、1 月 2026 1
1.2 リリースの変更45.12、12 月 2025 1
1.3 リリースの変更45.11、11 月 2025 1
1.4 リリースの変更45.10、10 月 2025 1
1.5 リリースの変更45.9、9 月 2025 2
1.6 リリースの変更45.8、8 月 2025 2
1.7 リリースの変更45.7、7 月 2025 2
1.8 リリースの変更45.6、6 月 2025 2
1.9 リリースの変更45.5、5 月 2025 2
1.10 リリースの変更45.4、4 月 2025 3
1.11 リリースの変更45.3、3 月 2025 3
1.12 リリースの変更45.2、2 月 2025 3
1.13 2025年1月リリース45.1 の変更点 3
2 設定ファイルの変更 4
2.1 リリースの設定ファイルの変更 46.1 4
2.2 リリース45.12 の設定ファイルの変更 4
2.3 リリース45.11 の設定ファイルの変更 4
2.4 リリース45.1 の設定ファイルの変更 5
2.5 リリース45.9 の設定ファイルの変更 6
2.6 リリース45.8 の設定ファイルの変更 6
2.7 リリース45.7 の設定ファイルの変更 7
2.8 リリース45.6 の設定ファイルの変更 7
2.9 リリース45.5 の設定ファイルの変更 7
2.10 リリース45.4 の設定ファイルの変更 8
2.11 リリース45.3 の設定ファイルの変更 8
2.12 リリース45.2 の設定ファイルの変更 8
2.13 リリース45.1 の設定ファイルの変更 8

3 紹介 9

4 のインストール 10

4.1 ローカライズされたクライアントのダウンロード 10

4.2 Android クライアント 10

4.3 iOS クライアント 10

4.4 デスクトップ クライアント 11

5 デバイス管理 12

5.1 デバイス管理タグ 12

5.2 デバイスタイプ選択における部分一致の強化 13

5.3 クライアントの設定 14

5.4 config-wxt.xml の展開 14

5.5 設定ファイル (config-wxt.xml) 15

5.6 システム デフォルト タグ 15

5.7 Cisco BroadWorks 動的組み込みシステム タグ 16

6 カスタムタグ 19

6.1 共通の特徴 50

6.1.1 SIPサーバー設定 50

6.1.2 SIP Over TLS および Secure Real-time Transport Protocol 53

6.1.3 SRTP の 3GPP SIP ヘッダー 55

6.1.4 TCP、TLS、UDP の使用およびキープアライブを強制する 56

6.1.5 SIP ソケットを開くための設定可能なタイムアウト 58

6.1.6 ダイナミック SIP プロキシ検出 59

6.1.7 SIP の優先ポート使用量 64

6.1.8 SIPフェイルオーバーとフェイルバック 65

6.1.9 SIP SUBCSRIBEとREGISTERのリフレッシュとSUBSCRIBEのリトライ 70

6.1.10 登録で P-Associated-URI を使用する 70

6.1.11 SIP P-Early Media（PEM）ヘッダー 71

6.1.12 SIP 更新のサポート 72

6.1.13 レガシー SIP INFO FIR 72

6.1.14 NAT トラバーサルの SIP rport 管理 73

6.1.15 SIP セッション ID 74

6.1.16 着信通話拒否の動作 74
6.1.17 リアルタイム トランスポート プロトコル ポート範囲 74
6.1.18 ICE サポート (Webex Calling のみ) 75
6.1.19 RTCP MUX 76
6.1.20 転送 76
6.1.21 N 方向電話会議 78
6.1.22 コール プル 79
6.1.23 コールパーク/保留解除 81
6.1.24 通話統計 82
6.1.25 コール自動リカバリ /シームレスなコールハンドバー 82
6.1.26 通話録音 83
6.1.27 ボイスメール、ビジュアルボイスメール、メッセージ待機インジケータ 86
6.1.28 Webex Calling のボイスメールの文字起こし 88
6.1.29 通話設定 88
6.1.30 設定ポータル および Web ベースの通話設定 91
6.1.31 コール センター/コール キューのログイン/ログアウト 95
6.1.32 Xtended Services Interface（XSI） 95
6.1.33 コーデックの設定 99
6.1.34 SIP-URI ダイヤル 101
6.1.35 通話履歴 102
6.1.36 ビデオ通話を無効にする 102
6.1.37 緊急（911）通話:E911 プロバイダーによるロケーションレポート 103
6.1.38 アイデンティティとしてのPAI 104
6.1.39 画面共有を無効にする 105
6.1.40 スパムコール通知 105
6.1.41 PSTN/モバイル コールのノイズ除去と帯域幅拡張 106
6.1.42 QoS DSCP マーキング 106
6.1.43 主なプロフィール 107
6.1.44 ブロック リスト (Webex Calling のみ) 109
6.1.45 メディア適応とレジリエンスの実施（MARI） 110
6.1.46 同じユーザーとの同時通話 112
6.1.47 RTCP-XR 112

6.1.48 着信転送情報 113
6.1.49 発信者 ID 113
6.1.50 複数回線 116
6.1.51 SIP 認証の強化 118
6.1.52 パーソナル アシスタント (退席中) 118
6.1.53 エンドツーエンド暗号化 (Webex Calling のみ) 119
6.2 デスクトップのみの機能 121
6.2.1 強制ログアウト 121
6.2.2 通話ピックアップ 122
6.2.3 Boss-Admin (エグゼクティブ-アシスタント) のサポート 122
6.2.4 SIP 通話をミーティングにエスカレーションする (Webex Calling のみ) 123
6.2.5 卓上電話制御通話 - 自動応答 123
6.2.6 トーン通知による自動応答 124
6.2.7 デスクホン・コントロール - ミッドコール・コントロール - カンファレンス 124
6.2.8 コール ピックアップ通知 124
6.2.9 リモート コントロール イベント パッケージ 127
6.2.10 サバイバビリティ ゲートウェイ (Webex Calling のみ) 127
6.2.11 リモート ミュート コントロール イベント パッケージ (Webex Calling のみ) 128
6.2.12 通話を移動 129
6.3 モバイルのみの機能 131
6.3.1 緊急コール 131
6.3.2 コールのプッシュ通知 132
6.3.3 単一アラート 135
6.3.4 クリックしてダイヤル (コールバック) 135
6.3.5 MNO サポート 136
6.3.6 着信発信者 ID 141
7 アーリーフィールドトライアル（BETA）の特徴 143
7.1 緊急（911）コール - Cisco 緊急ロケーション情報サービス（Webex Calling のみ）および設定のクリーンアップ 143

8 Cisco BroadWorks 版 Webex と UC-One 間のカスタム タグ マッピング 148

9 別紙A: TLS 暗号化 156

10 別紙B: DMタグ・プロビジョニング・スクリプト 157

10.1 デスクトップ 158

10.2 モバイル 161

10.3 タブレット 164

10.4 システム タグ 167

11 頭字語および略語 168

1 変更の概要

このセクションでは、各リリースとドキュメント・バージョンについて、。

1.1 リリースの変更46.1、1 月 2026

このバージョンのドキュメントには、次の変更が含まれます。

- セクション*5.3 クライアントの設定* - アプリによる設定ファイルの使用方法の詳細を追加しました。
- セクション*5.4 config-wxt.xml* の展開 – 設定ファイルのバージョンを最新の状態に保つことと DTAF ダウンロード手順に関する詳細が追加されました。

1.2 リリースの変更45.12、12 月 2025

今回のリリースでは、この文書に変更はない。

1.3 リリースの変更45.11、11 月 2025

このバージョンのドキュメントには、次の変更が含まれます。

- セクション *6.1.35 通話履歴* – セカンダリ回線のサポートに関する詳細を追加しました。ベータ機能から「*セカンダリ回線の統合通話履歴（Webex Calling のみ）*」セクションを削除しました。
- セクション *6.1.53 エンドツーエンド暗号化 (Webex Calling のみ)* をベータ版から移動しました。
- セクション *6.3.5.3 発信通話回線 ID (CLID) – デュアル* ペルソナ
  - 共通セクション *6.1.49.1 発信者 ID* の一部になったため、[発信者 ID を非表示] オプションを削除しました。
  - デュアル ペルソナの設定オプション (設定タグとカスタム タグ) を更新しました。
- セクション *6.1.32 Xtended Services Interface（XSI）* – XSI 関連情報を組み合わせました。
- セクション *6.1.32.2 XSI 動的プロキシ検出を追加しました。*
- セクション *6.1.32.3 XSI イベント チャネル* – 新しい非アクティブ タイマーに関する詳細と、XSI 主催者のブラックリストに関連する更新が追加されました。

1.4 リリースの変更45.10、10 月 2025

このバージョンのドキュメントには、次の変更が含まれます。

- セクション*6.1.21 N 方向電話会議* – ベータ セクションの *N-Way Conference Calls Enhancement (Webex Calling のみ)* が統合されました。
- セクション*6.1.22 コール* プル – ベータ セクションの*通話プル強化*を統合しました。
- [重要] 「 」セクションが追加されました。
  - ドキュメントバージョン3 - Webex Calling 導入タイプ専用のシスコ緊急ロケーション情報サービスの可用性に関する追加情報が含まれています。
- ベータ版の「*セカンダリ回線の統合通話履歴（Webex Calling のみ）*」セクションを追加しました。
- セクション *6.1.35 通話履歴* – 通話履歴がユーザーのプライマリ回線に対してのみすべてのデバイスで同期されるという説明を追加しました。
- ベータ版の「*エンドツーエンド暗号化 (Webex Calling のみ)*」セクションを追加しました。

1.5 リリースの変更45.9、9 月 2025

このバージョンのドキュメントには、次の変更が含まれます。

- 「 *コールプル機能強化*」セクションを更新しました - 詳細が追加されました。
- セクション *6.1.22 コール プル* – サーバー側のサービス設定の機能依存性に関する詳細を追加しました。
- セクション *6.1.25 コール自動リカバリ/シームレスなコールハンドバー* – コール プル機能とコール リカバリ中に再生されるトーンに対する機能の依存性に関する詳細を追加しました。

1.6 リリースの変更45.8、8 月 2025

このバージョンのドキュメントには、次の変更が含まれます。

- セクション*6.1.33 コーデックの設定* – プラットフォームごとの最大 H.264 ビデオ解像度と Webex アプリのデスクトップ バージョンの更新に関する詳細を追加しました。

1.7 リリースの変更45.7、7 月 2025

このバージョンのドキュメントには、次の変更が含まれます。

- ベータ版の「*N-way Conference Calls Enhancement (Webex Calling のみ)*」セクションを追加しました。
- ベータ版の「*コール プル機能強化*」セクションを追加しました。

1.8 リリースの変更45.6、6 月 2025

今回のリリースでは、この文書に変更はない。

1.9 リリースの変更45.5、5 月 2025

このバージョンのドキュメントには、次の変更が含まれます。

- セクションのコール キュー エージェント CLID の選択 – *6.1.49.1 発信者 ID* により非推奨になりました。
- 非推奨のタグと属性を削除しました。

1.10 リリースの変更45.4、4 月 2025

このバージョンのドキュメントには、次の変更が含まれます。

- セクション *6.1.33.1 AIコーデック* – ベータ版です。
- セクション *6.1.50 複数回線* – デスクトップのみとモバイルベータ セクションを組み合わせました。
- セクションを移動しました *6.1.51 SIP 認証の強化* – ベータ版です。
- セクションを移動しました*6.1.52 パーソナル* アシスタント (退席中) パーソナルアシスタント (在席中)6

1.11 リリースの変更45.3、3 月 2025

今回のリリースでは、この文書に変更はない。

1.12 リリースの変更45.2、2 月 2025

このバージョンのドキュメントには、次の変更が含まれます。

- ベータ版で「*SIP 認証の強化*」セクションを追加しました。

1.13 2025年1月リリース45.1 の変更点

このバージョンのドキュメントには、次の変更が含まれます。

- *パーソナル アシスタント (退席中)* セクションをベータ版から移動しました。
- セクション *6.3.2.3 配信モード (Webex Calling のみ)* をベータ版に移行しました。

2 設定ファイルの変更

2.1 リリースの設定ファイルの変更 46.1

- 2 番目の*電話イベント*を追加しました セクションの 48kbps のクロックレートを示すタグです。<audio>

```
<config>
<services><calls>
  <audio>
    <codecs>
      …
      <codec name="telephone-event" payload="101" in-band="false"/>
      <codec name="telephone-event" payload="102" clockrate="48000" in-
band="false" />
```

2.2 リリース45.12 の設定ファイルの変更

このバージョンでは設定ファイルの更新はなかった。

2.3 リリース45.11 の設定ファイルの変更

- 設定タグ >mobility-persona-management>と対応するカスタムタグ %ENABLE_MOBILITY_PERSONA_MANAGEMENT_WXT% は廃止され、新しいカスタムタグ %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_MOBILITY_WXT% を使用して、統合された発信者 ID 設定セクションの一部になりました。
- 設定タグ と対応するカスタムタグ %ENABLE_CLID_DELIVERY_BLOCKING_WXT% は廃止され、新しいカスタムタグ %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_DELIVERY_BLOCKING_WXT% を使用して、統合された発信者 ID 設定セクションの一部になりました。
- セクションにproxy-discovery>タグを追加しました。

```
<config>
<protocols><xsi>
   <event-channel enabled="%ENABLE_XSI_EVENT_CHANNEL_WXT%">
      <proxy-discovery mode="%XSI_PROXY_DISCOVERY_MODE_WXT%"/>
```

- に非活動タイムアウト>タグを追加しました

```
<config>
<protocols><xsi>
   <event-channel enabled="%ENABLE_XSI_EVENT_CHANNEL_WXT%">
      <heartbeat-interval>%CHANNEL_HEARTBEAT_WXT%</heartbeat-interval>
      <inactivity-timeout>%CHANNEL_INACTIVITY_TIMEOUT_WXT%</inactivity-
timeout>
```

次の %TAG% が追加されました:

- %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_MOBILITY_WXT%
- %CHANNEL_INACTIVITY_TIMEOUT_WXT%

次の %TAG%s は廃止されました:

- %ENABLE_MOBILITY_PERSONA_MANAGEMENT_WXT%
- %ENABLE_CLID_DELIVERY_BLOCKING_WXT%

2.4 リリース45.1 の設定ファイルの変更

- [Webex Calling のみ] セクションのタグが、公式機能を制御するようになりました。

```
<config>
<services><calls>
   <conference>
      <drop-two-party-conference
enabled="%ENABLE_CONFERENCE_DROP_TWO_PARTY_CONFERENCE_WXT%"/>
```

- タグ のmode および default-active-move-option (デスクトップのみ) 属性で、公式機能を制御できるようになりました。

```
<config>
<services><calls>
   <call-pull enabled="%ENABLE_CALL_PULL_WXT%" mode="%CALL_PULL_MODE_WXT%"
default-active-move-option="%CALL_PULL_DEFAULT_ACTIVE_MOVE_OPTION_WXT%"/>
```

- [重要] [ベータ機能] [デスクトップとタブレットのみ] の下にセクションを追加し、セクションを廃止しました。

```
<config><services>
<emergency-dialing enabled="%ENABLE_EMERGENCY_DIALING_WXT%">
   <redsky enabled="%EMERGENCY_DIALING_ENABLE_REDSKY_WXT%"> <!-- DEPRECATED
by <emergency-location> -->
      <held-url>%BWE911-PRIMARY-HELDURL%</held-url>
      <held-org-id>%BWE911-CUSTOMERID%</held-org-id>
      <secret>%BWE911-SECRETKEY%</secret>
      <number-list>%BWE911-EMERGENCY-NUMBER-LIST%</number-list>
      <user-reminder-
timeout>%EMERGENCY_REDSKY_USER_REMINDER_TIMEOUT_WXT%</user-reminder-timeout>
      <user-mandatory-
location>%EMERGENCY_REDSKY_USER_MANDATORY_LOCATION_WXT%</user-mandatory-
location>
      <user-location-
prompting>%EMERGENCY_REDSKY_USER_LOCATION_PROMPTING_WXT%</user-location-
prompting>
   </redsky>
   <emergency-location enabled="%ENABLE_EMERGENCY_LOCATION_WXT%"
               provider="%EMERGENCY_LOCATION_PROVIDER_NAME_WXT%">
      <held-url>%BWE911-PRIMARY-HELDURL%</held-url>
      <held-org-id>%BWE911-CUSTOMERID%</held-org-id>
      <secret>%BWE911-SECRETKEY%</secret>
      <number-list>%BWE911-EMERGENCY-NUMBER-LIST%</number-list>
      <user-reminder-
timeout>%EMERGENCY_LOCATION_USER_REMINDER_TIMEOUT_WXT%</user-reminder-
timeout>
      <user-mandatory-
location>%EMERGENCY_LOCATION_USER_MANDATORY_LOCATION_WXT%</user-mandatory-
location>
```

```
      <user-location-
prompting>%EMERGENCY_LOCATION_USER_LOCATION_PROMPTING_WXT%</user-location-
prompting>
   </emergency-location>
</emergency-dialing>
```

- [Webex Calling のみ] セクションにタグを追加しました。

```
<config>
<services><calls>
   <e2ee enabled="%ENABLE_CALLS_E2EE_WXT%"/>
```

次の %TAG%s が追加されました:

- %ENABLE_EMERGENCY_LOCATION_WXT%
- %EMERGENCY_LOCATION_USER_REMINDER_TIMEOUT_WXT%
- %EMERGENCY_LOCATION_USER_MANDATORY_LOCATION_WXT%
- %EMERGENCY_LOCATION_USER_LOCATION_PROMPTING_WXT%
- %ENABLE_CALLS_E2EE_WXT%

次の %TAG%s は廃止されました:

- %EMERGENCY_DIALING_ENABLE_REDSKY_WXT%
- %EMERGENCY_REDSKY_USER_REMINDER_TIMEOUT_WXT%
- %EMERGENCY_REDSKY_USER_MANDATORY_LOCATION_WXT%
- %EMERGENCY_REDSKY_USER_LOCATION_PROMPTING_WXT%

詳細については、「」を参照してください。

2.5 リリース45.9 の設定ファイルの変更

このバージョンでは設定ファイルの更新はなかった。

2.6 リリース45.8 の設定ファイルの変更

- [デスクトップのみ] H.264 ビデオの解像度を WIDE_FULL_HD に更新しました。H.264 コーデックの解像度、セクションのH.264 コーデックの解像度、フレームレート、ビットレート属性を追加しました。<video>

```
<config>
<services><calls>
<video><codecs>
       <codec name="H264" resolution="WIDE_FULL_HD" framerate="30"
bitrate="4000000" priority="1.0" payload="109">
```

2.7 リリース45.7 の設定ファイルの変更

- [ベータ機能] [Webex Calling のみ] セクションにタグを追加しました。

```
<config>
<services><calls>
   <conference>
      <drop-two-party-conference
enabled="%ENABLE_CONFERENCE_DROP_TWO_PARTY_CONFERENCE_WXT%"/>
```

- [ベータ機能]タグの にモードと default-active-move-option (デスクトップのみ) 属性を追加しました。

```
<config>
<services><calls>
   <call-pull enabled="%ENABLE_CALL_PULL_WXT%" mode="%CALL_PULL_MODE_WXT%"
default-active-move-option="%CALL_PULL_DEFAULT_ACTIVE_MOVE_OPTION_WXT%"/>
```

次の %TAG%s が追加されました:

- %ENABLE_CONFERENCE_DROP_TWO_PARTY_CONFERENCE_WXT%
- %CALL_PULL_MODE_WXT%
- %CALL_PULL_DEFAULT_ACTIVE_MOVE_OPTION_WXT%

2.8 リリース45.6 の設定ファイルの変更

このバージョンでは設定ファイルの更新はなかった。

2.9 リリース45.5 の設定ファイルの変更

以下のセクション/タグが削除されました:

- [D/M] プロトコル>
  - 廃止されたリリース 42.12
  - の各回線の資格情報に置き換えられます。
- [D] プロトコル>
  - クレデンシャル> の各回線に対してに置換されます
- [D/M] <q-value;
  - 廃止されたリリース 43.11
  - で<q-value;に置換
- [D/M] <service-uri>
  - 廃止されたリリース 42.12
  - の各回線の conference-service-uri>に置換されます。
- [D/M] <ノイズ除去>
  - 廃止されたリリース 43.12
  - サービス><音声強化機能に置き換えました

- [D/M] <center-number>
  - 廃止されたリリース 42.12
  - の各回線について、ボイスメール番号で置き換えられます。
- [D] サービス>
  - 廃止されたリリース 44.3
  - Replaced by the <services><calls><caller-id>

次の属性が削除されました。

- [D/M] url 属性 ()
- [D/M] の [ブランディング有効化] 属性 ()

次の %TAG%s が削除されました:

- [D] %ENABLE_CALL_CENTER_AGENT_OUTGOING_CALLS_WXT%

2.10 リリース45.4 の設定ファイルの変更

このバージョンでは設定ファイルの更新はなかった。

2.11 リリース45.3 の設定ファイルの変更

このバージョンでは設定ファイルの更新はなかった。

2.12 リリース45.2 の設定ファイルの変更

- [ベータ機能] セクションにタグが追加されました。

```
<config>
<protocols>
  <sip>
    <enhanced-authorization enabled="%ENABLE_ENHANCED_AUTHORIZATION_WXT%"/>
```

次の %TAG% が追加されました:

- %ENABLE_ENHANCED_AUTHORIZATION_WXT%

2.13 リリース45.1 の設定ファイルの変更

このバージョンでは設定ファイルの更新はなかった。

3 紹介

このドキュメントでは、Cisco BroadWorks 版 Webex クライアントの設定について説明します。

構成ファイル *config-wxt.xml* には、モバイル (Android および iOS) とデスクトップ (Windows および MacOS) の 2 つのバージョンがあります。

このクライアントは、エンド ユーザーには表示されない構成を使用して設定されます。 *config-wxt.xml* は、サーバーのアドレス、ポート、クライアントのランタイム オプション (たとえば、*[設定]* 画面に表示されるオプション) など、サーバー固有の情報を提供します。

設定ファイルは、デバイス管理から取得された後、起動時にクライアントによって読み取られます。設定ファイルの情報は暗号化されて保存されるため、エンド ユーザーが情報を表示したりアクセスしたりすることはできません。

> **注**: XML プロパティにはスペースを含めないでください (例: 代わりに)。

4 のインストール

Cisco BroadWorks 版 Webex クライアントは、以下からインストールできます。

https://www.webex.com/webexfromserviceproviders-downloads.html

4.1 ローカライズされたクライアントのダウンロード

次のローカライズ版の Cisco BroadWorks 版 Webex クライアントは、次のようにダウンロードできます。

https://www.webex.com/ko/webexfromserviceproviders-downloads.html
https://www.webex.com/fr/webexfromserviceproviders-downloads.html
https://www.webex.com/pt/webexfromserviceproviders-downloads.html
https://www.webex.com/zh-tw/webexfromserviceproviders-downloads.html
https://www.webex.com/zh-cn/webexfromserviceproviders-downloads.html
https://www.webex.com/ja/webexfromserviceproviders-downloads.html
https://www.webex.com/es/webexfromserviceproviders-downloads.html
https://www.webex.com/de/webexfromserviceproviders-downloads.html
https://www.webex.com/it/webexfromserviceproviders-downloads.html

4.2 Android クライアント

Android クライアントはアプリケーション (Android アプリケーションパッケージ [APK]) としてインストールされ、プライベート エリア内に設定と関連するデータが保持されます。

Google Play の手順に基づくバージョン管理があります。標準の Google Play 通知が提供されます (つまり、Android は新しいバージョンのソフトウェアが利用可能であることを自動的に示します)。

新しいバージョンがダウンロードされると、古いソフトウェアは上書きされるが、ユーザーデータはデフォルトで保持される。

ユーザーは、インストールまたはアンインストールのオプションを選択する必要はないことに注意してください。

4.3 iOS クライアント

iOS クライアントはアプリケーションとしてインストールされ、設定関連のデータが「サンドボックス」内に保存され、設定ファイル データは暗号化されます。

Apple App Store の手順に基づくバージョン管理があります。App Storeのアイコンは、利用可能なソフトウェアの新しいバージョンがあることを示すために強調表示されます。

新しいバージョンがダウンロードされると、古いソフトウェアは上書きされるが、ユーザーデータはデフォルトで保持される。

ユーザーは、インストールまたはアンインストールのオプションを選択する必要はないことに注意してください。

4.4 デスクトップ クライアント

デスクトップ クライアント (Windows および MacOS) のインストールとバージョン管理に関する情報は、以下にあります。https://help.webex.com/en-us/nw5p67g/Webex-Installation-and-Automatic-Upgrade.

5 デバイス管理

5.1 デバイス管理タグ

Cisco BroadWorks 版 Webex は、次の図に示されている*デバイス管理タグ セット*を使用します。特定のデバイス/クライアント設定をプロビジョニングするには、*System Default* 、カスタムタグセットが必要です。このタグセットは、クライアントのネットワーク/サービス接続設定や機能の有効化制御を柔軟に管理します。

このカスタムタグセットは、システム管理者が*システム →リソース →デバイス管理タグセット*オプションを通じてプロビジョニングします。管理者は新しいタグセットを追加しなければならない：

- モバイル: コネクト_タグ
- タブレット: コネクト・タブレット・タグ
- デスクトップ: ブロードタッチタグ

個々のタグを作成し、その値を設定する。各セクションのリファレンスには、各タグの詳細な説明が記載されている。カスタムタグは機能性に基づいてグループ分けされており、本書で後述する。

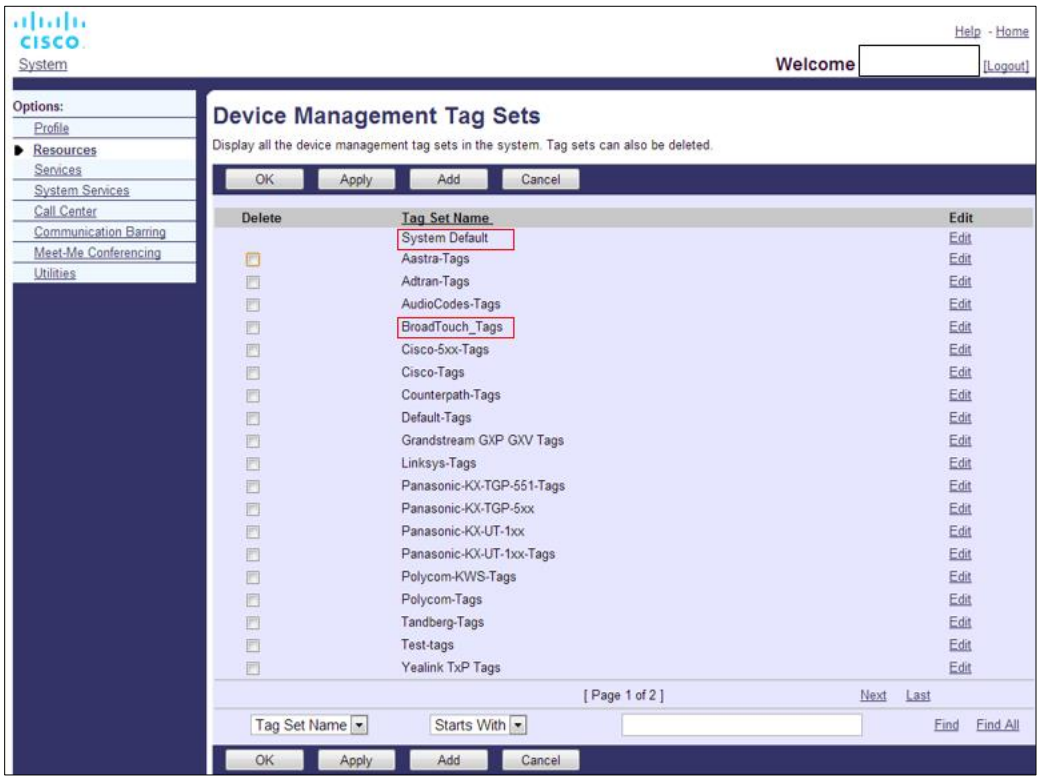


図1 デスクトップ・デバイス管理タグセット

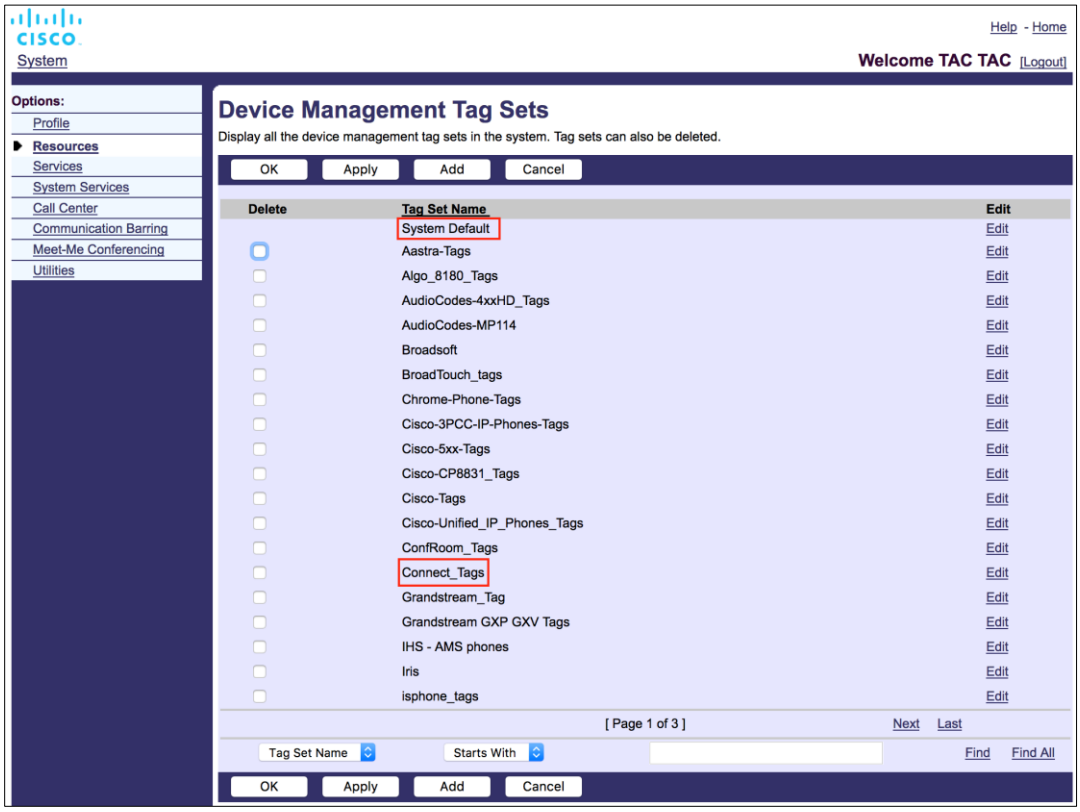


図 2 モバイル デバイス管理タグセット

5.2 デバイスタイプ選択における部分一致の強化

ユーザーグループまたは個々のユーザーに対して機能パッケージを選択する際の柔軟性を高めるため、デバイスプロファイルのタイプは（最初の）部分一致に基づいて選択されます。これにより、顧客は異なるタイプのデバイスを使用することができる。

一般的なデバイス管理手順では、Cisco BroadWorks アプリケーション サーバがデバイス プロファイル タイプを提供するように指定します。デスクトップ用には「Business Communicator - PC」、モバイル用には「Connect - Mobile」、タブレット用には「Connect - Tablet」と名付けられている。デバイスプロファイルを作成し、ユーザーに割り当てることができます。その後、アプリケーション・サーバーは設定ファイルを作成し、プロファイル・サーバーに保存する。

ログイン時に、クライアントは XSI 経由で割り当てられたデバイス リストをクエリし、対応するデバイス タイプ プロファイルを検索します。クライアントは、対応するデバイスタイプ名で始まる最初のプロファイルを選択する。そして、このデバイス・プロファイルに関連付けられたデバイス・プロファイル・コンフィギュレーション・データ（コンフィギュレーション・ファイル）を使用して、さまざまな機能を有効化したり無効化したりする。

これにより、同じクライアント実行ファイルをさまざまなデバイス・プロファイル・タイプで使用できるため、サービス・プロバイダーは、ユーザーまたはユーザー・グループのDMでデバイス・プロファイル・タイプを変更するだけで、個々のユーザーまたはユーザー・グループの機能パッケージを変更できる。

例えば、サービス・プロバイダーは、「ビジネス・コミュニケータ-PCベーシック」、「ビジネス・コミュニケータ-PCエグゼクティブ」、「ビジネス・コミュニケータ-PCアシスタント」など、ユーザーの役割に応じたデバイス・プロファイル・タイプをいくつでも用意し、個々のユーザー用にデバイス・プロファイル・タイプを変更することによって、そのユーザーが利用できる機能を変更することができます。

受信したデバイス・リストXMLに、一致するデバイス・プロファイル・タイプが複数あることは想定されておらず、1つしかないことに注意すること。

5.3 クライアントの設定

Cisco BroadWorks 版 Webex のクライアントバージョンでは、通話機能を設定するために *config-wxt.xml* ファイルを使用します。これは、ユーザーに割り当てられた通話サービスと組み合わせて機能します。

Webex アプリケーションは DMS 経由で設定ファイルを取得します。ユーザのサインイン時にダウンロードされ、アプリケーションが稼働している間、12 時間ごとに更新されます。設定ファイルの更新間隔は設定できません。設定ファイルの更新を強制するには、ユーザはサインアウトしてから再度サインインする必要があります。

5.4 config-wxt.xml の展開

対応する *config-wxt.xml* ファイルを「Connect – Mobile」、「Connect – Tablet」、「Business Communicator – PC」デバイス プロファイルに追加します。設定ファイルは、デバイス プロファイルごとに存在する必要があります。

最新の構成ファイル バージョンにアクセスするには、https://software.cisco.com/download/home/286326302/type から [デバイス管理] を選択し、クライアント バージョンに対応する RI 日付を選択し、DTAF アーカイブをダウンロードしてください。

> **注1：** テンプレートを最新版の Webex アプリケーションに合わせて維持することを強くお勧めします。 設定テンプレートに大幅な変更が加えられることがあります。Webex アプリケーションは一定期間下位互換性を持つように設計されていますが、構成テンプレートを最新に保つことが重要です。そのため、タイムリーに更新する**必要**があります。**6 か月以上** 前の設定テンプレートで Webex アプリケーションを利用すると、機能が失われる可能性があります。 サポートされているセットアップとみなされる必要はありません。

注意2: Cisco BroadWorks 版 Webex は UC-One と同じデバイス プロファイルを使用しているため、簡単に展開できます。

5.5 設定ファイル (config-wxt.xml)

_WXT サフィックスを持つ新しいカスタム タグは、レガシークライアントから新しい Webex for Cisco BroadWorks 構成の展開を区別するために使用されます。ただし、UC-One と Webex の間で共有される一部の (システム) タグはまだあります。

一部の Cisco BroadWorks システム カスタム タグは、*config-wxt.xml* 構成ファイルでも使用されます。次の各タグの詳細については、「*5.7 Cisco BroadWorks 動的組み込みシステム タグ*」を参照してください。

- %BWNETWORK-CONFERENCE-SIPURI-n%
- %BWVOICE-PORTAL-NUMBER-n%
- %BWLINEPORT-n%
- %BWAUTHUSER-n%
- %BWAUTHPASSWORD-n%
- %BWE164-n%
- %BWHOST-n%
- %BWNAME-n%
- %BWEXTENSION-n%
- %BWAPPEARANCE-LABEL-n%
- %BWDISPLAYNAMELINEPORT%
- %BWLINEPORT-PRIMARY%
- %BWE911-PRIMARY-HELDURL%
- %BWE911-CUSTOMERID%
- %BWE911-SECRETKEY%
- %BWE911-EMERGENCY-NUMBER-LIST%
- %BW-MEMBERTYPE-n%
- %BWUSEREXTID-n%
- %BWGROUP-CALL-PICKUP-BOOL-n%" (Webex Calling only)

5.6 システム デフォルト タグ

システム管理者として、*System →Resources →Device Management Tag Sets* オプションを通じて、システム・デフォルト・タグにアクセスできます。VoIP Callingパッケージのインストール時には、以下のSystem Defaultタグをプロビジョニングする必要があります。

タグ	説明
%SBC_ADDRESS_WXT%	これは、ネットワークに配備されているセッションボーダーコントローラー（SBC）の完全修飾ドメイン名（FQDN）またはIPアドレスとして設定する必要があります。 例: sbc.yourdomain.com
%SBC_PORT_WXT%	SBC_ADDRESS_WXT が IP アドレスの場合、このパラメータには SBC ポートを設定する。 SBC_ADDRESS_WXT が FQDN の場合は、未設定のままでよい。 例: 5075

5.7 Cisco BroadWorks 動的組み込みシステム タグ

デフォルトのシステム タグと定義する必要があるカスタム タグに加えて、通常使用され、推奨されるデバイス タイプ アーカイブ ファイル（DTAF）の一部である既存の Cisco BroadWorks システム タグがあります。これらのタグはこのセクションに記載されている。インストールされているソリューション・パッケージによっては、すべてのシステム・タグが使用されるわけではありません。

タグ	説明
%BWNETWORK-CONFERENCE-SIPURI-n%	これは N-Way 会議を有効にするために使用されるサーバー URI です。
%BWVOICE-PORTAL-NUMBER-n%	この番号はボイスメールに使用されます。クライアントは、ボイスメールを取得するときにこの番号をダイヤルします。
%BWLINEPORT-n%	登録などで、SIP シグナリングに使用される SIP ユーザー名。
%BWHOST-n%	これは、ユーザーに割り当てられたデバイスのプロビジョニングされたラインポートのドメイン部分である。 ユーザーのプロフィールから取得されます。 通常は SIP ドメインとして使用されます。
%BWAUTHUSER-n%	これは認証ユーザー名である。 加入者に認証が割り当てられている場合、デバイス・タイプで選択された認証モードに関係なく、これは「認証」ページでプロビジョニングされたユーザー ID になります。 通常、401 および 407 シグナリングで使用される SIP ユーザ名。デフォルトの SIP ユーザー名とは異なる場合があります。

タグ	説明
%BWAUTHPASSWORD-n%	これはユーザーの認証パスワードです。サブスクライバに認証が割り当てられている場合、これは、デバイス タイプの選択した認証モード値に関係なく、[認証] ページでプロビジョニングされたパスワードです。 SIP シグナリングで使用される SIP パスワード。
%BWE164-n%	このタグは、国際形式でユーザーの電話番号を提供します。
%BWNAME-n%	これは、ユーザー・プロフィールにある加入者の姓と名です。姓と名は連結される。 複数行構成の場合、行ラベルが設定されておらず、かつ空でなければ、行セレクタの行の表示名として使用される。
%BWEXTENSION-n%	加入者の内線番号は、ユーザーのプロファイルに設定された内線番号から取得される。 内線がプロビジョニングされていない場合、タグは加入者の電話番号（DN）に置き換えられる。
%BWAPPEARANCE-LABEL-n%	これが設定されたライン・ラベルである。空でない場合、行名として使用される。
%BWDISPLAYNAMELINEPORT%	共有回線（Shared Call Appearance）とは異なり、最初の専用回線の回線/ポートです。 これは、ユーザーに割り当てられたデバイスでプロビジョニングされた回線ポートです。これはユーザーのプロファイルから取得されます。 ユーザーの主回線を識別するために使用される。
%BWLINEPORT-PRIMARY%	プライマリ回線ポートは、ユーザに割り当てられているデバイスでプロビジョニングされます。このタグには、プロビジョニングされたラインポートのドメイン部分は含まれない。ユーザーのプロフィールから取得されます。
%BWE911-PRIMARY-HELDURL%	HELDプロトコルをサポートするRedSky緊急位置情報プラットフォームのURLを指定します。
%BWE911-CUSTOMERID%	RedSky HTTPS リクエストで使用される顧客 ID (HeldOrgId、CompanyID)。
%BWE911-SECRETKEY%	RedSky HTTPS リクエストを認証するためのシークレット。

タグ	説明
%BWE911-EMERGENCY-NUMBER-LIST%	RedSkyがサポートする緊急電話番号のリスト。 このタグを使用するには、デバイス タイプで使用されるタグセットに %RESERVEDBW911-EMERGENCY-NUMBER-LIST% 予約済みカスタム タグを追加する必要があります。reserved」タグには、BroadWorksの AS_CLI/System/CallP/CallTypes >で定義されている緊急番号を、911、0911、933のようなカンマ区切りの形式で含める必要があります。 **注：** Webex クライアントは、緊急番号のワイルドカードをサポートしません。したがって、正確な緊急番号のみを「予約済み」カスタムタグに追加する必要があります。 次の例は、予約されたタグ機能の使い方の例を示しています。 1) ネイティブタグ %BWE911-EMERGENCY-NUMBER-LIST% がデバイスのテンプレート ファイルに追加されます 2) 予約済みカスタムタグ %RESERVEDBW911-EMERGENCY-NUMBER-LIST% は、値を持つデバイスで使用されるタグセットに追加されます 911, 0911, 933 3) ファイルを再構築すると、%RESERVEDBW911-EMERGENCY-NUMBER-LIST% のネイティブ タグが 911、0911、933 に解決されます。
%BW-MEMBERTYPE-n%	これは各行のタイプである。仮想プロファイル」、「ユーザー」、「場所」のいずれかになります。
%BWUSEREXTID-n%	これは指定された回線の外部 ID です (Webex Calling のみ)
%BWGROUP-CALL-PICKUP-BOOL-n%"	対応する回線にコール ピックアップ グループが設定されているかどうかを示します。(Webex Calling のみ)

6 カスタムタグ

このセクションでは、Cisco BroadWorks 版 Webex で使用されるカスタム タグについて説明します。これは、デスクトップとモバイル/タブレットの両方のプラットフォームで使用されるすべてのカスタムタグを一覧表示します。

ただし、このセクションで説明されているいくつかの設定は、クライアントの特定のリリースでのみサポートされていることに注意してください。ある設定が古いバージョンのクライアントに適用されないかどうかを判断するには、該当するリリース固有のコンフィギュレーション・ガイドを参照してください。

タグ	デスクトップで使用	モバイル/タブレットで使用	既定値	セクション
%ENABLE_REJECT_WITH_486_WXT%	はい	はい	true	*6.1.16 着信通話拒否の動作*
%REJECT_WITH_XSI_MODE_WXT%	いいえ	はい	decline_false	*6.3.2 コールのプッシュ通知*
%REJECT_WITH_XSI_DECLINE_REASON_WXT%	いいえ	はい	通話中	*6.3.2 コールのプッシュ通知*
%ENABLE_TRANSFER_CALLS_WXT%	はい	Y	false	*6.1.20 転送*
%ENABLE_CONFERENCE_CALLS_WXT%	はい	Y	false	*6.1.21 N 方向電話会議*
%ENABLE_NWAY_PARTICIPANT_LIST_WXT%	はい	Y	false	*6.1.21 N 方向電話会議*
%MAX_CONF_PARTIES_WXT%	はい	はい	10	*6.1.21 N 方向電話会議*
%ENABLE_CALL_STATISTICS_WXT%	はい	Y	false	*6.1.24 通話統計*
%ENABLE_CALL_PULL_WXT%	はい	Y	false	*6.1.22 コール* プル
%PN_FOR_CALLS_CONNECT_SIP_ON_ACCEPT_WXT%	いいえ	Y	false	*6.3.2 コールのプッシュ通知*
%ENABLE_VOICE_MAIL_TRANSCRIPTION_WXT%	はい	Y	false	*6.1.28 Webex Calling のボイスメールの文字起こし*

タグ	デスクトップで使用	モバイル/タブレットで使用	既定値	セクション
%ENABLE_MWI_WXT%	はい	Y	false	*6.1.27 ボイスメール、ビジュアルボイスメール、メッセージ待機インジケータ*
%MWI_MODE_WXT%	はい	はい	空	*6.1.27 ボイスメール、ビジュアルボイスメール、メッセージ待機インジケータ*
%ENABLE_VOICE_MAIL_WXT%	はい	Y	false	*6.1.27 ボイスメール、ビジュアルボイスメール、メッセージ待機インジケータ*
%ENABLE_VISUAL_VOICE_MAIL_WXT%	はい	Y	false	*6.1.27 ボイスメール、ビジュアルボイスメール、メッセージ待機インジケータ*
%ENABLE_FORCED_LOGOUT_WXT%	はい	いいえ	false	*6.2.1* 強制ログアウト
%FORCED_LOGOUT_APPID_WXT%	はい	いいえ	空	*6.2.1* 強制ログアウト
%ENABLE_CALL_FORWARDING_ALWAYS_WXT%	はい	Y	false	*6.1.29.1 無条件転送*
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_WXT%	はい	Y	false	*6.1.29.3 BroadWorks Anywhere*
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_DESCRIPTION_WXT%	はい	はい	true	*6.1.29.3 BroadWorks Anywhere*
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_ALERT_ALL_LOCATIONS_WXT%	はい	Y	false	*6.1.29.3 BroadWorks Anywhere*
%BROADWORKS_ANYWHERE_ALERT_ALL_LOCATIONS_DEFAULT_WXT%	はい	Y	false	*6.1.29.3 BroadWorks Anywhere*
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_CALL_CONTROL_WXT%	はい	Y	false	*6.1.29.3 BroadWorks Anywhere*

タグ	デスクトップで使用	モバイル/タブレットで使用	既定値	セクション
%BROADWORKS_ANYWHERE_CALL_CONTROL_DEFAULT_WXT%	はい	Y	false	*6.1.29.3 BroadWorks Anywhere*
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_DIVERSION_INHIBITOR_WXT%	はい	Y	false	*6.1.29.3 BroadWorks Anywhere*
%BROADWORKS_ANYWHERE_DIVERSION_INHIBITOR_DEFAULT_WXT%	はい	Y	false	*6.1.29.3 BroadWorks Anywhere*
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_ANSWER_CONFIRMATION_WXT%	はい	Y	false	*6.1.29.3 BroadWorks Anywhere*
%BROADWORKS_ANYWHERE_ANSWER_CONFIRMATION_DEFAULT_WXT%	はい	Y	false	*6.1.29.3 BroadWorks Anywhere*
%ENABLE_EMERGENCY_DIALING_WXT%	いいえ	Y	false	*6.3.1 緊急コール*
%EMERGENCY_DIALING_NUMBERS_WXT%	いいえ	はい	911, 112	*6.3.1 緊急コール*
%ENABLE_USE_RPORT_WXT%	はい	Y	false	*6.1.14 NAT トラバーサルの* SIP rport 管理
%RPORT_USE_LOCAL_PORT_WXT%	はい	Y	false	*6.1.14 NAT トラバーサルの* SIP rport 管理
%USE_TLS_WXT%	はい	Y	false	*6.1.2 SIP Over TLS および Secure Real-time Transport Protocol*
%SBC_ADDRESS_WXT%	はい	はい	空	*5.6 システム デフォルト* タグ
%SBC_PORT_WXT%	はい	はい	5060	*5.6 システム デフォルト* タグ
%USE_PROXY_DISCOVERY_WXT%	はい	Y	false	*6.1.6 ダイナミック* SIP プロキシ検出
%USE_TCP_FROM_DNS_WXT%	はい	はい	true	*6.1.6 ダイナミック* SIP プロキシ検出

タグ	デスクトップで使用	モバイル/タブレットで使用	既定値	セクション
%USE_UDP_FROM_DNS_WXT%	はい	はい	true	*6.1.6 ダイナミック* SIP プロキシ検出
%USE_TLS_FROM_DNS_WXT%	はい	はい	true	*6.1.6 ダイナミック* SIP プロキシ検出
%DOMAIN_OVERRIDE_WXT%	はい	はい	空	*6.1.6 ダイナミック* SIP プロキシ検出
%PROXY_DISCOVERY_ENABLE_BACKUP_SERVICE_WXT%	はい	はい	true	*6.1.6 ダイナミック* SIP プロキシ検出
%PROXY_DISCOVERY_ENABLE_SRV_BACKUP_WXT%	はい	はい	true	*6.1.6 ダイナミック* SIP プロキシ検出
%PROXY_DISCOVERY_BYPASS_OS_CACHE_WXT%	Y (Windows のみ)	いいえ	false	*6.1.6 ダイナミック* SIP プロキシ検出
%SIP_TRANSPORTS_TCP_CONNECT_TIMEOUT_WXT%	はい	はい	5000	*6.1.5 SIP ソケットを開くための設定可能なタイムアウト*
%SIP_TRANSPORTS_TLS_CONNECT_TIMEOUT_WXT%	はい	はい	10000	*6.1.5 SIP ソケットを開くための設定可能なタイムアウト*
%SOURCE_PORT_WXT%	はい	はい	5060	*6.1.7 SIP* の優先ポート使用量
%SIP_FAILBACK_ENABLED_WXT%	はい	いいえ	true	*6.1.8.2 SIP* フェールバック
%SIP_FAILBACK_TIMEOUT_WXT%	はい	いいえ	900	*6.1.8.2 SIP* フェールバック
%SIP_FAILBACK_USE_RANDOM_FACTOR_WXT%	はい	いいえ	false	*6.1.8.2 SIP* フェールバック
%SIP_TRANSPORTS_ENFORCE_IP_VERSION_WXT%	はい	はい	DNS	*6.1.8.3.IPバージョンの強制*
%USE_ALTERNATIVE_IDENTITIES_WXT%	はい	Y	false	*6.1.10 登録で* P-Associated-URI を使用する
%TCP_SIZE_THRESHOLD_WXT%	はい	はい	18000	*6.1.4 TCP、TLS、UDP* の使用およびキープアライブを強制する

タグ	デスクトップで使用	モバイル/タブレットで使用	既定値	セクション
%SIP_REFRESH_ON_TTL_WXT%	はい	いいえ	false	*6.1.8.4 DNS TTL* 管理
%ENABLE_SIP_UPDATE_SUPPORT_WXT%	はい	Y	false	*6.1.12 SIP 更新のサポート*
%ENABLE_PEM_SUPPORT_WXT%	はい	Y	false	*6.1.11 SIP P-Early Media（PEM）ヘッダー*
%ENABLE_SIP_SESSION_ID_WXT%	はい	Y	false	*6.1.15 SIP* セッション ID
%ENABLE_FORCE_SIP_INFO_FIR_WXT%	はい	Y	false	*6.1.13 レガシー SIP INFO* FIR
%SRTP_ENABLED_WXT%	はい	Y	false	*6.1.2 SIP Over TLS および Secure Real-time Transport Protocol*
%SRTP_MODE_WXT%	はい	Y	false	*6.1.2 SIP Over TLS および Secure Real-time Transport Protocol*
%ENABLE_REKEYING_WXT%	はい	はい	true	*6.1.2 SIP Over TLS および Secure Real-time Transport Protocol*
%RTP_AUDIO_PORT_RANGE_START_WXT%	はい	はい	8000	*6.1.17 リアルタイム* トランスポート プロトコル ポート範囲
%RTP_AUDIO_PORT_RANGE_END_WXT%	はい	はい	8099	*6.1.17 リアルタイム* トランスポート プロトコル ポート範囲
%RTP_VIDEO_PORT_RANGE_START_WXT%	はい	はい	8100	*6.1.17 リアルタイム* トランスポート プロトコル ポート範囲
%RTP_VIDEO_PORT_RANGE_END_WXT%	はい	はい	8199	*6.1.17 リアルタイム* トランスポート プロトコル ポート範囲
%ENABLE_RTCP_MUX_WXT%	はい	はい	true	*6.1.19 RTCP MUX*

%ENABLE_XSI_EVENT_CHANNEL_WXT%	はい	はい	true	*6.1.32.3 XSI 動的プロキシ検出* Webex アプリは XSP の XSI (XSI-Actions & XSI-Events) およびデバイス管理サービス (DMS) サービスにアクセスします。XSI サービス ホストを検索するために、Webex アプリは _xsi-client._tcp.. の DNS SRV ルックアップを実行します。SRV は、XSP ホストまたは XSI サービスのロードバランサに設定された URL を指します。SRV ルックアップが利用できない場合、Webex アプリは A/AAAA ルックアップにフォールバックします。 クライアントが、以下の DNS フローを使用して XSP ノードの検索を試みます。 ▪ Webex アプリは最初に Cisco Webex Cloud から Xsi-Actions/Xsi-Events URL を取得します (関連する BroadWorks Calling クラスタを作成するときに入力されます)。XSI ホスト名/ドメインは URL から解析され、クライアントは次のようにして SRV ルックアップを実行します。

				○ Webex アプリは _xsi-client._tcp. の SRV ルックアップを実行します ○ SRV ルックアップが 1 つ以上のターゲットを返した場合: ▪ Webex アプリは XSI ホスト名の A/AAAA ルックアップを行い、有効な IP アドレスである場合、XSI ホスト名がキャッシュされたリストの背面にバックアップ サービスとして追加されます。 ▪ クライアントは、SRV の優先順位、重み付けに基づいてターゲットの 1 つに接続します

				（またはすべてが等しい場合はランダムに）。 ○ SRV ルックアップがターゲットを返さなかった場合: ▪ Webex アプリは、Root XSI パラメータの A/AAAA ルックアップを行います。有効な IP アドレスであれば、これはキャッシュされたリストに追加された唯一のアドレスです。具体的には、負荷を分散するエッジ要素や XSP サーバー自身などが考えられます。 ▪ A/AAAA レコードは、同じ理由で 1 つ

				の IP アドレスに解決する必要があります。 ▪ カスタム XSI-Actions/XSI-Events パスは、前のセクションの説明に従って、DMS 設定ファイルで設定できます。 ○ 最初の XSI ルートまたはアクション パスに差異がある場合、クライアントは XSI アクション/XSI Events の接続を再初期化します。この最初のステップは、ステップ1にリストされている同じ DNS ルックアップ プロセスを実行することです。今回は、設定ファイルから %XSI_ROOT_WXT% パラメータの値のルックアップを要求します。 ○ 注意: このタグを使用して XSI インターフェイスを変更する

				場合は、必ず対応する SRV レコードを作成してください。 Webex アプリには、XSI プロキシ検出を制御するための設定可能なオプションもあります。XSI プロキシ検出モードは、XSI 通信に使用される、メイン XSI ホスト名（SRV ルックアップに使用される）と/または DNS SRV 解決済みの XSI ターゲットの組み合わせを制御するために使用できます。構成ファイルをダウンロードするために、Webex アプリは最初に *srv-host* モードを使用します。構成ファイルがダウンロードされると、構成されたプロキシ検出のモード が適用されます。プロキシ検出のモード は、次のいずれかを実行できます。 ▪ *ホストのみ* - メイン XSI ホスト名のみを使用し、DNS SRV ルックアップをトリガーしないでください ▪ *srv-only* - メイン XSI ホスト名を使用せず、DNS SRV ルックアップのみに依存します ▪ *prefer-srv* - DNS SRV レコードが見つかった場合は、それ

				らのみを使用してください。そうでない場合は、メイン XSI ホスト名のみを使用してください ▪ *srv-host* - (デフォルト) DNS SRV レコードが見つかった場合は、優先順位を付けて、リストの最後にメイン XSI ホスト名をバックアップサービスとして追加します。そうでない場合は、メイン XSI ホスト名を使用します DMS 構成ファイルのダウンロード後: ▪ 空の XSI ルートがある場合、またはメイン XSI ホスト名と同じ値で、プロキシ検出モードが *srv-host* と異なる場合: ○ *ホストのみ* - 結果の XSI ターゲットを更新し、メイン XSI ホスト名のみを残します ○ *srv-only* - 結果の XSI ターゲットを更新し、SRV アドレスのみを残します ○ *prefer-srv* - アドレスが 1 つだけの場合、メインの XSI ホスト

名である必要があります。他にもある場合、メイン XSI ホスト名はリストから削除されます

- XSI ルートが空ではなく、その値がメイン XSI ホスト名とは異なる場合:
  - XSI ルート値を使用して新しい DNS ルックアップ プロセスを実行
  - 設定されたプロキシ検出モードに従って DNS 結果を注文する
  - XSI アクションと XSI Events の接続を再初期化

```
<config>
<protocols><xsi>
   <proxy-discovery
mode="%XSI_PROXY_DISCOVERY_MO
DE_WXT%"/>
```

タグ	省略デフォルト
%XSI_PROXY_DISCOVERY_MODE_WXT%	srv ト

タグ	デスクトップで使用	モバイル/タブレットで使用	既定値	セクション
				XSI イベント チャネル

%CHANNEL_HEARTBEAT_WXT%	はい	はい	10000	*6.1.32.3 XSI 動的プロキシ検出* Webex アプリは XSP の XSI (XSI-Actions & XSI-Events) およびデバイス管理サービス (DMS) サービスにアクセスします。XSI サービス ホストを検索するために、Webex アプリは _xsi-client._tcp.. の DNS SRV ルックアップを実行します。SRV は、XSP ホストまたは XSI サービスのロードバランサに設定された URL を指します。SRV ルックアップが利用できない場合、Webex アプリは A/AAAA ルックアップにフォールバックします。 クライアントが、以下の DNS フローを使用して XSP ノードの検索を試みます。 ▪ Webex アプリは最初に Cisco Webex Cloud から Xsi-Actions/Xsi-Events URL を取得します (関連する BroadWorks Calling クラスタを作成するときに入力されます)。XSI ホスト名/ドメインは URL から解析され、クライアントは次のようにして SRV ルックアップを実行します。

				○ Webex アプリは _xsi-client._tcp. の SRV ルックアップを実行します ○ SRV ルックアップが 1 つ以上のターゲットを返した場合: ▪ Webex アプリは XSI ホスト名の A/AAAA ルックアップを行い、有効な IP アドレスである場合、XSI ホスト名がキャッシュされたリストの背面にバックアップ サービスとして追加されます。 ▪ クライアントは、SRV の優先順位、重み付けに基づいてターゲットの 1 つに接続します

				（またはすべてが等しい場合はランダムに）。 ○ SRV ルックアップがターゲットを返さなかった場合: ▪ Webex アプリは、Root XSI パラメータの A/AAAA ルックアップを行います。有効な IP アドレスであれば、これはキャッシュされたリストに追加された唯一のアドレスです。具体的には、負荷を分散するエッジ要素や XSP サーバー自身などが考えられます。 ▪ A/AAAA レコードは、同じ理由で 1 つ

				の IP アドレスに解決する必要があります。 ▪ カスタム XSI-Actions/XSI-Events パスは、前のセクションの説明に従って、DMS 設定ファイルで設定できます。 ○ 最初の XSI ルートまたはアクション パスに差異がある場合、クライアントは XSI アクション/XSI Events の接続を再初期化します。この最初のステップは、ステップ1にリストされている同じ DNS ルックアップ プロセスを実行することです。今回は、設定ファイルから %XSI_ROOT_WXT% パラメータの値のルックアップを要求します。 ○ 注意: このタグを使用して XSI インターフェイスを変更する

				場合は、必ず対応する SRV レコードを作成してください。 Webex アプリには、XSI プロキシ検出を制御するための設定可能なオプションもあります。XSI プロキシ検出モードは、XSI 通信に使用される、メイン XSI ホスト名（SRV ルックアップに使用される）と/または DNS SRV 解決済みの XSI ターゲットの組み合わせを制御するために使用できます。構成ファイルをダウンロードするために、Webex アプリは最初に *srv-host* モードを使用します。構成ファイルがダウンロードされると、構成されたプロキシ検出のモード が適用されます。プロキシ検出のモード は、次のいずれかを実行できます。 ▪ *ホストのみ* - メイン XSI ホスト名のみを使用し、DNS SRV ルックアップをトリガーしないでください ▪ *srv-only* - メイン XSI ホスト名を使用せず、DNS SRV ルックアップのみに依存します ▪ *prefer-srv* - DNS SRV レコードが見つかった場合は、それ

				らのみを使用してください。そうでない場合は、メイン XSI ホスト名のみを使用してください ▪ *srv-host* - (デフォルト) DNS SRV レコードが見つかった場合は、優先順位を付けて、リストの最後にメイン XSI ホスト名をバックアップサービスとして追加します。そうでない場合は、メイン XSI ホスト名を使用します DMS 構成ファイルのダウンロード後: ▪ 空の XSI ルートがある場合、またはメイン XSI ホスト名と同じ値で、プロキシ検出モードが *srv-host* と異なる場合: ○ *ホストのみ* - 結果の XSI ターゲットを更新し、メイン XSI ホスト名のみを残します ○ *srv-only* - 結果の XSI ターゲットを更新し、SRV アドレスのみを残します ○ *prefer-srv* - アドレスが 1 つだけの場合、メインの XSI ホスト

名である必要があります。他にもある場合、メイン XSI ホスト名はリストから削除されます

- XSI ルートが空ではなく、その値がメイン XSI ホスト名とは異なる場合:
  - XSI ルート値を使用して新しい DNS ルックアップ プロセスを実行
  - 設定されたプロキシ検出モードに従って DNS 結果を注文する
  - XSI アクションと XSI Events の接続を再初期化

```
<config>
<protocols><xsi>
   <proxy-discovery
mode="%XSI_PROXY_DISCOVERY_MO
DE_WXT%"/>
```

タグ	省略デフォルト
%XSI_PROXY_DISCOVERY_MODE_WXT%	srv ト

タグ	デスクトップで使用	モバイル/タブレットで使用	既定値	セクション
				XSI イベント チャネル
%XSI_ROOT_WXT%	はい	はい	空（元のURLを使用）	*6.1.32.1 Xtended Services Interface (XSI)* ルートとパス
%XSI_ACTIONS_PATH_WXT%	はい	はい	/com.broadsoft.xsi-actions/を参照してください。	*6.1.32.1 Xtended Services Interface (XSI)* ルートとパス
%XSI_EVENTS_PATH_WXT%	はい	はい	/com.broadsoft.xsi-events/（英語	*6.1.32.1 Xtended Services Interface (XSI)* ルートとパス
%ENABLE_CALLS_AUTO_RECOVERY_WXT%	はい	Y	false	*6.1.25 コール自動リカバリ* /シームレスなコールハンドバー
%EMERGENCY_CALL_DIAL_SEQUENCE_WXT%	いいえ	はい	csのみ	*6.3.1 緊急コール*
%ENABLE_CALL_PICKUP_BLIND_WXT%	はい	いいえ	false	*6.2.2 通話ピックアップ*
%ENABLE_CALL_PICKUP_DIRECTED_WXT%	はい	いいえ	false	*6.2.2 通話ピックアップ*
%WEB_CALL_SETTINGS_URL_WXT%	はい	はい	空	*6.1.30 設定ポータル* および Web ベースの通話設定
%USER_PORTAL_SETTINGS_URL_WXT%	はい	はい	空	*6.1.30 設定ポータル* および Web ベースの通話設定
%ENABLE_CALL_CENTER_WXT%	はい	Y	false	*6.1.31 コール センター/コール キューのログイン*/ログアウト
%WEB_CALL_SETTINGS_TARGET_WXT%	はい	はい	外部	*6.1.30 設定ポータル* および Web ベースの通話設定
%WEB_CALL_SETTINGS_CFA_VISIBLE_WXT%	はい	はい	true	*6.1.30 設定ポータル* および Web ベースの通話設定

タグ	デスクトップで使用	モバイル/タブレットで使用	既定値	セクション
%WEB_CALL_SETTINGS_DND_VISIBLE_WXT%	はい	はい	true	*6.1.30 設定ポータル* および Web ベースの通話設定
%WEB_CALL_SETTINGS_ACR_VISIBLE_WXT%	はい	はい	true	*6.1.30 設定ポータル* および Web ベースの通話設定
%WEB_CALL_SETTINGS_CFB_VISIBLE_WXT%	はい	はい	true	*6.1.30 設定ポータル* および Web ベースの通話設定
%WEB_CALL_SETTINGS_CFNR_VISIBLE_WXT%	はい	はい	true	*6.1.30 設定ポータル* および Web ベースの通話設定
%WEB_CALL_SETTINGS_CFNA_VISIBLE_WXT%	はい	はい	true	*6.1.30 設定ポータル* および Web ベースの通話設定
%WEB_CALL_SETTINGS_SIMRING_VISIBLE_WXT%	はい	はい	true	*6.1.30 設定ポータル* および Web ベースの通話設定
%WEB_CALL_SETTINGS_SEQRING_VISIBLE_WXT%	はい	はい	true	*6.1.30 設定ポータル* および Web ベースの通話設定
%WEB_CALL_SETTINGS_RO_VISIBLE_WXT%	はい	はい	true	*6.1.30 設定ポータル* および Web ベースの通話設定
%WEB_CALL_SETTINGS_ACB_VISIBLE_WXT%	はい	はい	true	*6.1.30 設定ポータル* および Web ベースの通話設定
%WEB_CALL_SETTINGS_CW_VISIBLE_WXT%	はい	はい	true	*6.1.30 設定ポータル* および Web ベースの通話設定
%WEB_CALL_SETTINGS_CLIDB_VISIBLE_WXT%	はい	はい	true	*6.1.30 設定ポータル* および Web ベースの通話設定
%WEB_CALL_SETTINGS_PA_VISIBLE_WXT%	はい	はい	true	*6.1.30 設定ポータル* および Web ベースの通話設定
%WEB_CALL_SETTINGS_BWA_VISIBLE_WXT%	はい	はい	true	*6.1.30 設定ポータル* および Web ベースの通話設定
%WEB_CALL_SETTINGS_CC_VISIBLE_WXT%	はい	はい	true	*6.1.30 設定ポータル* および Web ベースの通話設定
%WEB_CALL_SETTINGS_BWM_VISIBLE_WXT%	はい	はい	true	*6.1.30 設定ポータル* および Web ベースの通話設定

タグ	デスクトップで使用	モバイル/タブレットで使用	既定値	セクション
%WEB_CALL_SETTINGS_VM_VISIBLE_WXT%	はい	はい	true	*6.1.30 設定ポータル* および Web ベースの通話設定
%USE_MEDIASEC_WXT%	はい	Y	false	*6.1.3 SRTP の* 3GPP SIP ヘッダー
%ENABLE_DIALING_CALL_BACK_WXT%	いいえ	Y	false	*6.3.4 クリックしてダイヤル* (コールバック)
%DIALING_CALL_BACK_TIMER_WXT%	いいえ	はい	10	*6.3.4 クリックしてダイヤル* (コールバック)
%ENABLE_EXECUTIVE_ASSISTANT_WXT%	はい	いいえ	false	*6.2.3 Boss-Admin (エグゼクティブ-アシスタント) のサポート*
%PN_FOR_CALLS_RING_TIMEOUT_SECONDS_WXT%	いいえ	はい	35	*6.3.2 コールのプッシュ通知*
%ENABLE_CALL_RECORDING_WXT%	はい	Y	false	*6.1.26 通話録音*
%ENABLE_SINGLE_ALERTING_WXT%	いいえ	Y	false	*6.3.3 単一アラート*
%ENABLE_CALL_PARK_WXT%	はい	Y	false	*6.1.23 コールパーク/保留解除*
%CALL_PARK_AUTO_CLOSE_DIALOG_TIMER_WXT%	はい	はい	10	*6.1.23 コールパーク/保留解除*
%ENABLE_RTP_ICE_WXT%	はい	Y	false	*6.1.18 ICE サポート (Webex Calling のみ)*
%RTP_ICE_MODE_WXT%	はい	はい	アイススン	*6.1.18 ICE サポート (Webex Calling のみ)*
%RTP_ICE_SERVICE_URI_WXT%	はい	はい	空	*6.1.18 ICE サポート (Webex Calling のみ)*
%RTP_ICE_PORT_WXT%	はい	はい	3478	*6.1.18 ICE サポート (Webex Calling のみ)*
%ENABLE_RTP_ICE_IPV6_WXT%	はい	Y	false	*6.1.18 ICE サポート (Webex Calling のみ)*

タグ	デスクトップで使用	モバイル/タブレットで使用	既定値	セクション
%SIP_REFRESH_ON_TTL_USE_RANDOM_FACTOR_WXT%	はい	いいえ	false	*6.1.8.4 DNS TTL* 管理
%ENABLE_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT%	はい	いいえ	false	*6.2.4 SIP* 通話をミーティングにエスカレーションする
%ENABLE_DESKPHONE_CONTROL_AUTO_ANSWER_WXT%	はい	いいえ	false	*6.2.5 卓上電話制御通話 - 自動応答*
%ENABLE_DIALING_VOIP_WXT%	いいえ	はい	true	*6.3.5 MNO サポート* *ネイティブダイヤラーによる通話*
%ENABLE_DIALING_NATIVE_WXT%	いいえ	Y	false	*6.3.5 MNO サポート* *ネイティブダイヤラーによる通話*
%SIP_URI_DIALING_ENABLE_LOCUS_CALLING_WXT%	はい	はい	true	*6.1.34 SIP-URI ダイヤル*
%ENABLE_SIP_VIDEOCALLS_WXT%	はい	はい	true	*6.1.36 ビデオ通話を無効にする*
%ENABLE_LOCUS_VIDEOCALLS_WXT%	はい	はい	true	*6.1.36 ビデオ通話を無効にする*
%VIDEOCALLS_ANSWER_WITH_VIDEO_ON_DEFAULT_WXT%	はい	はい	デスクトップ - true モバイル、タブレット - false	*6.1.36 ビデオ通話を無効にする*
%EMERGENCY_DIALING_ENABLE_REDSKY_WXT%	Y	モバイル – N タブレット – Y	false	*6.1.36<1 37="1" /> 緊急 (911) 通話 - E911 プロバイダーによるロケーション レポート6.1.37*緊急（911）通話:E911 プロバイダーによるロケーションレポート
%EMERGENCY_REDSKY_USER_REMINDER_TIMEOUT_WXT%	Y	モバイル – N タブレット – Y	0	*6.1.36<1 37="1" /> 緊急 (911) 通話 - E911 プロバイダーによるロケーション レポート6.1.37*緊急（911）通話:E911 プロバイダーによるロケーションレポート

タグ	デスクトップで使用	モバイル/タブレットで使用	既定値	セクション
%EMERGENCY_REDSKY_USER_MANDATORY_LOCATION_WXT%	Y	モバイル – N タブレット – Y	-1	*6.1.36<1 37="1" /> 緊急 (911) 通話 - E911 プロバイダーによるロケーション レポート6.1.37*緊急（911）通話:E911 プロバイダーによるロケーションレポート
%EMERGENCY_REDSKY_USER_LOCATION_PROMPTING_WXT%	Y	モバイル – N タブレット – Y	once_per_login	*6.1.36<1 37="1" /> 緊急 (911) 通話 - E911 プロバイダーによるロケーション レポート6.1.37*緊急（911）通話:E911 プロバイダーによるロケーションレポート
%ENABLE_AUTO_ANSWER_WXT%	はい	いいえ	false	*6.2.6 トーン通知による自動応答*
%ENABLE_CALLS_SPAM_INDICATION_WXT%	はい	Y	false	*6.1.40 スパムコール通知*
%ENABLE_NOISE_REMOVAL_WXT%	はい	Y	false	*6.1.41 PSTN/モバイル*コールのノイズ除去と帯域幅拡張
%ENABLE_AUDIO_MARI_FEC_WXT%	はい	Y	false	*6.1.45.2 転送エラー修正 (FEC) とパケット再送信 (RTX)*
%ENABLE_AUDIO_MARI_RTX_WXT%	はい	Y	false	*6.1.45.2 転送エラー修正 (FEC) とパケット再送信 (RTX)*
%ENABLE_VIDEO_MARI_FEC_WXT%	はい	Y	false	*6.1.45.2 転送エラー修正 (FEC) とパケット再送信 (RTX)*
%ENABLE_VIDEO_MARI_RTX_WXT%	はい	Y	false	*6.1.45.2 転送エラー修正 (FEC) とパケット再送信 (RTX)*
%ENABLE_CALL_BLOCK_WXT%	はい	Y	false	*6.1.44 ブロック リスト (Webex Calling のみ)*
%ENABLE_WIDGET_HOLD_CALLS_WXT%	いいえ	はい	true	*6.3.5.6 MNO モビリティ -* 通話中のウィジェット
%ENABLE_WIDGET_TRANSFER_CALLS_WXT%	いいえ	はい	true	*6.3.5.6 MNO モビリティ -* 通話中のウィジェット
%ENABLE_WIDGET_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT%	いいえ	はい	true	*6.3.5.6 MNO モビリティ -* 通話中のウィジェット

タグ	デスクトップで使用	モバイル/タブレットで使用	既定値	セクション
%ENABLE_SIMULTANEOUS_CALLS_WITH_SAME_USER_WXT%	はい	Y	false	*6.1.46 同じユーザーとの同時通話*
%ENABLE_REMOTE_MUTE_CONTROL_WXT%	はい	いいえ	false	*6.2.11 リモート ミュート コントロール イベント パッケージ (Webex Calling* のみ)
%ENABLE_VOICE_MAIL_FORWARDING_WXT%	はい	はい	true	*6.1.29.2 ボイスメールへの通話転送*
%SIP_REGISTER_FAILOVER_REGISTRATION_CLEANUP_WXT%	はい	はい	true	*6.1.8.1 SIP* フェールオーバー
%ENABLE_CALL_MOVE_HERE_WXT%	はい	いいえ	false	*6.2.12 通話を移動*
%ENABLE_SPEECH_ENHANCEMENTS_WXT%	はい	Y	false	*6.1.41 PSTN/モバイル* コールのノイズ除去と帯域幅拡張
%DIALING_NATIVE_FAC_PREFIX_WXT%	いいえ	はい	空	*6.3.5.1 ネイティブダイヤラーによる通話*
%ENABLE_TRANSFER_AUTO_HOLD_WXT%	はい	Y	false	*6.1.20 転送*
%ENABLE_RTCP_XR_NEGOTIATION_WXT%	はい	はい	true	*6.1.47 RTCP-XR*
%ENABLE_CLID_INCOMING_CALLS_APPEND_NUMBER_WXT%	いいえ	Y	false	*6.3.6 着信発信者 ID*
%ENABLE_CLID_MISSED_CALLS_APPEND_NUMBER_WXT%	いいえ	Y	false	*6.3.6 着信発信者 ID*
%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_WXT%	いいえ	Y	false	*6.1.49.1 発信者 ID*
%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_ADDITIONAL_NUMBERS_WXT%	いいえ	Y	false	*6.1.49.1 発信者 ID*

タグ	デスクトップで使用	モバイル/タブレットで使用	既定値	セクション
%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_CALL_CENTER_WXT%	いいえ	Y	false	*6.1.49.1 発信者 ID*
%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_HUNT_GROUP_WXT%	いいえ	Y	false	*6.1.49.1 発信者 ID*
%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_DELIVERY_BLOCKING_WXT%	いいえ	Y	false	*6.1.49.1 発信者 ID*
%ENABLE_CALL_FORWARDING_INFO_CALLS_WXT%	はい	Y	false	*6.1.48 着信転送情報*
%ENABLE_BUSY_LAMP_FIELD_WXT%	はい	いいえ	false	*6.2.8.1 ビジー* ランプ フィールド
%ENABLE_BLF_DISPLAY_CALLER_WXT%	はい	いいえ	true	*6.2.8.1 ビジー* ランプ フィールド
%BLF_NOTIFICATION_DELAY_TIME_WXT%	はい	いいえ	0	*6.2.8.1 ビジー* ランプ フィールド
%ENABLE_GCP_NOTIFICATIONS_WXT%	はい	いいえ	false	*6.2.8.2 コール ピックアップ グループ (Webex Calling のみ)*
%ENABLE_GCP_DISPLAY_CALLER_WXT%	はい	いいえ	false	*6.2.8.2 コール ピックアップ グループ (Webex Calling のみ)*
%GCP_NOTIFICATION_MAX_TIMEOUT_VALUE_WXT%	はい	いいえ	120	*6.2.8.2 コール ピックアップ グループ (Webex Calling のみ)*
%UDP_KEEPALIVE_ENABLED_WXT%	はい	はい	true	*6.1.4 TCP、TLS、UDP* の使用およびキープアライブを強制する
%TCP_KEEPALIVE_ENABLED_WXT%	はい	Y	false	*6.1.4 TCP、TLS、UDP* の使用およびキープアライブを強制する
%TLS_KEEPALIVE_ENABLED_WXT%	はい	Y	false	*6.1.4 TCP、TLS、UDP* の使用およびキープアライブを強制する
%ENABLE_MULTI_LINE_WXT%	はい	Y	false	*6.1.50 複数回線*

タグ	デスクトップで使用	モバイル/タブレットで使用	既定値	セクション
%ENABLE_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT%	いいえ	Y	false	*6.2.4 SIP 通話をミーティングにエスカレーションする (Webex Calling)*
%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_MOBILITY_WXT%	いいえ	Y	false	*6.3.5.36.3.5.3 発信通話回線アイデンティティ（CLID）*
%CLID_REMOTE_NAME_MACHINE_MODE_WXT%	はい	はい	解決済み	*6.1.49.2 リモート発信者 ID 名*
%PERSONAL_ASSISTANT_ENABLED_WXT%	はい	Y	false	*6.1.52 パーソナル アシスタント* (退席中)
%PN_FOR_CALLS_DELIVERY_MODE_WXT%	いいえ	はい	NPS	*配信モード (Webex Calling のみ)*
%ENABLE_ENHANCED_AUTHORIZATION_WXT%	はい	Y	false	*6.1.51*
%ENABLE_CONFERENCE_DROP_TWO_PARTY_CONFERENCE_WXT%	はい	Y	false	*6.1.21 N 方向電話会議*
%CALL_PULL_MODE_WXT%	はい	はい	ブラインド	*6.1.22 コール* プル
%CALL_PULL_DEFAULT_ACTIVE_MOVE_OPTION_WXT%	はい	いいえ	例 1 call_move() の例	*6.1.22 コール* プル
%ENABLE_UNIFIED_CALL_HISTORY_WXT%	はい	Y	false	*6.1.35 通話履歴*
%ENABLE_EMERGENCY_LOCATION_WXT%	Y	モバイル – N タブレット – Y	false	
%EMERGENCY_LOCATION_USER_REMINDER_TIMEOUT_WXT%	Y	モバイル – N タブレット – Y	0	

タグ	デスクトップで使用	モバイル/タブレットで使用	既定値	セクション
%EMERGENCY_LOCATION_USER_MANDATORY_LOCATION_WXT%	Y	モバイル – N タブレット – Y	-1	
%EMERGENCY_LOCATION_USER_LOCATION_PROMPTING_WXT%	Y	モバイル – N タブレット – Y	once_per_login	
%ENABLE_CALLS_E2EE_WXT %	Y	Y	false	*6.1.53 エンドツーエンド暗号化 (Webex Calling のみ)*

%CHANNEL_INACTIVITY_TIMEOUT_WXT%	はい	はい	60000	*6.1.32.3 XSI 動的プロキシ検出* Webex アプリは XSP の XSI (XSI-Actions & XSI-Events) およびデバイス管理サービス (DMS) サービスにアクセスします。XSI サービス ホストを検索するために、Webex アプリは _xsi-client._tcp.. の DNS SRV ルックアップを実行します。SRV は、XSP ホストまたは XSI サービスのロードバランサに設定された URL を指します。SRV ルックアップが利用できない場合、Webex アプリは A/AAAA ルックアップにフォールバックします。 クライアントが、以下の DNS フローを使用して XSP ノードの検索を試みます。 ▪ Webex アプリは最初に Cisco Webex Cloud から Xsi-Actions/Xsi-Events URL を取得します (関連する BroadWorks Calling クラスタを作成するときに入力されます)。XSI ホスト名/ドメインは URL から解析され、クライアントは次のようにして SRV ルックアップを実行します。

				○ Webex アプリは _xsi-client._tcp. の SRV ルックアップを実行します ○ SRV ルックアップが 1 つ以上のターゲットを返した場合: ▪ Webex アプリは XSI ホスト名の A/AAAA ルックアップを行い、有効な IP アドレスである場合、XSI ホスト名がキャッシュされたリストの背面にバックアップ サービスとして追加されます。 ▪ クライアントは、SRV の優先順位、重み付けに基づいてターゲットの 1 つに接続します

				（またはすべてが等しい場合はランダムに）。 ○ SRV ルックアップがターゲットを返さなかった場合: ▪ Webex アプリは、Root XSI パラメータの A/AAAA ルックアップを行います。有効な IP アドレスであれば、これはキャッシュされたリストに追加された唯一のアドレスです。具体的には、負荷を分散するエッジ要素や XSP サーバー自身などが考えられます。 ▪ A/AAAA レコードは、同じ理由で 1 つ

				の IP アドレスに解決する必要があります。 ▪ カスタム XSI-Actions/XSI-Events パスは、前のセクションの説明に従って、DMS 設定ファイルで設定できます。 ○ 最初の XSI ルートまたはアクション パスに差異がある場合、クライアントは XSI アクション/XSI Events の接続を再初期化します。この最初のステップは、ステップ1にリストされている同じ DNS ルックアップ プロセスを実行することです。今回は、設定ファイルから %XSI_ROOT_WXT% パラメータの値のルックアップを要求します。 ○ 注意: このタグを使用して XSI インターフェイスを変更する

				場合は、必ず対応する SRV レコードを作成してください。 Webex アプリには、XSI プロキシ検出を制御するための設定可能なオプションもあります。XSI プロキシ検出モードは、XSI 通信に使用される、メイン XSI ホスト名（SRV ルックアップに使用される）と/または DNS SRV 解決済みの XSI ターゲットの組み合わせを制御するために使用できます。構成ファイルをダウンロードするために、Webex アプリは最初に *srv-host* モードを使用します。構成ファイルがダウンロードされると、構成されたプロキシ検出のモード が適用されます。プロキシ検出のモード は、次のいずれかを実行できます。 ▪ *ホストのみ* - メイン XSI ホスト名のみを使用し、DNS SRV ルックアップをトリガーしないでください ▪ *srv-only* - メイン XSI ホスト名を使用せず、DNS SRV ルックアップのみに依存します ▪ *prefer-srv* - DNS SRV レコードが見つかった場合は、それ

				らのみを使用してください。そうでない場合は、メイン XSI ホスト名のみを使用してください ▪ *srv-host* - (デフォルト) DNS SRV レコードが見つかった場合は、優先順位を付けて、リストの最後にメイン XSI ホスト名をバックアップサービスとして追加します。そうでない場合は、メイン XSI ホスト名を使用します DMS 構成ファイルのダウンロード後: ▪ 空の XSI ルートがある場合、またはメイン XSI ホスト名と同じ値で、プロキシ検出モードが *srv-host* と異なる場合: ○ *ホストのみ* - 結果の XSI ターゲットを更新し、メイン XSI ホスト名のみを残します ○ *srv-only* - 結果の XSI ターゲットを更新し、SRV アドレスのみを残します ○ *prefer-srv* - アドレスが 1 つだけの場合、メインの XSI ホスト

名である必要があります。他にもある場合、メイン XSI ホスト名はリストから削除されます

- XSI ルートが空ではなく、その値がメイン XSI ホスト名とは異なる場合:
  - XSI ルート値を使用して新しい DNS ルックアップ プロセスを実行
  - 設定されたプロキシ検出モードに従って DNS 結果を注文する
  - XSI アクションと XSI Events の接続を再初期化

```
<config>
<protocols><xsi>
   <proxy-discovery
mode="%XSI_PROXY_DISCOVERY_MO
DE_WXT%"/>
```

タグ	省略デフォルト
%XSI_PROXY_DISCOVERY_MODE_WXT%	srv ト

タグ	デスクトップで使用	モバイル/タブレットで使用	既定値	セクション
				XSI イベント チャネル

Cisco BroadWorks 版 Webex で使用されるカスタム タグを UC-One で使用されるものにマッピングする方法の詳細については、「*8 Cisco BroadWorks 版 Webex と UC-One 間のカスタム タグ マッピング*」を参照してください。

6.1 共通の特徴

6.1.1 SIPサーバー設定

クライアントは一般的に SIP ネットワークを使用するように設定されており、これは *config-wxt.xml* ファイルを変更することによって行われます。通常、以下のパラメータを変更する必要がある：

- SIP ドメイン。これは、一般的にSIPヘッダーおよびリモート(XSI)呼において、自 分のSIP URI(自分のSIP URIはラインポートとも呼ばれることがある)のドメイン部 分として使用される。独自の SIP URI のユーザ部分は、SIP クレデンシャル設定（ のパラメータ）から取得されます。
- DNS解決に失敗した場合のSIPサーバーのURIまたはSIPプロキシサーバーのIPアドレス。TLS を使用するには、TLS 証明書の検証が失敗するため、プロキシパラメータで IP アドレスを使用することはできません。プロキシ ポートの詳細については、DM タグ %SOURCE_PORT_WXT% を参照してください。プロキシアドレスパラメータにIPアドレスが使用されている場合、DNS TTL管理機能は使用できないことに注意してください。一般的に、これらの理由から、このフィールドにIPアドレスを使用することは推奨されない。

その他のパラメーターも変更可能で、通話に関するさまざまな機能を有効にすることができる。ただし、以前の設定により、以下の基本的な機能は使用できる：

- SIPネットワークに登録する。
- 音声通話やビデオ通話をする
- DNSベースのプロキシディスカバリーを行い、複数のプロキシを使用できるようにする。

SIP登録が有効になったら、MWIのSIP SUBSCRIBEを有効にするには、別の構成パラメータを使用する必要がある。ボイスメールの詳細については、セクション *6.1.27 ボイスメール、ビジュアルボイスメール、メッセージ待機インジケータ* を参照してください。

SIPコールが無効になっている場合でも、MWIには常にSIPの基本設定が必要であることに注意。MWIはSIP NOTIFYに依存している。

SIPサーバーのセットアップは、この基本スキームに従う：

- プロキシアドレスはSIPサーバーのURIを含む。
- 定義できるプロキシは1つだけである。
- DNSプロキシディスカバリーは、DNSの適切なセットアップを必要とする多くのプロキシをサポートする。

さらに、SIPタイマーはコンフィギュレーション・ファイルで公開されている（変更することは推奨されない）。

```
<config>
<protocols>
<sip>
   <timers>
      <T1>500</T1>
      <T2>4000</T2>
      <T4>5000</T4>
   </timers>
```

- T1 - ネットワークの往復遅延時間（ミリ秒単位）。
- T2 - 非招待リクエストと招待応答を再送するまでの最大時間(ミリ秒単位)。
- T4 - メッセージがネットワークに残る最大時間（ミリ秒単位）。

各回線は、ボイスメール番号、会議URI、ドメイン、およびSIP認証資格情報のような独自のパラメータを持っています。必要であれば、401および407シグナリング用に別の認証情報を設定することができる。

以下の例と表は、SIP設定に使用される最も典型的なDMタグに関する情報である。

```
<config>
<protocols><sip>
<lines multi-line-enabled="%ENABLE_MULTI_LINE_WXT%">
       <line>
              <label>%BWAPPEARANCE-LABEL-1%</label>
              <name>%BWNAME-1%</name>
              <phone-number>%BWE164-1%</phone-number>
              <extension>%BWEXTENSION-1%</extension>
              <external-id>%BWUSEREXTID-1%</external-id>
              <voice-mail-number>%BWVOICE-PORTAL-NUMBER-1%</voice-mail-number>
              <conference-service-uri>sip:%BWNETWORK-CONFERENCE-SIPURI-
1%</conference-service-uri>
              <domain>%BWHOST-1%</domain>
              <group-call-pickup>%BWGROUP-CALL-PICKUP-BOOL-1%</group-call-pickup>
              <credentials>
                     <username>%BWLINEPORT-1%</username>
                     <password>%BWAUTHPASSWORD-1%</password>
                     <auth>
                            <auth401>
                                   <default>
                                          <username>%BWAUTHUSER-1%</username>
                                          <password>%BWAUTHPASSWORD-1%</password>
                                   </default>
                                   <realm id="%BWHOST-1%">
                                          <username>%BWAUTHUSER-1%</username>
                                          <password>%BWAUTHPASSWORD-1%</password>
                                   </realm>
                            </auth401>
                            <auth407>
                                   <default>
                                          <username>%BWAUTHUSER-1%</username>
                                          <password>%BWAUTHPASSWORD-1%</password>
                                   </default>
                                   <realm id="%BWHOST-1%">
```

```
                                        <username>%BWAUTHUSER-1%</username>
                                        <password>%BWAUTHPASSWORD-1%</password>
                                    </realm>
                                </auth407>
                            </auth>
                        </credentials>
                    </line>
                    …
</lines>
<proxy address="%SBC_ADDRESS_WXT%" port="%SBC_PORT_WXT%" />
<preferred-port>%SOURCE_PORT_WXT%</preferred-port>
```

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%BWLINEPORT-n%	空	文字列	通常はSIPユーザー名。 詳細については、「*5.7 Cisco BroadWorks 動的組み込みシステム タグ*」を参照してください。 例: ジョンドゥ
%BWAUTHPASSWORD-n%	空	文字列	通常はSIPパスワード。 詳細については、「*5.7 Cisco BroadWorks 動的組み込みシステム タグ*」を参照してください。 例: 秘密パスワード
%BWE164-n%	空	電話番号	国際フォーマットでのユーザーのデフォルト電話番号。 詳細については、「*5.7 Cisco BroadWorks 動的組み込みシステム タグ*」を参照してください。 例: 12345678
%SBC_ADDRESS_WXT%	空	文字列	詳細については、「*5.6 システム* デフォルト タグ」を参照してください。 例: sbcexample.domain.com
%SBC_PORT_WXT%	5060	1 つの電話番号	詳細については、「*5.6 システム* デフォルト タグ」を参照してください。 例: 5060
%BWHOST-n%	空	文字列	通常は SIP ドメインとして使用されます。 詳細については、「*5.7 Cisco BroadWorks 動的組み込みシステム タグ*」を参照してください。 例: exampledomain.com

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%SOURCE_PORT_WXT%	5060	1 つの電話番号	通常、*preferred-port* パラメーターに使用される。 詳細については、セクション*6.1.7 SIP の優先ポート使用量* を参照のこと。 例: 5061
%BWUSEREXTID-n%	空	文字列	（Webex Calling のみ）回線の外部 ID を保留します 詳細については、*6.1.50 複数回線* を参照してください。 例: 30f69bf7-710b-4cd0-ab4b-35ab393a1709

注: モバイル端末で標準 SIP ポート (5060) を使用する際に発生する既知の問題のため、SIP ポートを 5060 以外 (5075 など) にすることが強く推奨されています。

6.1.2 SIP Over TLS および Secure Real-time Transport Protocol

クライアントは、TLS上のSIPシグナリングと、メディア暗号化のためのSRTP（Secure Real-time Transport Protocol）を使用するように設定できる。ただし、これらの機能は、以下の例に示すように、コンフィギュレーションで有効にする必要があります。動的 SIP プロキシ検出が使用される場合、DNS SRV 優先順位はこのようなスタティック パラメータ (%USE_TLS_WXT%) を上書きし、DNS SRV で優先順位が高い場合は、非 TLS 転送が使用されます。動的SIPプロキシ検出の詳細については、セクション *6.1.6 ダイナミック* SIP プロキシ検出 *を参照。*

動的プロキシ発見が使用されていない場合、SIPのTLSを有効にすると、それが使用される。

SIP ALG がネットワークで使用される SIP ポートとトランスポート プロトコルの推奨事項の詳細については、『*Cisco BroadWorks 版 Webex ソリューション ガイド*』を参照してください。

使用する証明書は有効なものでなければならない。さらに、中間証明書もリンクされるように、証明書チェーンは無傷でなければならない。広く使われている証明書を採用し、デフォルトでデバイスにすでに存在するようにすることが推奨される。手動またはバルク・プロビジョニングを使用して、デスクトップ・マシンのローカルに証明書を追加することも可能だが、これは通常行われない。

メディア暗号化に関連するSRTPを有効にするには、別の設定があります。

RTPに加えて、RTCPトラフィックも、前述のコンフィギュレーションを使用して、 RTPと同じメカニズムで保護することができる。

SIP/TLS暗号については、*別紙A: TLS 暗号化.*

SRTPは、3つの異なる側面からメディアストリームのセキュリティを提供 するために使用される：

- 機密性（データは暗号化される）
- 認証（相手または当事者の身元保証）
- 完全性（リプレイ攻撃などへの対策）

メディア・フレームワークの現在のバージョンは、保護にAES 128 Counter Modeを、認証にHMAC（Hash Message Authentication Code）-SHA-1をサポートしている。マスターキーのサイズは16バイト、マスターソルトは14バイトである。

メディア・フレームワークは、フル（80ビット）認証タグとショート（32ビット）認証タグの両方をサポートしている。クライアントは、SIPシグナリングの一環として、SDP内でキーを交換する。

SRTPは、以下の例に示す構成を使用して有効にできる。現在の実装では、SDPセキュアRTPプロファイルのみを使用し、Audio Visual Profile (AVP)とSecure Audio Visual Profile (SAVP)エントリのマルチラインSDPに対応している。SRTPの実装は、さまざまなSBCを使用して、通常の配備構成で正常にテス トされている。AVP プロファイルを使用した暗号化のみをサポートするエンドポイントとの相互運用性テスト (IOT) はサポートされない。

SRTPに関連するマルチラインSDP手順が実装されているため、常に複数のmライ ンが使用される。AVPとSAVPには別々のm線が使われている。

特に、SDPのRTP/SAVPに関連付け られている着信「m=」行が削除されていないことを確認する必要がある。

SBCがメディアトラフィックに関与しない展開もあれば、SBCに向 かう各クライアントのRTPメディアレッグが個別に暗号化され、SBCを介してネゴシ エートされる展開もある。SBCが複数のSDP回線を許可しない場合もある。

SBCは、呼セットアップ時にSDPのm行の順序を変更し、AVP (非暗号化)またはSAVP (暗号化)のm行を最初にすることもできる。したがって、最初に動作するM回線を選択したクライアントは、暗号化されたトラフィックまたは暗号化されていないトラフィックのいずれかを好むようになる。SRTPの各種設定オプションを以下に示す：

- 必須 - 呼のセットアップ時、最初のSDPにはオファー時にSAVPのm行のみが含まれ、 クライアントは応答時にSDPのSAVP m行のみを受け入れるため、SRTP呼のみが可 能になる。
- 優先 - 呼のセットアップ時に、最初のSDPにはAVPとSAVPのm行が含まれるが、オ ファリング時にはSAVPが最初になり、優先順位が示される。応答時、クライアントは、最初のmラインでなくても、利用可能であればSAVPを選択する(SIPの仕様では、応答時にmラインの順序は変更されない)。
- オプション - 通話セットアップ時、最初の SDP は提供時に SAVP と AVP の両方を含みますが、AVP は最初に優先順位を示します。応答時、クライアントは最初のmライン、AVPまたはSAVPを選択する。

- SRTPが有効になっていない - オファー時の最初のSDPにSAVP m-lineがない。応答時、SAVPは受け付けられないため、RTP通話のみが可能である。
- トランスポート - トランスポートプロトコルに基づいてSRTPモードを自動的に選択する。TLSを使用する場合、必須のSRTPモードが有効になる。TCPまたはUDPが使用される場合、SRTPは使用されない。

SRTP対RTPは、呼の双方向で対称である。つまり、送信プロファイルと受信プ ロファイルは同じである。

```
<config>
<protocols><sip>
<secure>%USE_TLS_WXT%</secure>
```

```
<config>
<protocols><rtp>
<secure enabled="%SRTP_ENABLED_WXT%" mode="%SRTP_MODE_WXT%" rekey-
always="%ENABLE_REKEYING_WXT%"/>
```

SRTPが有効になっている場合、Secure Real-Time Control Protocol (SRTCP)も使用される。

一部のデプロイメントでは、SRTPのリキーはサポートされていない。そのため、SRTPリキーを有効/無効にする設定パラメータがある。ただし、rfc3264に従って更新されたSDPを受信した場合、新しいキーは常に 使用される。設定可能なのは、新しい鍵を送信するときだけである。

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%USE_TLS_WXT%	false	true、false	false "に設定すると、SIP TLSは無効になる。 「true」に設定すると、SIP TLS が有効になります。 *6.1.6 ダイナミック SIP プロキシ検出* を使用する場合、このパラメータは無視されることに注意。
%SRTP_ENABLED_WXT%	false	true、false	「false」に設定すると、SRTP は非アクティブになります。 「true」に設定すると、SRTP がアクティブになります。
%SRTP_MODE_WXT%	オプション	必須、優先、オプション、輸送	呼セットアップ時のSRTPの優先度を定義する。 デフォルト値は "optional "である。
%ENABLE_REKEYING_WXT%	true	true、false	SRTPのSIP (SDP)リキーを有効にする。

注意: ICE サポートが有効になっている場合 (*6.1.18 ICE サポート (Webex Calling* のみ))、再キーは常に実行されます (設定から %ENABLE_REKEYING_WXT% の値は無視されます)。

6.1.3 SRTP の 3GPP SIP ヘッダー

新しい3GPP仕様では、セキュアリアルタイムトランスポートプロトコル(SRTP) を使用するために、追加のSIPヘッダーが必要である。詳細については、*3GPP TS 24.229* および以下を参照のこと：

https://tools.ietf.org/html/draft-dawes-dispatch-mediasec-parameter-07

この仕様で必要とされるヘッダーは、この仕様が使用されない配備では、 SIP呼を壊すかもしれない。したがって、これらのヘッダーはサーバー側がサポートしている環境でのみ使用することが推奨される。

ヘッダーの使用を有効にすることのみ設定可能。個々のヘッダーについては、これ以上の設定はできない。すべてのヘッダーは有効か無効のどちらかである。

```
<config>
<protocols><sip>
<use-mediasec enabled="%USE_MEDIASEC_WXT%"/>
```

次のタグはこの機能を制御する。

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%USE_MEDIASEC_WXT%	false	true、false	SRTPネゴシエーションの3GPP SIPヘッダーを有効にする。

6.1.4 TCP、TLS、UDP の使用およびキープアライブを強制する

Cisco BroadWorks 版 Webex クライアントは、SIP シグナリングと RTP メディアの両方に TCP、TLS、または UDP のいずれかを使用するように設定できます。クライアントのデフォルトはTCPであることに注意。TCPキープアライブを使用しない場合、SIP TCPコネクションは一定期間 アクティブでないとクローズされることにも注意すること。

次の例はこのコンフィギュレーション・ノードを示している。

```
<config>
<protocols><sip>
<transports>
    <tcp-size-threshold>%TCP_SIZE_THRESHOLD_WXT%</tcp-size-threshold>
```

以下のタグは、クライアントがTCPとUDPのどちらを使用するかを制御する。

タグ	省略時のデフォルト	サポートされる値 (バイト)	説明
%TCP_SIZE_THRESHOLD_WXT%	0	0	TCPを強制的に使用する。クライアントにTCPを使うかUDPを使うかはサービス・プロバイダー次第だが、デフォルト値「0」のTCPを使うことを推奨する。

	0	1 - 99,000	メッセージ・サイズがここで指定した値以下の場合、UDPを強制的に使用する。 メッセージ・サイズが設定値より大きい場合、デフォルトはTCPになる。UDPを使用する場合、1500がデフォルトの推奨値である。
	0	100000	UDP の使用を強制します。

同じコンフィギュレーション・ノードには、UDP、TCP、TLSキープアライブのパラメーターもある。

```
<config>
<protocols><sip>
<transports>
        …
        <udp>
                <keepalive enabled="%UDP_KEEPALIVE_ENABLED_WXT%">
                        <timeout>20</timeout>
                        <payload>crlf</payload>
                </keepalive>
        </udp>
        <tcp>
                <keepalive enabled="%TCP_KEEPALIVE_ENABLED_WXT%">
                        <timeout>0</timeout>
                        <payload></payload>
                </keepalive>
        </tcp>
        <tls>
                <keepalive enabled="%TLS_KEEPALIVE_ENABLED_WXT%">
                        <timeout>0</timeout>
                        <payload></payload>
                </keepalive>
        </tls>
</transports>
```

可能なパラメータは以下の通り：

- TCPまたはTLSのキープアライブを有効にする。設定可能な値 - true/false、デフォルトはノードが存在しない場合の「false」。この機能を有効にすると、UDPトランスポートがSIPに使用されている場合でも、 TCPキープアライブが送られることに注意すること。
- UDP キープアライブを有効にし、可能な値 true/false を有効にします。ノードが見つからない場合は、デフォルトは “true” です。この機能が有効になっている場合、TCP トランスポートが SIP に使用されていても UDP キープアライブが送信されることに注意してください。さらに、TCPがSIPに使用されている場合でも、*RFC 3261* に従って、クライアントはUDP経由のトラフィックも受け入れる。
- Timeoutは、キープアライブ・メッセージが送信されるまでの最大非アクティブ時間を秒単位で指定する。値がない場合は、そのプロトコルでキープアライブが無効になっていることを意味する。

- キープアライブメッセージのペイロード：
  - Crlf
  - Null (使用しない)
  - カスタム文字列 (は使用不可)

キープアライブは、NATトラバーサルの目的で使用され、余分なトラフィックをほとんど発生させずにNATバインディングをオープンにしておくことができる。

キープアライブのためのサーバーIPアドレスとポートは、SIPプロキシ発見の ための通常の手順を使用して決定される。SIPの動的プロキシディスカバリーを介して得たSIPポートとトランスポートプ ロトコルの選択は、いかなる静的ポートまたはトランスポート設定よりも 優先されることに注意すること。動的プロキシ検出の詳細については、「*6.1.6 ダイナミック SIP プロキシ検出*」を参照してください。

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%UDP_KEEPALIVE_ENABLED_WXT%	true	true、false	UDPトランスポートに対してキープアライブパケットを送るかどうかを制御する。
%TCP_KEEPALIVE_ENABLED_WXT%	false	true、false	TCP トランスポート用にキープアライブパケットを送信するかどうかを制御します。
%TLS_KEEPALIVE_ENABLED_WXT%	false	true、false	TLS トランスポート用のキープアライブパケットを送信するかどうかを制御します。

6.1.5 SIP ソケットを開くための設定可能なタイムアウト

以前は、SIPソケットを開くタイムアウトは、TCPでは5秒、TLSでは10秒にハードコードされていた。これらのタイムアウトは設定できるようになった。

```
<config>
    <protocols>
        <sip>
            <transports>
                <udp>
                    …
                </udp>
                <tcp>
                    …
                    <connect-
timeout>%SIP_TRANSPORTS_TCP_CONNECT_TIMEOUT_WXT%</connect-timeout>
                </tcp>
                <tls>
                    <connect-
timeout>%SIP_TRANSPORTS_TLS_CONNECT_TIMEOUT_WXT%</connect-timeout>
```

```
            </tcp>
        </transports>
```

以下のタグはソケット接続のタイムアウトを制御する(ミリ秒単位)。

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%SIP_TRANSPORTS_TCP_CONNECT_TIMEOUT_WXT%	5000	- タイムアウト (ミリ秒単位)	TCPトランスポートを使用する場合のソケット接続タイムアウト。
%SIP_TRANSPORTS_TLS_CONNECT_TIMEOUT_WXT%	10000	- タイムアウト (ミリ秒単位)	TLS トランスポートが使用されている場合のソケット接続のタイムアウトです。

6.1.6 ダイナミック SIP プロキシ検出

SIPダイナミックプロキシ発見機能を有効にするには、以下の例を参照のこと。

```
<config>
<protocols><sip>
<proxy-discovery enabled="%USE_PROXY_DISCOVERY_WXT%" tcp="%USE_TCP_FROM_DNS_WXT%"
udp="%USE_UDP_FROM_DNS_WXT%" tls="%USE_TLS_FROM_DNS_WXT%">
    <record-name>%SBC_ADDRESS_WXT%</record-name>
    <domain-override>%DOMAIN_OVERRIDE_WXT%</domain-override>
</proxy-discovery>
```

多くのDNS SRVエントリが利用可能な場合、このセクションで提供される手順に従って、 DNS SRVからどのトランスポートプロトコルエントリを使用するかを制御することが 可能である。

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%USE_PROXY_DISCOVERY_WXT%	false	true、false	音声およびビデオ通話の動的SIPプロキシ検出を有効にします。 推奨値は "true "である。
%SBC_ADDRESS_WXT%	空	文字列	この Cisco BroadWorks タグは、通常、record-name パラメータに使用されます。有効なURLでなければならず、IPアドレスであってはならない。 詳細については、「*5.6 システム* デフォルト タグ」を参照してください。 例: sbc.domain.com
%DOMAIN_OVERRIDE_WXT%	空	文字列	このカスタム・タグはドメイン・オーバーライドに使用される。詳細については、次のセクションを参照してください。 例: other.domain.com

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%USE_TCP_FROM_DNS_WXT%	true	true、false	このパラメータ値が「false」の場合、このトランスポートプロトコル (TCP)のDNS SRV結果は破棄される。 true "の場合、このトランスポートプロトコル (TCP)に対するDNS SRVの結果が使用される。SRVの優先順位によっては、別のトランスポートが選択されることもある。
%USE_UDP_FROM_DNS_WXT%	true	true、false	このパラメータ値が「false」の場合、このトランスポートプロトコル（UDP）の DNS SRV 結果が破棄されます。 「true」の場合、このトランスポートプロトコル（UDP）の DNS SRV の結果が使用されます。SRVの優先順位によっては、別のトランスポートが選択されることもある。
%USE_TLS_FROM_DNS_WXT%	true	true、false	このパラメータ値が「false」の場合、このトランスポートプロトコル（TLS）の DNS SRV 結果が破棄されます。 「true」の場合、このトランスポートプロトコル（TLS）の DNS の結果が使用されます。SRVの優先順位によっては、別のトランスポートが選択されることもある。
%PROXY_DISCOVERY_ENABLE_BACKUP_SERVICE_WXT%	true、false	true	DNSバックアップサービスの有効/無効を設定します。有効にすると、SIPプロキシアドレスに対してA/AAAの解決が行われる。SRV/NAPTRサービス発見が有効な場合にのみ考慮される。
%PROXY_DISCOVERY_ENABLE_SRV_BACKUP_WXT%	true、false	true	true」に設定され、NAPTRサービス発見が失敗するか結果を返さない場合、設定されたホストに対してSRVサービス発見が実行される。false "に設定すると、SRV探索は行われない。
%PROXY_DISCOVERY_BYPASS_OS_CACHE_WXT%	true、false	false	OSのDNSキャッシュをバイパスできるようにする。

DNSは、RFC 3263に従って、クライアントがSIPプロキシのIPアドレス、ポート、 およびトランスポートプロトコルを取得することを可能にする。

DNS SRV、Naming Authority Pointer （NAPTR）、A-recordクエリーがサポートされています。ログイン時の3ステップの流れは以下の通り：

1. 上記　フィールドを使用して NAPTR クエリを実行し、トランスポート プロトコルでサーバー URI を取得します。 パラメータの値は、DNS が解決する全ドメインである必要があり、IP アドレスにはできません。

2. SRVクエリを使用してNAPTRクエリで見つかった項目を解決し、最終的なサーバーURIとポートを取得する。SRVクエリで使用されるドメイン部分は、最終的なサーバーURI(とポート)を見つけるためのNAPTRクエリの結果から取得される。DNS SRVエントリーが利用可能な場合、DNS SRV-queryから受信したポートが使用される。このポートは、コンフィギュレーションファイルのスタティックプロキシにのみ 適用され、SRVを使って解決されたURIには適用されないことに注意。様々なレコード名の使い方については、以下の例を参照のこと。

   NAPTR が見つからない場合、クライアントは パラメータから取られたレコード名で パラメータが存在しない限り、 が使用され、TCP、UDP、および TLS (_sip_protocol [UDP、TCP、または TLS]) の個別のエントリを検索しようとします。なお、SCTP（Stream Control Transmission Protocol）には対応していない。SRVクエリが結果をもたらさない場合、プロキシの発見が失敗し、エンドユー ザーは、コールが利用できないことを示すエラーを提示される。この場合、SIP登録はない。However, even if all SRV queries fail or if the servers received there do not work, as a fallback, the client still checks if the configured static proxy works, only with A-queries to the URI specified in <proxy address> in order to see if it yields an IP address that provides a working SIP registration. この最後のリゾート ケースでのポートとトランスポートは、tcp-threshold および パラメータから取得されます。

3. 見つかったURIをAレコードクエリを使って解決する。受信された最終IPアドレスは、SIPプロキシへの動作する接続を得るために、 受信された順番で試行される。この順番は、サービスプロバイダーがDNSで定義することができる。Aレコードのルックアップに成功した最初のSIPプロキシURIが選択され、そ れが動作しなくなるかクライアントがログアウトするまで使用される。Aクエリーステップでは、多くのIPアドレスを受信しても、一度に使われるのは1つだけである。しかし、すべてのSRVエントリーは、ログアウトするかネットワークが切れるまで解決される。

重要 メモ

注意1: DNSプロキシ発見が、トランスポートプロトコルのための動作中のSIPプ ロキシURIを受け取ることによってSRVステップでのトランスポートプ ロトコル選択の結果になる場合、それは、コンフィギュレーションファイル でUDPまたはTCPを選択するために通常使用される*tcp-threshold* パラメータをオーバーライドする。SIP/TLSの設定も同様である。DNSの優先順位に応じて、TCPまたはUDPが使用される。

注意2: SRV経由で受信されたアイテムは、コンフィギュレーションファイルのスタティックプロキシよりも優先される。NAPTRの順番は考慮されず、SRVの優先順位のみがカウントされる。SRVの結果、トランスポートプロトコル、優先度、ウェイトが等しいアイテムが複数ある場合、受信したどれかがランダムに選択される。このリリースでは、NAPTRウェイトはサポートされていないが、SRVウェイトはサポートされている。SRVの優先順位が最初に調べられ、優先順位が同じ項目については、あるサーバーが次に試される可能性を決定するために重みが調べられる。

注3： オプションの *domain-override* パラメータは、NAPTR結果が省略されたときに、SIPドメイン設定パラメータにある もの以外のAレコード名がSRVで解決されることを可能にする。*domain-override* パラメータの使用法については、以下の例を参照のこと。

注4： クライアントはDNS操作にオペレーティングシステムのプリミティブを使用し、通常、DNS応答のTTLを尊重するためにDNS応答はキャッシュされる。

注5： NAPTRレコードのDNSタイプ（サービス）は、*RFC 3263*の手順に従わなければならない。そうでない場合、DNS解決に失敗することがある。例えば、SIP over TLSにはSIPS+D2Tを使用する必要がある。

注6： クライアントはNAPTRサービスの特定の接頭辞のみをサポートする。対応する接頭辞を以下に示す：

SIP+D2U -> _sip._udp

SIP+D2T -> _sip._tcp

SIPS+D2T -> _sips._tcp

SIPS+D2T ->_sips._tls

NAPTR応答がサービスタイプにマッチしない接頭辞を持つレコードを含む場合、このレコードは無視される。

例 1: ドメインオーバーライド設定パラメータを使用しないDNSプロキシ検出の使用

以下は、SIP over TCPのみが使用され、ステップ1のNAPTRクエリが結果を返す場合に、 SIPプロキシディスカバリを使用するコンフィギュレーションの例である。

```
<config>
<protocols><sip>
<proxy address="domain.com" port="5060"/>
<proxy-discovery enabled="true" >
    <record-name>record-domain.com</record-name>
     <domain-override>override-domain.com</domain-override>
</proxy-discovery>
<domain>sip-domain.com</domain>
```

この結果、プロトコル・レベルでは以下のステップになる。

```
1. NAPTR query for record-domain.com, answer:
record-domain.com.
28591 IN NAPTR 100 10 "S" "SIP+D2T" "" _sip._tcp.test.sip.record-domain.com.
2. SRV query for _sip._tcp.test.sip.record-domain.com (received in the NAPTR
query), answer
_sip._tcp.test.sip.record-domain.com. 28635 IN SRV
10 10 5061 test.sipgeo.record-domain.com.
3. A-record query for test.sipgeo.record-domain.com, answer:
test.sipgeo.record-domain.com. 16 IN A 1.2.3.4
```

その結果、SIP登録はポート5061(SRVステップで受信)を使用し、IPアドレス1.2.3.4に向けてTCP上で行われる。

例 2: 設定ファイルでdomain-overrideパラメータを使用する

以下は、SIPドメインがプロキシドメインと異なり、SIP over UDPのみが使用され、NAPTRクエリが結果を返さない、 SIPプロキシディスカバリを使用するコンフィギュレーションの2つ目の例である。

```
<config>
<protocols><sip
<proxy address="domain.com" port="5060"/>
<proxy-discovery enabled="true">
    <record-name>record-domain.com</record-name>
     <domain-override>override-domain.com</domain-override>
</proxy-discovery>
<domain>sip-domain.com</domain>
```

これにより、プロトコル レベルで次の手順が実行されます。

```
1. NAPTR query for record-domain.com, no answer.
2. SRV query for _sip._tcp.override-domain.com (from configuration file), answer
_sip._tcp.override-domain.com. 28635 IN SRV
10 10 5061 test.override-domain.com.
3. A-record query for test.override-domain.com, answer:
test.sipgeooverride-domain.com. 16 IN A 4.3.2.1
```

その結果、SIP 登録は、ポート 5061（SRV ステップで受信）を使用して、IP アドレス 4.3.2.1 に対して UDP 上で行われます。

例3: SRV優先順位の使用

以下は、SIP over TCP のみが使用され、ステップ 1 の NAPTR クエリが結果を返す場合の SIP プロキシ検出を使用した設定の別の例です。ただし、優先順位が異なる複数の NAPTR と SRV レコードを受信します。この場合、このリリースイベントではSRV優先度だけが問題となるが、優先度の異なる複数のNAPTRレコードも受信される。

```
<config>
<protocols><sip>
<proxy address="domain.com" port="5060"/>
<proxy-discovery enabled="true">
    <record-name>record-domain.com</record-name>
     <domain-override>override-domain.com</domain-override>
</proxy-discovery>
<domain>sip-domain.com</domain>
```

これにより、プロトコル レベルで次の手順が実行されます。

```
1. NAPTR query for record-domain.com, answer:
record-domain.com.
28591 IN NAPTR 100 10 "S" "SIPS+D2T" "" _sip._tcp.test.sip.record-domain.com.
28591 IN NAPTR 120 10 "S" "SIPS+D2U" "" _sip._udp.test.sip.record-domain.com.

2. SRV query for _sip._tcp.test.sip.record-domain.com (received in the NAPTR
query), answer
_sip._tcp.test.sip.record-domain.com. 28635 IN SRV
```

```
10 10 5061 test.sipgeo.record-domain.com.

SRV query for _sip._udp.test.sip.record-domain.com (received in the NAPTR query),
answer
_sip._udp.test.sip.record-domain.com. 28635 IN SRV
20 10 5062 test.sipgeo.record-domain.com.

3. A-record query for test.sipgeo.record-domain.com, answer:
test.sipgeo.record-domain.com. 16 IN A 1.2.3.4
```

その結果、SIP 登録は、ポート 5061（SRV ステップで受信）を使用して TCP を使用し、UDP と TCP の両方をサポートする IP アドレス 1.2.3.4 に対して行われます。

例4: サービスがサービスタイプに一致しない場合、NAPTRを使用したDNSプロキシ検出を使用する

以下は、TCP および TLS を介した SIP が使用され、ステップ 1 で NAPTR クエリが結果を返した場合の SIP プロキシ検出を使用した設定の例です。

```
<config>
<protocols><sip>
<proxy address="domain.com" port="5060"/>
<proxy-discovery enabled="true" tcp="true" udp="false" tls="true">
    <record-name>record-domain.com</record-name>
     <domain-override>override-domain.com</domain-override>
</proxy-discovery>
<domain>sip-domain.com</domain>
```

この結果、プロトコル・レベルでは以下のステップになる。

```
1. NAPTR query for record-domain.com, answer:
record-domain.com.
28591 IN NAPTR 100 10 "S" "SIPS+D2T" "" _sip._tls.test.sip.record-domain.com.
28591 IN NAPTR 100 10 "S" "SIP+D2T" "" _sip._tcp.test.sip.record-domain.com.

2. For the first record we have service type "SIPS+D2T" and the prefix is
"sip._tls.". Since this prefix doesn’t match the service type (see Note 6 above)
it will be ignored.

3. SRV query for _sip._tcp.test.sip.record-domain.com (received in the NAPTR
query), answer
_sip._tcp.test.sip.record-domain.com. 28635 IN SRV
10 10 5061 test.sipgeo.record-domain.com.

3. A-record query for test.sipgeo.record-domain.com, answer:
test.sipgeo.record-domain.com. 16 IN A 1.2.3.4
```

その結果、SIP登録はポート5061(SRVステップで受信)を使用し、IPアドレス1.2.3.4に向けてTCP上で行われる。

6.1.7 SIP の優先ポート使用量

クライアントと同じマシン上で別のソフトウェアパッケージが動作しており、デフォルトのSIPポートを使用している場合があります。SIPに別のポートを使うようにクライアントを設定するには、*preferred-port*パラメータを使うことができる。クライアントは、*preferred-port*パラメータで指定された設定されたポート値を使用しようとしますが、もしそれが取られた場合、クライアントは設定された値以上のポート値をインクリメンタルに試行します。例えば、*preferred-port*の値が "6000 "で、そのポートが使われた場合、クライアントは未使用のポートを見つけるまで、6001、6002、6003、と試行する。未使用のポートが見つかると、そのポートを自身のSIP通信に使用する。

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%SOURCE_PORT_WXT%	5060	1 つの電話番号	通信に優先するローカルSIPポートを指定する。 例: 5060

6.1.8 SIPフェイルオーバーとフェイルバック

SIP フェールオーバーとフェールバックは、Cisco BroadWorks の手順に従います。このためには、複数のプロキシ（通常はSBC）を設定する必要がある。

クライアント側では、プロキシは複数のIPアドレスに解決されなければならない。次のいずれかの方法でこれを実現できます。

- SIPプロキシディスカバリが有効になっており、DNSサーバーがSBCのFQDNに対してNAPTRレコードおよび/またはSRVレコードを持っている（セクション*6.1.6 ダイナミックSIP プロキシ検出*参照）。
- SIPプロキシアドレスはFQDNとして提供され、複数のIPアドレスに解決される（セクション*6.1.1 SIPサーバー設定*を参照）。

オペレーティングシステムのDNSキャッシュは、不必要なDNSトラフィックを避けるために使用される。リストに含まれるIPアドレスの最大数には、
、ハードコードされた制限はない。

サインイン時、複数のIPアドレスが解決された場合、優先順位順に並べられる。クライアントは最初に利用可能なIPアドレスを使用して開始する。

6.1.8.1 SIP フェールオーバー

SIPフェイルオーバーは、以下のように、ソケットエラー、リクエストタイムアウトエ ラー、またはサーバーからの確定的なエラー応答によってトリガーされる：

- ソケット・エラー - ネットワーク接続が切れた場合のように、クライアントとサーバー間のソケットが壊れたり閉じたりした場合、クライアントは即座に反応してフェイルオーバーをトリガーする。
- タイムアウト（例えば、SBC がハングしたとき） - SIP T1 に基づく：
  - SIP INVITE - INVITEリクエストがタイムアウトした場合、クライアントは次 の利用可能なSBC(IP)に登録し、INVITEを再試行する。
  - 別のSIPリクエスト - クライアントは次に利用可能なSBC(IP)に登録しようとする。
- サーバーから明確なエラー応答を受信した：
  - SIP REGISTERに対するサーバーからの以下のSIPエラー応答は、フェイルオーバーのトリガーとなる：
    - 5xx
    - 6xx
  - SIP REGISTERに対する以下のSIP*4xx* 応答は、 フェイルオーバーを引き起こさない：
    - 401 権限がありません
    - 403 Forbidden
    - 404 見つかりませんでした
    - 407 プロキシ認証が必要です
    - 423 インターバルが短すぎる
  - さらに、SIP INVITEに対する*4xx* エラー応答はフェイルオーバーをトリガーしないが、*5xx* と*6xx* はトリガーする。

フェイルオーバーがトリガーされると、クライアントはリストから次に利用可能なIPアドレスを取る。SIP T1タイマーは、リスト上のプロキシが次のプロキシに移る前に試行され る時間を定義する。通常、32秒の値が使用される(64*T1)。すべてのIPアドレスが失敗した場合、クライアントはSIP接続のためのユーザーインターフェイスエラーを表示する。フェイルオーバーが発生したときにVoIP通話が進行中であれば、通話は終了する。

SIPフェイルオーバーロジックは、いくつかの設定パラメータに依存する：

- SIPフェイルオーバー・タイマー - SIPタイマーT1、T2、T4はコンフィギュレーション・ファイルで公開され ているが、変更することは推奨されない。

```
<config><protocols><sip>
<timers>
    <T1>500</T1>
    <T2>4000</T2>
```

```
    <T4>5000</T4>
</timers>
```

- T1 - ネットワークの往復遅延時間（ミリ秒単位）。
- T2 - 非招待リクエストと招待応答を再送するまでの最大時間(ミリ秒単位)。
- T4 - メッセージがネットワークに残る最大時間（ミリ秒単位）。

- SIPプロキシアドレスとSIPプロキシディスカバリ
  - *6.1.1 SIPサーバー設定*のセクションを参照。
  - 「*6.1.6 ダイナミック SIP プロキシ検出*」を参照してください。
- フェイルオーバー設定の登録（下記参照）

フェールオーバーの場合、Webex アプリケーションは 2 つの Contact ヘッダーで SIP REGISTER を送信します。1 つは古いセッション用で、2 つは新しいデバイス情報で、2 つは新しいデバイス情報で SIP REGISTER を送信します。古いセッションのContactヘッダーは、データをクリーンアップするようSBCに通知するために含まれる。このヘッダーはexpires=0とq=0.5を含む。

新しいデバイス情報の Contact ヘッダーにも q 値があります。これは タグから読み取られます。 タグの値は、特定の連絡先アドレスの優先順位または優先順位を示すために使用されます。0から1.0の範囲で、1.0が最も高く、0が最も低い。このタグには、値を制御するためのカスタム・タグはなく、1.0にハードコードされている。この値は、配備に使用されるSBCが逆論理を持ち、q=0.0を最大優先度で扱う場合、手動で調整することができる。

リリース42.11から、新しい セクションが構成テンプレートに導入されます。アプリケーションが古いデバイス情報をクリーンアップするために連絡先ヘッダーを送信するかどうかを制御するために、新しい構成可能なパラメータ が追加されました。SBCによっては、ソケット切断時に古いセッションを即座にクリーンアップするため、 古いセッションのContactヘッダーの存在は必要ない。デフォルトでは、登録クリーンアップロジックは有効になっている。

一貫性のために、 タグも同じ セクションの下に移動されます。

例:

```
<config>
<protocols><sip>
   <q-value>1.0</q-value> <!-- DEPRECATED -->
   <register-failover>
      <registration-
cleanup>%SIP_REGISTER_FAILOVER_REGISTRATION_CLEANUP_WXT%</registration-cleanup>
      <q-value>1.0</q-value>
```

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%SIP_REGISTER_FAILOVER_REGISTRATION_CLEANUP_WXT%	true	true、false	SIPフェイルオーバー時の古いデバイス情報のクリーンアップを制御する。

6.1.8.2 SIP フェールバック

クライアントが優先順位で1番でないプロキシに接続されている場合、クライアン トは最も優先順位の高いIPに再接続しようとする。フェイルバックの時間は、DNS TTL管理設定に基づく（セクション*6.1.8.4 DNS TTL* 管理 を参照）。フェイルバックタイマーに到達したときに呼が進行中である場合、クライアン トはすべての呼が完了するまで待ち、フェイルバック手順をトリガーする。これはデスクトップクライアントにのみ有効であることに注意。なぜなら、SIP接続はモバイルでの通話中にのみアクティブになるからである。

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%SIP_FAILBACK_ENABLED_WXT%	true	true、false	SIPフェイルバックの有効 / 無効を設定する。
%SIP_FAILBACK_TIMEOUT_WXT%	900	60歳以上	SIPフェイルバックのタイムアウト（秒）。
%SIP_FAILBACK_USE_RANDOM_FACTOR_WXT%	false	true、false	SIPフェイルバックのランダムな期間[0-10]%を追加します。

6.1.8.3 IPバージョンの強制

Webex クライアントは、DNS を通じて解決済みホストのリストを注文し、SIP フェールオーバーの場合に繰り返し実行する方法を設定できます。どのモードでも、優先順位とウェイトが尊重される。

サポートされている構成:

- dns - DNSクエリによって返されるすべてのアドレスを使用します。
- ipv4 - IPv6アドレスをフィルタリングする
- ipv6 - IPv4アドレスをフィルタリングする
- prefer-ipv4:IPv4アドレスをIPv6（リリース42.9）前に注文します。
- prefer-ipv6:IPv6アドレスをIPv4（リリース42.9）前に注文します。
- nat64 - IPv6 アドレスを無視し、IPv4 アドレスを順序付けする（リリース 44.2）

デフォルト値（dns）を使用することが推奨されるが、環境/ネットワーク設定によって異なるモードが必要な場合は、この限りでない。

「dns」設定では、指定されたホストのIPv4アドレスがIPv6よりも優先されます。IPv4 と IPv6 アドレスの両方を持つホストが 2 人いる場合、順序は IPv4(host1)、IPv6(host1)、IPv4(host2)、IPv6(host2) です。

「prefer-ipv4」モードでは、IPv4アドレスはIPv6アドレスの前に順序付けされます（IPv4およびIPv6グループ内の順序は残ります）

例: IPv4(host1)、IPv4(host2)、IPv6(host1)、IPv6(host2)。

「prefer-ipv6」モードでは、順序は反対です。IPv6アドレスは IPv4 アドレスの前に配置されます。

例: IPv6(host1)、IPv6(host2)、IPv4(host1)、IPv4(host2)。

「nat64」モードでは、IPv6アドレスは無視され、IPv4順序は尊重されます。IPv6 プレフィックスが検出されます。各 IPv4 アドレスに対して、各 Pref64 プレフィックスおよび/またはサフィックスとの組み合わせが作成される。

例: Pref64(1)::IPv4(host1), Pref64(2)::IPv4(host1)::Suff64(2), IPv4(host1)::Suff64(3), Pref64(1)::IPv4(host2), Pref64(2)::IPv4(host2)::Suff64(2), IPv4(host2)::Suff64(3).

```
<config>
<protocols><sip><transports>
<enforce-ip-version>%SIP_TRANSPORTS_ENFORCE_IP_VERSION_WXT%</enforce-ip-version>
```

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%SIP_TRANSPORTS_ENFORCE_IP_VERSION_WXT%	DNS	ipv4 ipv6 DNS プリファレンスIPv4 優先 ipv6 nat64	Webex クライアントが SIP セッションに接続するために使用する IPv4/IPv6 アドレスの順序を制御します。

6.1.8.4 DNS TTL 管理

現在使用されているサーバーのDNSレコードのTTLが期限切れになった場合に、DNS解決をやり直す方法を管理するための別の設定パラメーターが追加されました。以下の表のパラメータを有効にすると、現在使用しているサーバーのDNS SRVまたはAレコードのTTLが切れると、クライアントはDNS操作を強制的にやり直す。

DNS解決がやり直された後、このパラメータは、現在の接続が完全に機能している場合でも、クライアントが受信した最優先サーバーが現在使用しているサーバーと異なる場合、そのサーバーへの再接続を強制する。ただし、再接続は進行中の通話が終了してから行われる。

サーバーAレコードとSRVレコードのTTLが異なる場合、小さい方の値が選択される。

このパラメータを無効にすると、DNS操作はTTLが切れたときにやり直されるのではなく、15分ごとにやり直される。

このパラメータはSIPでのみ機能する。

プロキシアドレスパラメータにIPアドレスが使用されている場合、DNS TTL管理機能は使用できないことに注意してください。

> **注**: モバイルクライアントのSIP接続は通話中のみなので、これはデスクトップ専用の機能である。

```
<config>
<protocols><sip>
<refresh-on-ttl enabled="%SIP_REFRESH_ON_TTL_WXT%"
  use-random-factor="%SIP_REFRESH_ON_TTL_USE_RANDOM_FACTOR_WXT%"/>
```

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%SIP_REFRESH_ON_TTL_WXT%	false	false、true	false」に設定すると、DNSのTTL管理はSIPでは無効になる。 「true」に設定すると、SIP に対して DNS TTL 管理が有効になります。
%SIP_REFRESH_ON_TTL_USE_RANDOM_FACTOR_WXT%"	false	false、true	有効にすると、DNSのTTLに0～10%のランダムな周期を追加する。

> **注**: DNSへのリクエストが急増し、アプリケーションサーバーへの再接続試行が急増する可能性があるため、DNSのTTLランダム要素を有効にすることを強く推奨します。

6.1.9 SIP SUBCSRIBEとREGISTERのリフレッシュとSUBSCRIBEのリトライ

Communicatorでは、SIP SUBSCRIBEとREGISTERの更新間隔を設定できます。SIP SUBSCRIBEでは、リフレッシュ間隔(秒単位)と、エラーがあった場合に SIP SUBSCRIBEを再試行するまでにクライアントが待つ時間(秒単位)のパラ メータが別にある。*subscription-retry-interval* 、推奨される最大値は2000000秒である。一方、負の値、0、または空の値は1800秒が使用される。subscribe refreshに負の値を指定すると、*Expires* ヘッダーが除外され、その結果一度きりの SUBSCRIBEが生成される。

クライアントが提案するSIP REGISTERリフレッシュタイマーは秒単位で設定できるが、 SIP仕様によれば、サーバーはその値をオーバーライドできる。現在、クライアントは、設定された値を常に使用するのではなく、サーバから提案された値を記憶して、その後のリフレッシュに使用します。

最後に、SIPセッション(SIP INVITEとSUBSCRIBE)のexpires-valueも設定できる(秒単位)。

```
<config>
<protocols><sip>
<subscription-refresh-interval>10800</subscription-refresh-interval>
<subscription-retry-interval>60</subscription-retry-interval>
<registration-refresh-interval>300</registration-refresh-interval>
<session>
       <expires-value>3600</expires-value>
</session>
```

6.1.10 登録で P-Associated-URI を使用する

以下のパラメータは、関連する*200 OK* レスポンスを登録し、処理するときに使用される。

パラメータが「false」に設定されている場合、クライアントは*P-Associated-URI* を使用せず、代わりにそれ自身のSIP URIのIDを使用する。

```
<config>
<protocols><sip>
<use-alternative-identities>%USE_ALTERNATIVE_IDENTITIES_WXT%</use-alternative-
identities>
```

パラメータが「true」に設定されている場合、クライアントは、すべての発信 SIPリクエスト(INVITE、SUBSCRIBE、CANCEL、INFO、およびREFER)の最後の*P-Associated-URI* ヘッダーから、REGISTERの*200 OK* 応答から、それ自身のアイデンティティを取得する。さらに、これらのURIはコンタクトリストにコンタクトとして表示されない。

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%USE_ALTERNATIVE_IDENTITIES_WXT%	false	true、false	SIP REGISTERで代替IDの使用を可能にする。 true」に設定されている場合、クライアントは発信 SIPリクエストの最後の*P-Associated-URI* ヘッダーからそれ自身のアイデンティティを取得する。 false」に設定されている場合、発信 SIPリクエストに対するそれ自身のアイデンティティは、それ自身の SIP URIから取得される。

6.1.11 SIP P-Early Media（PEM）ヘッダー

SIP*P-Early Media* (PEM)ヘッダーは、例えば、トラストドメイン内のIMS環境で使 用され、他のネットワークがすべてのアーリーメディアを許可している場合などに、 ネットワークが複数のSIPアーリーメディアダイアログを許可することを可能にする。

このコンフィグレーション・パラメータは、SIPシグナリングの広告PEMサポートを有効にする。実際の初期メディア処理ロジックは、PEMの場合も非PEMの場合も同じであり、 サポートされているPEMヘッダー値に対して動作する。

```
<config>
<protocols><sip>
<support-p-early-media>%ENABLE_PEM_SUPPORT_WXT%</support-p-early-media>
```

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_PEM_SUPPORT_WXT%	false	true、false	SIPシグナリングのクライアント広告PEMサポートを有効にするには、"true "に設定する。 SIP シグナリングでのクライアント広告 PEM サポートを無効にするには、「false」に設定します。

6.1.12 SIP 更新のサポート

SIP UPDATEは、例えば、いくつかのIMS配備において、代替のre-INVITE の代わりに必要とされる。これは、クライアントが、メディアストリームのセットやそれらのコーデック のようなセッションのパラメータをアップデートすることを可能にするが、 SIPダイアログのステートに影響を与えることはない。

典型的な使用例は、例えば、着信音とプレアラートを同時に使用する場合の初期メディアに関するものである。

SIP UPDATEは現在、ダイアログ前のユースケース(early media)で受信された 場合にのみサポートされ、アクティブなダイアログ中にはサポートされない(例え ば、re-INVITEが依然として使用される呼の保留/再開の場合など)。

このリリースでは、SIP UPDATE（メディア変更）を使用してオーディオにビデオを追加することはできません。さらに、クライアントは、リソース予約による完全なIMSロング・コール・フローをサポートしていない。

```
<config>
<protocols><sip>
<support-update enabled="%ENABLE_SIP_UPDATE_SUPPORT_WXT%"/>
```

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_SIP_UPDATE_SUPPORT_WXT%	false	true、false	false」に設定すると、SIP UPDATEサポートは無効になる。 「true」に設定すると、SIP UPDATE サポートが有効になります。

6.1.13 レガシー SIP INFO FIR

このクライアントは、SIP INFOメディアコントロールリクエストでビデオキーフレームをリクエストするレガシーな方法をサポートしている。デバイスによってはRTCP-FB FIRへの応答に問題があり、RTCPがリモート・エンドポイントに届かないことがある。詳細については、*RFC 5168* を参照してください。

```
<config>
<protocols><sip>
<force-sip-info-fir enabled="%ENABLE_FORCE_SIP_INFO_FIR_WXT%"/>
```

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_FORCE_SIP_INFO_FIR_WXT%	false	true、false	「false」に設定すると、SIP INFO FIR サポートが無効になります。 「true」に設定すると、SIP INFO FIR サポートが有効になります。

6.1.14 NAT トラバーサルの SIP rport 管理

クライアントは、NATトラバーサルのためにSIP rportメカニズムを使うように設定できる。通常、NATトラバーサルの唯一の解決策にはなりえず、SBCは主にこの目的に使用されることに留意されたい。rport仕様の説明については、*RFC 3581* を参照のこと。

ネットワークで SIP アプリケーション レイヤー ゲートウェイ (ALG) が使用される場合の SIP ポートおよびトランスポート プロトコルの推奨事項の詳細については、『*Cisco BroadWorks 版 Webex ソリューション ガイド*』を参照してください。

rport」文字列は、設定に関係なく、発信SIPリクエストに常に存在する ことに注意すること。このパラメータは、SIPの "received "ヘッダーと "rport "ヘッダーでサーバーから受 け取ったIPアドレスとポートの使用にのみ影響する。この機能が有効な場合、「received」ヘッダーと「rport」ヘッダーの値は、 SIPリクエストのSIP Contactヘッダーで使用される(REGISTER応答で「received」 ヘッダーが見つからない場合でも)。

Preferred-port パラメータは、SIP Contactヘッダーで使用されるポートを定義す るという点で関連している。SIP ポートの割り当ての詳細については、「*6.1.7 SIP の優先ポート使用量*」を参照してください。

Contact ヘッダーにクライアントソケットのローカルポートを強制的に設定する設定パラメータ *use-local-port* が別途ある。これは、クライアントが実際のIPを持っていることを検知し(*Contact* ヘッダーから)、SBCがリクエストのためにクライアントと別のソケットを確立しようとする一部のSBCに使用される。ほとんどの場合、ファイアウォールはSBCとクライアントの間にあり、クライアントへの着信接続を拒否する。

> **注意**: IPv6 環境では、すべてのアドレスが本物であり、SBC はリスニング クライアント アドレス (*連絡先* ヘッダーから) への接続を確立しようとします。

```
<config>
<protocols><sip>
<use-rport enabled="%ENABLE_USE_RPORT_WXT%" use-local-
port="%RPORT_USE_LOCAL_PORT_WXT%"/>
```

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_USE_RPORT_WXT%	false	true、false	音声およびビデオ通話用のrportを有効にする。
%RPORT_USE_LOCAL_PORT_WXT%	false	true、false	クライアントのソケットのローカルポートをSIP*Contact* ヘッダーに追加するかどうかを制御する。

6.1.15 SIP セッション ID

有効にすると、初回登録時にローカルセッションIDが生成される。セッションIDは、REGISTER、SUBSCRIBE、NOTIFYなどのすべての呼外ダイアロ グで、そのデバイスの接続/セッションの有効期間中使用される。バインディングが失われるまで、同じセッションIDが使用される。登録バインディングが失われると(DNSルックアップ、接続リセット、電話リセット など)、新しいローカルセッションIDが生成される。

セッションIDの値は、そのデバイスに関連するダイアログのフルセットを見つけるために使用することができます。

```
<config>
<protocols><sip>
<sip-sessionid enabled="%ENABLE_SIP_SESSION_ID_WXT%"/>
```

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_SIP_SESSION_ID_WXT%	false	true、false	SIPセッションIDの使用を制御する。

6.1.16 着信通話拒否の動作

クライアントは、*486* または*603* で着信を拒否する柔軟性を提供する。

クライアントが、*603 Decline* 、呼を拒否するように設定されている場合、 Call Forward BusyおよびCall Forward No Answerサービスが期待通りに機能しない可能性がある ことに注意。

```
<config>
<services><calls>
<reject-with-486 enabled="%ENABLE_REJECT_WITH_486_WXT%"/>
```

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_REJECT_WITH_486_WXT%	true	true、false	着信SIPコールを拒否するために使用されるSIPエラーコードと理由を制御する。有効な場合、*486 Temporarily Unavailable* 。そうでない場合は、*603 Decline* 。

6.1.17 リアルタイム トランスポート プロトコル ポート範囲

クライアントは、RTP (Real-Time Transport Protocol) ストリームに定義されたポート範囲を使用するように設定できる。この設定は、オーディオストリームとビデオストリームの両方に、以下の例に示すタグでポート範囲制限値を設定することで行われる。

```
<config>
<protocols><rtp>
<preferred-audio-port-start>%RTP_AUDIO_PORT_RANGE_START_WXT%</preferred-audio-port-start>
<preferred-audio-port-end>%RTP_AUDIO_PORT_RANGE_END_WXT%</preferred-audio-port-end>
<preferred-video-port-start>%RTP_VIDEO_PORT_RANGE_START_WXT%</preferred-video-port-start>
<preferred-video-port-end>%RTP_VIDEO_PORT_RANGE_END_WXT%</preferred-video-port-end>
```

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%RTP_AUDIO_PORT_RANGE_START_WXT%	8000	1 つの電話番号	オーディオ・ポート・レンジの開始位置。
%RTP_AUDIO_PORT_RANGE_END_WXT%	8099	1 つの電話番号	音声ポート範囲の終了。
%RTP_VIDEO_PORT_RANGE_START_WXT%	8100	1 つの電話番号	ビデオポート範囲の開始。
%RTP_VIDEO_PORT_RANGE_END_WXT%	8199	1 つの電話番号	ビデオポート範囲の終了。

注: ポートの範囲は決して重ならないように設定すべきである。

6.1.18 ICE サポート (Webex Calling のみ)

クライアントは、エンドポイント間のメディアパス最適化を可能にするICE（Interactive Connectivity Establishment）ネゴシエーションをサポートする（ピアツーピア方式）。これは、データ遅延を減らし、パケットロスを減らし、アプリケーション導入の運用コストを削減するために行われる。

現在の実装ではSTUNサーバーをサポートしているが、TURNはサポートされていないことに注意。

ICEサポートが有効な場合、SRTPのリキーは常に実行される(セクション*6.1.2 SIP Over TLS および Secure Real-time Transport Protocol* 参照)。

リリース44.5以降、WebexアプリはIPv6を使用してNAT64.を介したICEのサポートを追加します。

```
<config>
<protocols><rtp>
   <ice enabled="%ENABLE_RTP_ICE_WXT%"
        enable-ipv6-support="%ENABLE_RTP_ICE_IPV6_WXT%"
        mode="%RTP_ICE_MODE_WXT%"
        service-uri="%RTP_ICE_SERVICE_URI_WXT%"
        port="%RTP_ICE_PORT_WXT%"/>
```

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_RTP_ICE_WXT%	false	true、false	ICEのサポートを有効/無効にする。
%RTP_ICE_MODE_WXT%	アイススン	アイススン	ICE サポートモード。現在サポートされている値は "icestun "のみである。
%RTP_ICE_SERVICE_URI_WXT%	（音声なし）	有効なSTUNサーバーURIまたは（空）	STUN サーバー URI。
%RTP_ICE_PORT_WXT%	3478	番号(0-65535)	STUN サーバー ポート。
%ENABLE_RTP_ICE_IPV6_WXT%	false	true、false	ICE over IPv6. を有効にします。

6.1.19 RTCP MUX

RTCP MUXは設定可能。この機能により、クライアントはRTPとRTCPに同じポートを使用する。SIP/SDPシグナリングレベルでは、a=rtcp-muxという行がSDPに追加される。さらに、異なるモードも可能だ：

- 下位互換モード(つまり、a=rtcp-mux行はSDPに表示されない)
- 多重化モード(a=rtcp-mux行は、SDPに2回表示される： m=audioセクションで1回、m=videoセクションで2回)

ビデオとオーディオは同じポートを使用しない。

```
<config>
<protocols><rtp>
<mux enabled="%ENABLE_RTCP_MUX_WXT%"/>
```

RTCP MUXはSRTP呼では使用できないことに注意。

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_RTCP_MUX_WXT%	true	true、false	RTPC MUXを有効にするには、"true "に設定する。 RTCP MUXを無効にするには、"false "に設定する。

6.1.20 転送

Cisco BroadWorks 版 Webex クライアントは、在席中（コンサルタティブ）、セミコンサルタティブ、ダイレクト（ブラインド）コール転送をサポートします。

半対応型電話転送では、発信者は、遠隔地の着信者が通話に応答する前に、転送を完了することができます。着呼側で呼び出し音が開始され、対応するSIP通知(*180 Ringing*)が着呼側で受信された後にのみ、セミコンサルテーション完了ボタンは着呼側で有効になる。ブラインド移籍はUIでは「Transfer Now」と呼ばれる。

> **注意**: SIP *180 呼出音* は、一部の環境、一部の番号、一部のクロスサーバー通信シナリオでトリガーされない場合があります。

Webex アプリのリリース43.9 では、同じタイプの別のスタンドアロン進行中のコールへの転送が導入されます。Webex アプリで終了した通話は、ローカル エンドポイントで終了した他の通話に転送できます。また、リモート・デバイスで終了した通話は、リモート・エンドポイントで終了した通話に転送できる。この機能には設定可能なオプションはない。

リリース43.12以降、Webex アプリは、[転送（Transfer）] メニュー項目が選択されているときに、現在の通話を自動的に保留にするかどうかを制御するための設定オプションを追加します。この動作は、新しい*オートホールド*属性によって制御される。デフォルトでは、オートホールドは無効になっている。

```
<config>
<services><calls>
   <transfer-call enabled="%ENABLE_TRANSFER_CALLS_WXT%"
                  xsi-enabled="%ENABLE_XSI_TRANSFER_CALLS_WXT%"
                  type="%TRANSFER_CALL_TYPE_WXT%"
                  auto-hold="%ENABLE_TRANSFER_AUTO_HOLD_WXT%"/>
```

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_TRANSFER_CALLS_WXT%	false	true、false	true」に設定すると、コール転送が有効になる。 「false」に設定すると、コール転送が無効になります。
%ENABLE_XSI_TRANSFER_CALLS_WXT%	false	true、false	別のロケーションで終端するリモート(XSI)コールの転送オプションを有効にします。
%TRANSFER_CALL_TYPE_WXT%	満員	トークファースト、ブラインド、フル	BroadWorks コンフィグでユーザーが使用できる転送タイプを指定します。
%ENABLE_TRANSFER_AUTO_HOLD_WXT%	false	true、false	ユーザーが通話中画面のメニューから転送オプションを選択したときに、アクティブな通話を自動的に保留にするかどうかを制御します。

6.1.21 N 方向電話会議

次のカスタム タグを使用して、Cisco BroadWorks 版 Webex クライアントの SIP 経由のアドホック（N-Way）会議コールの可用性を制御できます。さらに、Nウェイのオーナーは、SIP SUBSCRIBE/NOTIFYと会議イベントパッケージを通じて、参加者の全リストを見ることができる。オーナーのクライアントは、カンファレンスURIへのINVITEに応答して送られる*200 OK* メッセージの先行するSIP*Contact* ヘッダーを通して、SIP SUBSCRIBEを送るためのURIを知る。一方、参加者にとっては同じ情報が先行するcall-info NOTIFYにある。

Cisco BroadWorks システム設定 (*maxConferenceParties)* は、会議の参加者の最大数を設定するために使用されます。特定の通話について、ユーザーが「参加者の追加」通話中コントロールオプションまたは Cisco BroadWorks N way Calling 機能を通じて利用または追加できるアクティブな同時通話相手の数を示します。

この情報は、以下のコマンドラインインターフェイス（CLI）コマンドを使用して、アプリケーションサーバー（AS）から取得されます。

```
AS_CLI/SubscriberMgmt/Policy/CallProcessing/Conferencing> get

Example output:
maxConferenceParties = 6
conferenceURI =
```

maxConferenceParties の値を取得したら (4 ～ 15 の範囲があります)、*%MAX_CONF_PARTIES_WXT%* タグを適宜設定する必要があります。

リリース45.7では、Webex Calling を排他的に展開するために、Webex アプリケーションは、ホストと 1 人の追加参加者がコールに残っている場合に、Nwayアドホック会議コールから1:1 コールセッションへの自動移行をサポートします。この拡張機能の有効化を制御するために、新しい構成可能なオプション (*ドロップツーパーティ会議*) が追加されました。

```
<config>
<services><calls>
<conference enabled="%ENABLE_CONFERENCE_CALLS_WXT%" xsi-
enabled="%ENABLE_XSI_CONFERENCE_CALLS_WXT%">
    <subscribe-conference-info enabled="%ENABLE_NWAY_PARTICIPANT_LIST_WXT%"/>
    <max-nway-participants>%MAX_CONF_PARTIES_WXT%</max-nway-participants>
    <drop-two-party-conference enabled="%ENABLE_CONFERENCE_DROP_TWO_PARTY_CONFERENCE_WXT%"/>
</conference>
```

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_CONFERENCE_CALLS_WXT%	false	true、false	ユーザーに対して会議オプションを有効にするかどうかを制御します。
%ENABLE_NWAY_PARTICIPANT_LIST_WXT%	false	true、false	Nウェイオーナー参加者リストを有効にするには「true」を設定する。 [false] に設定すると、N 方向所有者参加者リストが無効になります。
%MAX_CONF_PARTIES_WXT%	10	4から15までの数字（音声なし）	クライアントが強制する最大Nウェイ参加者数を指定する。サーバーサイドには限界がある。 空の値は、クライアント側でのNウェイ参加者制限の実施を無効にする。
%ENABLE_CONFERENCE_DROP_TWO_PARTY_CONFERENCE_WXT%	false	true、false	2 人の参加者が会議コールに残っている場合のみ、アドホック会議コールを 1:1 コールセッションに変換するかどうかを制御します。

6.1.22 コール プル

Webex アプリはコール プルをサポートしています。これにより、ユーザーは自分のデバイスで終了したリモート コールを現在のデバイスに移動できます。継続中のコールがない場合でも、ユーザが使用できるスタティック（ブラインド）コール プル オプションがあります。

Webex アプリのリリース45.1 では、アクティブな通話のモニタリングを追加し、通話自体から現在のデバイスにリモート通話をプルするオプションを提供することで、この機能が改善されます。これは、ユーザが所有する別のデバイスで終了するユーザに対して 1 つの進行中のコールがある場合にのみ利用できます。

デスクトップ アプリでは、Webex アプリの通話設定で新しい構成可能なオプションが公開され、リモート通話のさまざまな処理が可能になります。

- リモート コール制御 - これは Webex アプリの現在の動作です。リモート コールは通話リストにタイマーとともに表示されます。タイマーを選択すると、ユーザは通話制御画面を表示できます。新しい機能強化により、ユーザーは [詳細] メニューから新しい [通話をコンピューターに移動] オプションを使用して、コール プルを開始できます。
- 通話の移動 - このオプションを選択すると、ユーザーはリモート通話の通話コントロール画面を開くことができなくなります。ユーザーが所有するデバイスで終了した 1 つのリモート通話がある場合にのみ、通話の [移動] オプションが表示されます。[移動] オプションを選択すると、Webex アプリがコール プルを開始する前に、ユーザーに確認ダイアログが表示されます。
- 常時確認 - このタイプの構成では、ユーザーにはコール リストにリモートコールのタイマーが表示され、選択すると、リモートコール制御を表示するか、コールプルを開始するか（利用可能な場合）または操作をキャンセルするかを尋ねられます。

リリース45.1により、モバイルアプリも改善されます。アクティブ コール プル モードが有効になっている場合、ユーザのすべてのリモートコールが表示され、アクティブ コール モニタリングが有効になり、特定の状況でコールを移動するオプションが提供されます。リモート デバイス（ユーザが所有する）でコールが 1 つだけ終了した場合、そのコールに対して [移動（Move）] オプションが使用できるようになります。ただし、ユーザーに対して複数のコールがある場合、または共有デバイスでコールが終了した場合、コールは引き続き表示されますが、情報目的でのみコールをリモートで移動またはコントロールするオプションはありません。

機能を制御するには、いくつかの設定可能なオプションがあります。1 つは可用性を制御し、もう 2 つは *モード* と *default-active-move-option* (デスクトップのみ) で機能の動作を制御します。*モード* は、次のいずれかのオプションに設定できます。

- ブラインド
  - デフォルトモード
  - デスクトップ – ダイヤル パッドのコール プル ボタン
  - モバイル – [通話] タブのコール プル オプション
- アクティブ
  - デスクトップ
    - ダイヤル パッドにコール プル ボタンがない
    - アクティブに監視されているコールの取得を可能にする
    - コールが選択されたときのアクションの設定を許可します
  - モバイル
    - [通話] タブオプションにコール プル オプションがありません
    - すべてのユーザーのリモート通話をアクティブに監視できます
    - アクティブに監視されているコールの取得を可能にする

- フル - ブラインドモードとアクティブ モードを組み合わせました

```
<config>
<services><calls>
<call-pull enabled="%ENABLE_CALL_PULL_WXT%"
           mode="%CALL_PULL_MODE_WXT%"
           default-active-move-option="%CALL_PULL_DEFAULT_ACTIVE_MOVE_OPTION_WXT%"/>
```

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_CALL_PULL_WXT%	false	true、false	コールプルを有効にする。
%CALL_PULL_MODE_WXT%	ブラインド	ブラインド、アクティブ、フル	ユーザが利用できるコール プル オプションを制御します。現在のブラインド コール プル、アクティブ モニタリングに基づくコール プル、またはその両方を使用できます。
%CALL_PULL_DEFAULT_ACTIVE_MOVE_OPTION_WXT%	例 1 call_move () の例	call_control, call_move, always_ask	デスクトップのみ アクティブな移動が利用可能な場合（アクティブ モードまたはフル モードが設定されている）、この設定は、通話リスト内のユーザに対して有効になっているデフォルトのアクションを指定します。

注: この機能を使用するには、CommPilot ポータルの [共有コールアピアランスの設定（Shared Call Appearance）] ページから [別の場所からのコール取得を許可（Allow Call Retrieve Service）] チェックボックスを有効にすることで、ユーザに対して共有コール アピアランス コール取得サービスを有効にする必要があります。

6.1.23 コールパーク/保留解除

グループ・コール・パーク機能により、進行中のVoIPコールをコール・パーク・サーバーに転送することができ、発信者は別の用事を済ませ、同じユーザーまたは別のユーザーが呼び出すことができます。進行中の通話は、コールパークグループ内で最初に利用可能な内線に対してパークされます。

呼の検索は、ユーザが呼をダイアログにパーキングした直後に、設定可能な秒数だけ呼をパーキングすることで実行できる。または、呼取出しオプションを選択し、番号または内線番号を入力することで、ユーザーまたは別のユーザーがパークされた呼を取出すことができます。

```
<config>
<services><calls>
<call-park enabled="%ENABLE_CALL_PARK_WXT%"
timer="%CALL_PARK_AUTO_CLOSE_DIALOG_TIMER_WXT%"/>
```

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_CALL_PARK_WXT%	false	true、false	コール パーク/取得を有効にします。
%CALL_PARK_AUTO_CLOSE_DIALOG_TIMER_WXT%	10	5 ～ 30 の番号	自動的にクローズされる前に、「パークされた着信」ダイアログがユーザーに表示される秒数を指定します。

6.1.24 通話統計

セッション開始プロトコル(SIP)の通話終了統計の報告 BYEメッセージは、通話終了時にリモートエンドに通話統計を送信することを可能に する。呼の統計情報は、SIP BYEメッセージの新規ヘッダーとして、または対応する*200 OK* 、BYEメッセージに対する応答で送信される。統計情報には、送受信されたリアルタイム・トランスポート・プロトコル（RTP）パケット、送受信された合計バイト数、失われたパケットの合計数、遅延ジッタ、往復遅延、および通話時間が含まれる。

```
<config>
<services><calls>
<call-statistics enabled="%ENABLE_CALL_STATISTICS_WXT%"/>
```

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_CALL_STATISTICS_WXT%	false	true、false	呼び出しメトリクスのキャプチャを有効にするには、"true" を設定します。 「false」に設定すると、通話メトリックのキャプチャが無効になります。

6.1.25 コール自動リカバリ /シームレスなコールハンドバー

このクライアントは、ユーザーがVoIP通話を継続している間、ネットワークを切り替えたときの通話の自動回復をサポートしています。通話の自動回復は、セルラーデータからWiFi、WiFiからセルラーデータの両方向で、またWiFiネットワークの切り替え時にも機能します。通話は1分以内に回復するよう試みられ、その後停止する。進行中のVoIP通話が複数ある場合は、アクティブなものだけが回復される。

セルラーデータからWiFiへの移行では、クライアントは、終了するかセルラーデータネットワークが失われるまで、進行中のVoIP通話をセルラーデータで維持します。

ネットワーク変更のためにコール自動リカバリが発生した場合、コール再接続試行中にユーザにトーン通知が再生されます。

```
<config>
<services><calls>
<auto-recovery enabled="%ENABLE_CALLS_AUTO_RECOVERY_WXT%"/>
```

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_CALLS_AUTO_RECOVERY_WXT%	false	true、false	自動回復機構をユーザーに対して有効にするかどうかを制御する。

> **注意**: この機能は、ユーザに対して有効になっているコール プル機能によって異なります。詳細については、「*6.1.22 コール プル*」を参照してください。

6.1.26 通話録音

通話録音機能はクライアントでサポートされ、サーバー側で利用可能かどうか、および設定オプションに依存します。この機能は、有効な XSI イベント チャネルによって異なります (セクション *6.1.32.2XSI 動的プロキシ検出*

Webex アプリは XSP の XSI (XSI-Actions & XSI-Events) およびデバイス管理サービス (DMS) サービスにアクセスします。XSI サービス ホストを検索するために、Webex アプリは _xsi-client._tcp.. の DNS SRV ルックアップを実行します。SRV は、XSP ホストまたは XSI サービスのロードバランサに設定された URL を指します。SRV ルックアップが利用できない場合、Webex アプリは A/AAAA ルックアップにフォールバックします。

クライアントが、以下の DNS フローを使用して XSP ノードの検索を試みます。

Webex アプリは最初に Cisco Webex Cloud から Xsi-Actions/Xsi-Events URL を取得します (関連する BroadWorks Calling クラスタを作成するときに入力されます)。XSI ホスト名/ドメインは URL から解析され、クライアントは次のようにして SRV ルックアップを実行します。

Webex アプリは _xsi-client._tcp. の SRV ルックアップを実行します

SRV ルックアップが 1 つ以上のターゲットを返した場合:

Webex アプリは XSI ホスト名の A/AAAA ルックアップを行い、有効な IP アドレスである場合、XSI ホスト名がキャッシュされたリストの背面にバックアップ サービスとして追加されます。

- クライアントは、SRV の優先順位、重み付けに基づいてターゲットの 1 つに接続します（またはすべてが等しい場合はランダムに）。
- SRV ルックアップがターゲットを返さなかった場合:

- Webex アプリは、Root XSI パラメータの A/AAAA ルックアップを行います。有効な IP アドレスであれば、これはキャッシュされたリストに追加された唯一のアドレスです。具体的には、負荷を分散するエッジ要素や XSP サーバー自身などが考えられます。
- A/AAAA レコードは、同じ理由で 1 つの IP アドレスに解決する必要があります。
    - カスタム XSI-Actions/XSI-Events パスは、前のセクションの説明に従って、DMS 設定ファイルで設定できます。
    - 最初の XSI ルートまたはアクション パスに差異がある場合、クライアントは XSI アクション/XSI Events の接続を再初期化します。この最初のステップは、ステップ1にリストされている同じ DNS ルックアップ プロセスを実行することです。今回は、設定ファイルから %XSI_ROOT_WXT% パラメータの値のルックアップを要求します。
    - 注意: このタグを使用して XSI インターフェイスを変更する場合は、必ず対応する SRV レコードを作成してください。
        -
        - Webex アプリには、XSI プロキシ検出を制御するための設定可能なオプションもあります。XSI プロキシ検出モードは、XSI 通信に使用される、メイン XSI ホスト名（SRV ルックアップに使用される）と/または DNS SRV 解決済みの XSI ターゲットの組み合わせを制御するために使用できます。構成ファイルをダウンロードするために、Webex アプリは最初に *srv-host* モードを使用します。構成ファイルがダウンロードされると、構成されたプロキシ検出の *モード* が適用されます。プロキシ検出の *モード* は、次のいずれかを実行できます。
        - ホストのみ - メイン XSI ホスト名のみを使用し、DNS SRV ルックアップをトリガーしないでください
    - srv-only - メイン XSI ホスト名を使用せず、DNS SRV ルックアップのみに依存します
        - prefer-srv - DNS SRV レコードが見つかった場合は、それらのみを使用してください。そうでない場合は、メイン XSI ホスト名のみを使用してください

- srv-host - (デフォルト) DNS SRV レコードが見つかった場合は、優先順位を付けて、リストの最後にメイン XSI ホスト名をバックアップサービスとして追加します。そうでない場合は、メイン XSI ホスト名を使用します
- DMS 構成ファイルのダウンロード後:
- 空の XSI ルートがある場合、またはメイン XSI ホスト名と同じ値で、プロキシ検出モードが *srv-host* と異なる場合:

- ホストのみ - 結果の XSI ターゲットを更新し、メイン XSI ホスト名のみを残します
  - srv-only - 結果の XSI ターゲットを更新し、SRV アドレスのみを残します
  - prefer-srv - アドレスが 1 つだけの場合、メインの XSI ホスト名である必要があります。他にもある場合、メイン XSI ホスト名はリストから削除されます
  - XSI ルートが空ではなく、その値がメイン XSI ホスト名とは異なる場合:
  - XSI ルート値を使用して新しい DNS ルックアップ プロセスを実行
  - 設定されたプロキシ検出モードに従って DNS 結果を注文する

XSI アクションと XSI Events の接続を再初期化

```
<config>
<protocols><xsi>
  <proxy-discovery mode="%XSI_PROXY_DISCOVERY_MODE_WXT%"/>
```

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%XSI_PROXY_DISCOVERY_MODE_WXT%	srv ホスト	ホストのみ、srv-only、prefer-srv、srv-host	構成ファイルのダウンロード後にアプリケーションで使用される XSI ターゲットのリストを Webex アプリで構築する方法を制御します。初期検出は、DMS 設定のダウンロード前に、常に srv-host モードを使用します。

XSI イベント チャネル) とアプリケーション サーバー (AS) が *X-BroadWorks-Correlation-Info* SIP ヘッダー (*Webex for Cisco BroadWorks ソリューション ガイド*を参照してください) を送信するように構成されています。

この機能が無効になっている場合、録画ボタンやオプションは表示されません。つまり、通話参加者の1人が通話録音をサポートしている場合、その通話を録音することができます。

通話録音機能が有効になっている場合、通話が録音されているときは常に視覚的に表示されます。Cisco BroadWorks では、次の通話録音モードがサポートされています。

常時

- 通話録音は、通話確立時に自動的に開始されます。
- ユーザーは、**NOT** 通話録音を停止/一時停止することができます。

常に一時停止/再開のサポート

- 通話録音は通話の確立時に自動的に開始されますが、ユーザーは通話を一時停止して再開できます。
- ユーザーの対話:
  - 録音中 -**一時停止** 録音中。
  - 録画は一時停止中です - **再開** 録画アクション。

オンデマンド

- 通話が確立されると、サーバー上で通話録音が開始される。
- 通話中に[録音開始]オプションを押すと、通話録音が保存され、通話が開始されたときから保存されます。そうでない場合、ユーザーから録音開始の指示がなければ、通話録音はサーバー上で削除される。
- ユーザーの対話:
  - 録音はまだ開始されていません -**Start** Recording action.
  - 録音中 -**一時停止** 録音中。
  - 録画は一時停止中です - **再開** 録画アクション。

ユーザーが開始したオンデマンド

- 通話中に何度でも、通話録音の開始、停止、一時停止、再開が可能。
- 通話録音は、通話録音のスタートアップごとに別々に行われます。
- ユーザーの対話:
  - 録音はまだ開始されていません -**Start** Recording action.
  - 録画が進行中です - 録画のアクションを**停止** と**一時停止** します。
  - 録画は一時停止中です。**[停止]** と **[再開]** 録画アクションです。

ユーザーに割り当てられた通話録音モードは、コントロールハブから選択できます。

```
<config>
<services><calls>
<record enabled="%ENABLE_CALL_RECORDING_WXT%"/>
```

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_CALL_RECORDING_WXT%	false	true、false	通話録音コントロールを有効にします。

6.1.27 ボイスメール、ビジュアルボイスメール、メッセージ待機インジケータ

次のカスタム タグを使用して、Cisco BroadWorks 版 Webex クライアントで Cisco BroadWorks ボイスメールとビジュアル ボイスメールの可用性を制御できます。

ビジュアルボイスメール（VVM）は音声のみ対応。サポートされているフォーマットは、wav、ulaw、およびH264ビデオ（オーディオとしてのみ再生）を含むmovです。着信したボイスメールをリスト表示したり、個々のアイテムを再生することができる。この機能は XSI に基づいていますが、新しいボイスメールの通知は SIP を介して提供されます。したがって、通知が機能するには SIP を有効にする必要があります。さらに、メッセージ待受インジケータ（MWI）設定のためのSIP SUBSCRIBEが通知を受信するために必要であり、ビジュアルボイスメールが機能するためにはMWIが有効でなければならない。SIP設定の詳細については、セクション *6.1.1 SIPサーバー設定* を参照してください。

ビジュアル ボイスメールの Cisco BroadWorks リリースおよびパッチ要件については、「*Cisco BroadWorks 版 Webex ソリューション ガイド*」を参照してください。

ビジュアルボイスメールは、コンフィギュレーションで別途有効にする必要があります。

ビジュアルボイスメールを使用するには、CommPilotポータルで以下の設定が必要です：

- ボイス メッセージングが有効になっています
- 「メッセージが届いたら、ユニファイド・メッセージングを使用する」オプションを有効にする
- 「電話メッセージ待受インジケータを使用」オプションが有効

Cisco BroadWorks 側にビジュアル ボイスメール サービスが割り当てられていない場合、サービスの設定が自動的に無効になります。

SIP登録を無効にすると、新しいボイスメールのMWIも無効になることに注意してください。MWIを有効にする方法については、以下の表を参照のこと。

UIにボイスメールメッセージ情報を表示するには、クライアントはサーバーからSIP MWI通知を受け取る必要がある（つまり、ボイスメールイベントパッケージ）。加入オプションについては、次の表を参照のこと。また、ビジュアル・ボイスメール通知を機能させるには、MWIが必要であることにも注意してください。

ボイスメールイベントパッケージへのSIPサブスクリプションが失敗した場合、クライアントは、そうするように設定されている場合、再試行を続けることに注意すること。SIP SUBSCRIBEリトライ構成の詳細については、セクション *6.1.9 SIP SUBCSRIBEとREGISTERのリフレッシュとSUBSCRIBEのリトライ を参照。*

```
<config>
<services><calls>
<mwi enabled="%ENABLE_MWI_WXT%" type="%MWI_MODE_WXT%"/>
<voice-mail enabled="%ENABLE_VOICE_MAIL_WXT%" visual-
voicemail="%ENABLE_VISUAL_VOICE_MAIL_WXT%">
    <transcription enabled="%ENABLE_VOICE_MAIL_TRANSCRIPTION_WXT%"/>
    <forwarding enabled="%ENABLE_VOICE_MAIL_FORWARDING_WXT%"/>
</voice-mail>
```

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_MWI_WXT%	false	true、false	MWIを有効にするには "true "を設定する。 MWIを無効にするには "false "に設定する。
%MWI_MODE_WXT%	空	暗黙的、明示的	MWIが有効になっているときにMWIイベントパッケージのSIP SUBSCRIBEを送信するには、「explicit」に設定する。 「暗黙的」を使用すると、MWI が有効になっている場合、MWI イベント パッケージの SIP SUBSCRIBE を送信しません。 空の場合、MWIは無効になる。
%ENABLE_VOICE_MAIL_WXT%	false	true、false	ボイスメールのサポートを有効にするには「true」を設定します。 ボイスメールのサポートを無効にするには、「false」に設定します。
%ENABLE_VISUAL_VOICE_MAIL_WXT%	false	true、false	「false」に設定すると、VVM は無効になります。 「true」に設定すると、VVM が有効になります。 実際のVVM属性の前のボイスメールenabled=falseは、後方互換性のためにまだ使用されていることに注意してください。

6.1.28 Webex Calling のボイスメールの文字起こし

この機能により、ボイスメール メッセージはテキストに変換され、Webex Calling デスクトップおよびモバイル アプリのビジュアル ボイスメール メッセージ ビューに表示されます。

この機能は、以下の場合にのみユーザーに対して有効にされるべきである：

1. アプリは Webex Calling 展開で実行されています。
2. ビジュアルボイスメール機能が有効になっています。
3. この機能は設定で有効になっています (タグの enabled 属性は「true」に設定されている必要があります)。

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_VOICE_MAIL_TRANSCRIPTION_WXT%	false	true、false	[Webex Calling のみ] ビジュアルボイスメールが有効になっている場合のみ、ボイスメールの音声テキストの可用性を制御します。

6.1.29 通話設定

6.1.29.1 無条件転送

次のカスタム タグを使用して、Cisco BroadWorks 版 Webex クライアントの Cisco BroadWorks Call Forwarding Always サービスの可用性を制御できます。

```
<config>
<services><supplementary-services>
<call-forwarding-always enabled="%ENABLE_CALL_FORWARDING_ALWAYS_WXT%"/>
```

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_CALL_FORWARDING_ALWAYS_WXT%	false	true、false	常時転送サービスの可用性を制御します。 デフォルトでは、この機能は無効になっています。

注: 常時通話転送とボイスメールへの通話転送 (*6.1.29.2 ボイスメールへの通話転送*) を組み合わせて、Webex アプリで「通話転送」設定を表示または非表示にできます。両方のタグが無効になっている場合、Webex アプリの「通話転送」設定は非表示になります。

6.1.29.2 ボイスメールへの通話転送

リリース43.9以降、Webex アプリは、ボイスメールへの転送の可用性を制御するオプションを提供します。デフォルトでは、この機能は有効になっており、以下の設定オプションを使って無効にすることができる。

```
<config>
<services>
   <voice-mail>
      <forwarding enabled="%ENABLE_VOICE_MAIL_FORWARDING_WXT%"/>
```

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_VOICE_MAIL_FORWARDING_WXT%	true	true、false	ボイスメールへの転送の可否を制御します。 デフォルトでは、この機能は有効になっています。

注1： この機能は、ユーザーに割り当てられる「ボイスメッセージング・ユーザー」または「サードパーティ・ボイスメール・サポート」サービスのいずれかに依存します。

注2： ボイスメールへの通話転送と常時通話転送 (*6.1.29.1 無条件転送*) を併用して、Webex アプリで「通話転送」設定を表示または非表示にできます。両方のタグが無効になっている場合、Webex アプリの「通話転送」設定は非表示になります。

6.1.29.3 BroadWorks Anywhere (シングルナンバーリーチ)

次のカスタム タグは、BroadWorks Anywhere の可用性、および Cisco BroadWorks 版 Webex クライアントの設定可用性を制御します。なお、クライアント内でのこの機能の名前は *Manage My Numbers* です。

```
<config>
<services><supplementary-services>
<broadworks-anywhere enabled="%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_WXT%">
       <description enabled="%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_DESCRIPTION_WXT%"/>
       <alert-all-locations
enabled="%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_ALERT_ALL_LOCATIONS_WXT%"
default="%BROADWORKS_ANYWHERE_ALERT_ALL_LOCATIONS_DEFAULT_WXT%"/>
       <call-control enabled="%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_CALL_CONTROL_WXT%"
default="%BROADWORKS_ANYWHERE_CALL_CONTROL_DEFAULT_WXT%"/>
       <diversion-inhibitor
enabled="%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_DIVERSION_INHIBITOR_WXT%"
default="%BROADWORKS_ANYWHERE_DIVERSION_INHIBITOR_DEFAULT_WXT%"/>
       <answer-confirmation
enabled="%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_ANSWER_CONFIRMATION_WXT%"
default="%BROADWORKS_ANYWHERE_ANSWER_CONFIRMATION_DEFAULT_WXT%"/>
</broadworks-anywhere>
```

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_WXT%	false	true、false	設定レベルでBroadWorks Anywhere（BWA）を有効にします。
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_DESCRIPTION_WXT%	true	true、false	BWAロケーションの説明をユーザーが利用できるかどうかを制御する。
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_ALERT_ALL_LOCATIONS_WXT%	false	true、false	true」を設定すると、BWAサービスのアラート全ロケーションをユーザーが利用できるようになります。 ユーザーが BWA サービスのすべてのロケーションにアラートを送信できないようにするには、「false」に設定します。
%BROADWORKS_ANYWHERE_ALERT_ALL_LOCATIONS_DEFAULT_WXT%	false	true、false	アプリケーションが、2つ目以降の新しいBWAロケーションを追加する際に、全ロケーション警告状態を有効にするかどうかを制御する。
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_CALL_CONTROL_WXT%	false	true、false	BWA ロケーションのコール制御をユーザーが使用できるようにするかどうかを制御します。
%BROADWORKS_ANYWHERE_CALL_CONTROL_DEFAULT_WXT%	false	true、false	BWAロケーションのコール・コントロールのデフォルト状態を制御する。
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_DIVERSION_INHIBITOR_WXT%	false	true、false	BWA ロケーションの転送インヒビータをユーザが使用可能にするかどうかを制御します。
%BROADWORKS_ANYWHERE_DIVERSION_INHIBITOR_DEFAULT_WXT%	false	true、false	BWA ロケーションの転送インヒビターのデフォルト状態を制御します。
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_ANSWER_CONFIRMATION_WXT%	false	true、false	ユーザーが BWA ロケーションの応答確認を利用できるかどうかを制御します。
%BROADWORKS_ANYWHERE_ANSWER_CONFIRMATION_DEFAULT_WXT%	false	true、false	BWA ロケーションの応答確認のデフォルトの状態を制御します。

6.1.30 設定ポータル および Web ベースの通話設定

Cisco BroadWorks 版 Webex クライアントは、ユーザがアプリケーションおよびサービス設定の一部を設定できる設定（セルフケア）ポータルへのアクセスを提供します。

さらに、クライアントには、代わりに通話設定ウェブビュー（CSWV）を使用するオプションが用意されています。これにより、ユーザーはサーバーベースの通話設定をより多くコントロールできるようになる。別のタグを使用して、ウェブベースの通話設定で特定のサービスを表示するかどうかを制御できます。

注意: Call Center（*6.1.31 コール センター/コール キューのログイン/ログアウト* を参照）やBroadWorks Anywhere（ *6.1.29.3 BroadWorks Anywhere* を参照）のようなアプリケーションで既に表示されている設定は非表示にすることをお勧めします。リモートオフィスサービスはBroadWorks Anywhereサービスに継承されているため、非表示にすることをお勧めします。

以下のカスタムタグを使用して、設定（セルフケアまたは CSWV）ポータルの URL を構成できます。タグが空の場合、設定ポータルへのリンクは、アプリケーション内のユーザーには表示されません。

```
<config>
<services>
<web-call-settings target="%WEB_CALL_SETTINGS_TARGET_WXT%"
 <url>%WEB_CALL_SETTINGS_URL_WXT%</url>
<branding-enabled="%WEB_CALL_SETTINGS_BRANDING_ENABLED_WXT%">
  <service-settings>
   <service name="Call Forwarding Always"
visible="%WEB_CALL_SETTINGS_CFA_VISIBLE_WXT%"/>
   <service name="Call Forwarding Busy"
visible="%WEB_CALL_SETTINGS_CFB_VISIBLE_WXT%"/>
   <service name="Call Forwarding Not Reachable"
visible="%WEB_CALL_SETTINGS_CFNR_VISIBLE_WXT%"/>
   <service name="Call Forwarding No Answer"
visible="%WEB_CALL_SETTINGS_CFNA_VISIBLE_WXT%"/>
   <service name="Do Not Disturb" visible="%WEB_CALL_SETTINGS_DND_VISIBLE_WXT%"/>
   <service name="Anonymous Call Rejection"
visible="%WEB_CALL_SETTINGS_ACR_VISIBLE_WXT%"/>
   <service name="Simultaneous Ring Personal"
visible="%WEB_CALL_SETTINGS_SIMRING_VISIBLE_WXT%"/>
   <service name="Sequential Ring"
visible="%WEB_CALL_SETTINGS_SEQRING_VISIBLE_WXT%"/>
   <service name="Automatic Callback"
visible="%WEB_CALL_SETTINGS_ACB_VISIBLE_WXT%"/>
   <service name="Call Waiting" visible="%WEB_CALL_SETTINGS_CW_VISIBLE_WXT%"/>
   <service name="Calling Line ID Delivery Blocking"
visible="%WEB_CALL_SETTINGS_CLIDB_VISIBLE_WXT%"/>
   <service name="Personal Assistant"
visible="%WEB_CALL_SETTINGS_PA_VISIBLE_WXT%"/>
   <service name="Call Center - Standard"
visible="%WEB_CALL_SETTINGS_CC_VISIBLE_WXT%"/>
   <service name="BroadWorks Anywhere"
visible="%WEB_CALL_SETTINGS_BWA_VISIBLE_WXT%"/>
   <service name="BroadWorks Mobility"
visible="%WEB_CALL_SETTINGS_BWM_VISIBLE_WXT%"/>
   <service name="Remote Office" visible="%WEB_CALL_SETTINGS_RO_VISIBLE_WXT%"/>
   <service name="Voice Messaging User"
visible="%WEB_CALL_SETTINGS_VM_VISIBLE_WXT%"/>
 </service-settings>
<userportal-settings> <url>%USER_PORTAL_SETTINGS_URL_WXT%</url></userportal-
settings>
</web-call-settings>
```

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%WEB_CALL_SETTINGS_TARGET_WXT%	外部	外部, csw	管理者ポータルモードを制御する。 設定した設定ポータルのURLを外部ブラウザで開く場合は「external」に設定します。 「csw」に設定すると、追加のパラメータセクションを使用して、埋め込みブラウザで CSW ポータルが開き、POST 要求を形成します。
%WEB_CALL_SETTINGS_URL_WXT%	空	URL文字列	設定ポータルのURL。 例: https://settings.webex.com
%WEB_CALL_SETTINGS_CFA_VISIBLE_WXT%	true	true、false	Webベースの設定で、[常時転送]オプションをユーザーに表示するかどうかを制御します。
%WEB_CALL_SETTINGS_DND_VISIBLE_WXT%	true	true、false	Web ベースの設定でユーザーにサイレント（DND）オプションを表示するかどうかを制御します。
%WEB_CALL_SETTINGS_ACR_VISIBLE_WXT%	true	true、false	Web ベースの設定で、ユーザーに匿名着信拒否 (ACR) オプションを表示するかどうかを制御します。
%WEB_CALL_SETTINGS_CFB_VISIBLE_WXT%	true	true、false	Web ベースの設定で、話中転送（CFB）オプションをユーザに表示するかどうかを制御します。
%WEB_CALL_SETTINGS_CFNR_VISIBLE_WXT%	true	true、false	Web ベースの設定で、Call Forwarding Not Reachable（CFNR）オプションをユーザに表示するかどうかを制御します。
%WEB_CALL_SETTINGS_CFNA_VISIBLE_WXT%	true	true、false	Web ベースの設定で、無応答時転送（CFNA）オプションをユーザに表示するかどうかを制御します。
%WEB_CALL_SETTINGS_SIMRING_VISIBLE_WXT%	true	true、false	Web ベースの設定で、ユーザーに同時呼び出しパーソナル（SIMRING）オプションを表示するかどうかを制御します。
%WEB_CALL_SETTINGS_SEQRING_VISIBLE_WXT%	true	true、false	Web ベースの設定で、シーケンシャル リング（SEQRING）オプションをユーザに表示するかどうかを制御します。
%WEB_CALL_SETTINGS_RO_VISIBLE_WXT%	true	true、false	Web ベースの設定で、Remote Office (RO) オプションをユーザーに表示するかどうかを制御します。
%WEB_CALL_SETTINGS_ACB_VISIBLE_WXT%	true	true、false	Web ベースの設定でユーザーに自動コールバック (ACB) オプションを表示するかどうかを制御します。

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%WEB_CALL_SETTINGS_CW_VISIBLE_WXT%	true	true、false	Web ベースの設定で、コール待機（CW）オプションをユーザに表示するかどうかを制御します。
%WEB_CALL_SETTINGS_CLIDB_VISIBLE_WXT%	true	true、false	Web ベースの設定で、Calling Line ID Delivery Blocking（CLIDB）オプションをユーザーに表示するかどうかを制御します。
%WEB_CALL_SETTINGS_PA_VISIBLE_WXT%	true	true、false	Web ベースの設定でユーザーにパーソナルアシスタント (PA) オプションを表示するかどうかを制御します。
%WEB_CALL_SETTINGS_BWA_VISIBLE_WXT%	true	true、false	Web ベースの設定で、BroadWorks Anywhere (BWA) オプションをユーザーに表示するかどうかを制御します。
%WEB_CALL_SETTINGS_CC_VISIBLE_WXT%	true	true、false	Web ベースの設定でユーザーにコール センター オプションを表示するかどうかを制御します。
%WEB_CALL_SETTINGS_BWM_VISIBLE_WXT%	true	true、false	Web ベースの設定で、BroadWorks モビリティ (BWM) オプションをユーザーに表示するかどうかを制御します。 現在、推奨値は Cisco BroadWorks 版 Webex と BroadWorks モビリティ間の相互運用性の問題により、「false」です。
%WEB_CALL_SETTINGS_VM_VISIBLE_WXT%	true	true、false	Web ベースの設定でユーザーに音声管理（VM）オプションを表示するかどうかを制御します。
%WEB_CALL_SETTINGS_BRANDING_ENABLED_WXT%	false	true、false	新しい通話設定WebViewブランディングを使用するかどうかを制御します。サーバー側CSWVのバージョンが1.8.6以上の場合に有効にする。そうでなければ、偽のままでいい。
%WEB_CALL_SETTINGS_EMAIL_VM_VISIBLE_WXT%	true	true、false	電子メール/ボイスメールメッセージオプションをウェブベースの設定で表示するかどうかを制御します。
%USER_PORTAL_SETTINGS_URL_WXT%	空	URL文字列	ユーザー設定ポータルのURLを指定します。この機能を有効にし、UIに「ユーザ・ポータルにアクセス」ボタンを表示するには、このカスタム・タグが空であってはなりません。たとえば、次のようなものです。https://settings.webex.com.
%USER_PORTAL_SETTINGS_TARGET_WXT%	外部	外部、内部	URLを埋め込みブラウザで開くか、外部ブラウザで開くかを指定します。

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%USER_PORTAL_SETTINGS_SSO_ENABLED_WXT%	false	true、false	埋め込みブラウザが設定されている場合（USER_PORTAL_SETTINGS_TARGET_WXT=internal）にのみ適用されます。有効にすると、HTTP POSTリクエストが使用され、BODYの一部としてBroadWorksショートライブトークンが追加されます。無効にすると、URLはHTTP GETで開かれる。

注1： 呼設定WebViewのURLには、常に末尾に"/"を設定する必要があります。たとえば、次のようなものです。 http(s):////

注意2: 呼設定WebViewアプリケーションの最小サポートバージョンは1.7.5です。

Cisco BroadWorks リリース21へのインストールについては、『*Webex For Cisco BroadWorks ソリューションガイド*』で説明されている追加の手順を参照してください。

6.1.31 コール センター/コール キューのログイン/ログアウト

Webex アプリは、コール センター (コール キュー) エージェント設定へのアクセスを提供します。ユーザーがコールセンター用にプロビジョニングされている場合、この機能により、ユーザーはコールセンターにログインし、利用可能なコールキューを表示したり、キューに参加/脱退したり、自動コール分配（ACD）ステータスを設定したりすることができます。

デスクトップ リリース42.8 とモバイル リリース42.12以降、コール センター（コール キュー）エージェントは通話設定 Web ビューに基づいていなくなりました (セクション*6.1.30 設定ポータル および Web* ベースの通話設定を参照)。コール センター (コール キュー) エージェント構成には、デスクトップとモバイル Webex アプリの設定のフッターからアクセスできます。

```
<config>
<services>
<call-center-agent enabled="%ENABLE_CALL_CENTER_WXT%"/>
```

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_CALL_CENTER_WXT%	false	true、false	コールセンターのサポートを有効にする。

6.1.32 Xtended Services Interface（XSI）

6.1.32.1 ルートとパス

Cisco BroadWorks 版 Webex クライアントは、サインインに使用されるものと異なるよう XSI ルート、アクション、イベント パスを制御するために、次のタグを使用します。

XSIルートを変更する主な理由は、コンフィギュレーションレベルでロードバランシングを実装するためであるが、代わりにHTTPレイヤーでロードバランシングを使用することを推奨する。

イベントとアクションのパスは、クライアントによって実行された XSI HTTP リクエストの URL パスから *com.broadsoft* ドメイン参照を削除するブランディング要件によって通常変更されます。

```
<config>
<protocols><xsi>
       <paths>
              <root>%XSI_ROOT_WXT%</root>
              <actions>%XSI_ACTIONS_PATH_WXT%</actions>
              <events>%XSI_EVENTS_PATH_WXT%</events>
       </paths>
```

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%XSI_ROOT_WXT%	コンフィギュレーション・フェッチに使われたオリジナルのものを使い続ける。	URL文字列	すべてのXSI操作のためのXSIルート。 例: https://domain.com/
%XSI_ACTIONS_PATH_WXT%	/com.broadsoft.xsi-actions/ を参照してください。	文字列	XSI Actions のパスを指定します。 これは"/"で始まり、"/"で終わるもので、アクション・コンテキストのみを含む。 例 /com.domain.xsi-actions/。
%XSI_EVENTS_PATH_WXT%	/com.broadsoft.xsi-events/（英語	文字列	XSI Events のパスを指定します。 開始と終了は “/” でなければならず、イベントのコンテキストだけを含める必要があります。 例 /com.domain.xsi-events/。

6.1.32.2 XSI 動的プロキシ検出

Webex アプリは XSP の XSI (XSI-Actions & XSI-Events) およびデバイス管理サービス (DMS) サービスにアクセスします。XSI サービス ホストを検索するために、Webex アプリは _xsi-client._tcp.. の DNS SRV ルックアップを実行します。SRV は、XSP ホストまたは XSI サービスのロードバランサに設定された URL を指します。SRV ルックアップが利用できない場合、Webex アプリは A/AAAA ルックアップにフォールバックします。

クライアントが、以下の DNS フローを使用して XSP ノードの検索を試みます。

- Webex アプリは最初に Cisco Webex Cloud から Xsi-Actions/Xsi-Events URL を取得します (関連する BroadWorks Calling クラスタを作成するときに入力されます)。XSI ホスト名/ドメインは URL から解析され、クライアントは次のようにして SRV ルックアップを実行します。
    - Webex アプリは _xsi-client._tcp. の SRV ルックアップを実行します
    - SRV ルックアップが 1 つ以上のターゲットを返した場合:
        - Webex アプリは XSI ホスト名の A/AAAA ルックアップを行い、有効な IP アドレスである場合、XSI ホスト名がキャッシュされたリストの背面にバックアップ サービスとして追加されます。
        - クライアントは、SRV の優先順位、重み付けに基づいてターゲットの 1 つに接続します（またはすべてが等しい場合はランダムに）。
    - SRV ルックアップがターゲットを返さなかった場合:
        - Webex アプリは、Root XSI パラメータの A/AAAA ルックアップを行います。有効な IP アドレスであれば、これはキャッシュされたリストに追加された唯一のアドレスです。具体的には、負荷を分散するエッジ要素や XSP サーバー自身などが考えられます。
        - A/AAAA レコードは、同じ理由で 1 つの IP アドレスに解決する必要があります。
- カスタム XSI-Actions/XSI-Events パスは、前のセクションの説明に従って、DMS 設定ファイルで設定できます。
    - 最初の XSI ルートまたはアクション パスに差異がある場合、クライアントは XSI アクション/XSI Events の接続を再初期化します。この最初のステップは、ステップ1 にリストされている同じ DNS ルックアップ プロセスを実行することです。今回は、設定ファイルから %XSI_ROOT_WXT% パラメータの値のルックアップを要求します。
    - 注意: このタグを使用して XSI インターフェイスを変更する場合は、必ず対応する SRV レコードを作成してください。

Webex アプリには、XSI プロキシ検出を制御するための設定可能なオプションもあります。XSI プロキシ検出モードは、XSI 通信に使用される、メイン XSI ホスト名（SRV ルックアップに使用される）と/または DNS SRV 解決済みの XSI ターゲットの組み合わせを制御するために使用できます。構成ファイルをダウンロードするために、Webex アプリは最初に *srv-host* モードを使用します。構成ファイルがダウンロードされると、構成されたプロキシ検出の *モード* が適用されます。プロキシ検出の *モード* は、次のいずれかを実行できます。

- *ホストのみ* - メイン XSI ホスト名のみを使用し、DNS SRV ルックアップをトリガーしないでください
- *srv-only* - メイン XSI ホスト名を使用せず、DNS SRV ルックアップのみに依存します
- *prefer-srv* - DNS SRV レコードが見つかった場合は、それらのみを使用してください。そうでない場合は、メイン XSI ホスト名のみを使用してください
- *srv-host* - (デフォルト) DNS SRV レコードが見つかった場合は、優先順位を付けて、リストの最後にメイン XSI ホスト名をバックアップサービスとして追加します。そうでない場合は、メイン XSI ホスト名を使用します

DMS 構成ファイルのダウンロード後:

- 空の XSI ルートがある場合、またはメイン XSI ホスト名と同じ値で、プロキシ検出モードが *srv-host* と異なる場合:
  - *ホストのみ* - 結果の XSI ターゲットを更新し、メイン XSI ホスト名のみを残します
  - *srv-only* - 結果の XSI ターゲットを更新し、SRV アドレスのみを残します
  - *prefer-srv* - アドレスが 1 つだけの場合、メインの XSI ホスト名である必要があります。他にもある場合、メイン XSI ホスト名はリストから削除されます
- XSI ルートが空ではなく、その値がメイン XSI ホスト名とは異なる場合:
  - XSI ルート値を使用して新しい DNS ルックアップ プロセスを実行
  - 設定されたプロキシ検出モードに従って DNS 結果を注文する
  - XSI アクションと XSI Events の接続を再初期化

```
<config>
<protocols><xsi>
   <proxy-discovery mode="%XSI_PROXY_DISCOVERY_MODE_WXT%"/>
```

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%XSI_PROXY_DISCOVERY_MODE_WXT%	srv ホスト	ホストのみ、srv-only、prefer-srv、srv-host	構成ファイルのダウンロード後にアプリケーションで使用される XSI ターゲットのリストを Webex アプリで構築する方法を制御します。初期検出は、DMS 設定のダウンロード前に、常に srv-host モードを使用します。

6.1.32.3 XSI イベント チャネル

XSIイベントチャネルは、以下のような様々なサービスに使用される：

- XSI 通話中制御

- 通話設定のステータス通知
- 通話録音

XSI Events のハートビートは、XSI Event チャネルをオープンに保つために使用され、ハートビートの間隔は以下のパラメータで指定できます。

リリース45.11 では、XSI イベント チャネルの使用にいくつかの最適化が導入されています。

- XSI イベント チャネルの非アクティブ タイムアウトを制御するための新しい設定可能なパラメータ。設定されている非アクティブタイムアウト内にデータ (XSI イベント) またはハートビート応答を受信しない場合、XSI イベント チャネルは閉じられます。
- イベントチャネルが閉じている場合
  - 指定された主催者は 10 分間、ブラックリストに追加されます
  - 再接続ロジックが開始され、次の XSI ホストに再接続しようとし、5 秒から開始される増分タイマーの後、ランダムファクターを含む最大 150 秒の Fibonacci 番号に従います。
  - すべての XSI ホストがブラックリストに登録されている場合、ブラックリストはクリアされ、アプリはすぐに最も優先順位の高いホストへの再接続を開始します。

```
<config>
<protocols><xsi>
<event-channel enabled="%ENABLE_XSI_EVENT_CHANNEL_WXT%">
    <heartbeat-interval>%CHANNEL_HEARTBEAT_WXT%</heartbeat-interval>
    <inactivity-timeout>%CHANNEL_INACTIVITY_TIMEOUT_WXT%</inactivity-timeout>
```

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_XSI_EVENT_CHANNEL_WXT%	true	true、false	XSI Event チャンネルを有効にするかどうかを制御します。例えば、通話中制御サービス関連のイベントを受信するためには、"true" に設定すべきである。 推奨値は "true "である。
%CHANNEL_HEARTBEAT_WXT%	10000	1 つの電話番号	これはXSIイベントチャネルのハートビート（ミリ秒）です。
%CHANNEL_INACTIVITY_TIMEOUT_WXT%	60000	(0-120000]	XSI イベント チャネルの最大非アクティブなタイムアウト（ミリ秒単位）を指定します。イベントを受信するまで待機する時間（ハートビート応答またはその他の XSI イベント）。 0以上で120000以下である必要があります (2 分)

6.1.33 コーデックの設定

Cisco BroadWorks 版 Webex は、さまざまな音声およびビデオ コーデックを提供します。それぞれのコーデックのリストは、*config/services/calls/* 、*audio/codecs* 、*video/codecs* 。各コーデックの優先順位は、*XML-attribute priority* 、0.0（最低）から1.0（最高）の間の値で変更できる。

Webex アプリは次のコーデックを正式にサポートしています。

- Audio
  - Opus
  - G.722
  - G.729
  - PCMU (G.711U)
  - PCMA (G.711A)
  - iLBC
  - AI Codec
- Video
  - H.264

```
<config>
<services><calls>
  <audio>
    <codecs>
      <codec name="opus" priority="1" payload=""/>
      <codec name="xCodec" mode="HP" priority=".99" payload=""/>
      <codec name="xCodec" mode="ULP" priority=".98" payload=""/>
      <codec name="G722" priority=".9" payload=""/>
      <codec name="PCMU" priority=".8" payload=""/>
      <codec name="PCMA" priority=".7" payload=""/>
      <codec name="G729" priority=".5" payload="" vad=""/>
      <codec name="iLBC" priority=".4" payload="" framelength="30"/>
      <codec name="telephone-event" payload="101" in-band="false"/>
      <codec name="telephone-event" payload="102" clockrate="48000" in-
band="false" />
    …
  <video>
    <codecs>
      <codec name="H264" payload="109" resolution="HD" framerate="30"
bitrate="2000000" priority="1.0">
        <packet-mode>0</packet-mode>
```

クライアントはビデオコーデックとしてH.264をサポートしています。ビデオ解像度の属性（アプリがアドバタイズする最大ビデオ解像度を示す）は、次のいずれかの値に設定できます。SUBQCIF、QCIF、CIF、4CIF、VGA、HD、および WIDE_FULL_HD。

リリース45.8以降、デスクトップアプリで使用される最大ビデオ解像度はデフォルトの HD から WIDE_FULL_HD に更新され、モバイルアプリとタブレットアプリの 1 つが残ります。4CIF.

コンフィギュレーションでビットレートが入力されていない場合、デフォルトのビットレート値が使用される。解像度とフレームレートごとのデフォルトのビットレート値を以下の表に示す。

解決策	ビデオ サイズ *	FPS (フレーム/秒)	解像度とFPSごとのビットレートのデフォルト値
SUBQCIF	128 x 96	15	128000
QCIF	176 x 144	30	192000
CIF	352 x 288	15	384000
CIF	352 x 288	30	768000
VGA	640 x 460	15	2000000
4CIF	704 x 576	25	2000000
HD	960 x 720	30	2000000
WIDE_FULL_HD	1920 x 1080	30	4000000

***** 広告に掲載されているビデオ解像度の最大値。2 つの Cisco BroadWorks 版 Webex クライアント間の通話中の実際のビデオ解像度は、両方のクライアントの機能によって異なります。2 つのクライアントの下位になり、両方のクライアントでも同じになります。

ビデオ通話のビデオ解像度は、セッションのセットアップ時にネゴシエートされ、2つのエンドポイントの能力に基づいて決定されます。ビデオ通話の解像度は、両方のエンドポイントで同じです。つまり、Cisco BroadWorks 版 Webex エンドポイントに異なる機能がある場合 (したがって異なる解像度をサポート)、コールに対して低い解像度がネゴシエートされます。ネットワークの状態が悪化した場合、通話中にビデオの解像度が変わることがあります。この場合、2つのモバイル・エンドポイントは異なるビデオ解像度を使用している可能性がある。

パケット化モードはSingleNAL（0）またはNon-interleaved（1）に設定できる。テンプレートはデフォルトで SingleNAL を使用します ()。

電話イベントの設定（単一または複数）もサポートされている。コーデック・ネゴシエーションの間、クライアントは電話イベントを含め、設定されたすべてのコーデックを送信する。オーディオコーデックが選択された後、オファー内の電話イベントを検索します。オファーが、ネゴシエートされたオーディオコーデックのサンプルレートを持つ電話イベントを持っている場合、この電話イベントが選択されます。そうでない場合は、リストの最初の電話イベントが使われる。

ネゴシエートされた電話イベントが1つ以上ある場合、デュアルトーンマルチフ レクエンシー (DTMF)は、対応するペイロードタイプを使用するRTPパケットとして 送信される。また、ネゴシエートされた電話イベントがまったくない場合、 DTMFは、ネゴシエートされたオーディオコーデックのペイロードタイプを持つ RTPパケットとして送信される。DTMF を配信するためのアウトオブバンドメカニズムは、Webex アプリではサポートされていません。

設定されているコーデックの例：

```
<codec name="telephone-event" payload="100" in-band="false" />
<codec name="telephone-event" payload="101" clockrate="48000" in-band="false" />
```

サンプルレート48kbpsのオーディオコーデックがネゴシエートされた場合、ペイロード101の電話イベントが使用される。

6.1.33.1 AIコーデック

リリース44.8から、Webex アプリでは、新しい音声コーデック AI コーデック（xCodec）のサポートが導入されます。このオーディオ・コーデックは、より良い通話品質を実現するために、不利なネットワーク条件下で使用される。Webex アプリの Webex Media Engine は、デバイスの機能を確認し、メディア品質を追跡し、構成ファイルでサポートされ、有効になっている場合は AI コーデックを使用できます。

AIコーデックはOpusコーデックとの組み合わせでのみ動作します。つまり、SDPネゴシエーションの間に、OpusとAIコーデックの両方をアドバタイズし、 双方でネゴシエートする必要がある。

6.1.34 SIP-URI ダイヤル

現在、BroadWorksを介したSIP-URIダイヤリングは利用できず、デフォルトではすべてのSIP-URIコールは「無料通話」とも呼ばれるLocusを経由します。環境によっては、これは好ましくないので、そのような通話はブロックすべきである。

> **注**: これは、軌跡の呼び出しが無効になっている場合にのみ適用される。この場合のみ、SIP URIダイヤルブロックが機能する。

以下の設定はこのオプションを提供する。

```
<config>
    <services>
        <calls>
            <sip-uri-dialing enable-locus-
calling="%SIP_URI_DIALING_ENABLE_LOCUS_CALLING_WXT%"/>
```

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%SIP_URI_DIALING_ENABLE_LOCUS_CALLING_WXT%	true	true、false	SIP-URIをLocus経由でルーティングするか(true)、ブロックするか(false)を制御する。

6.1.35 通話履歴

Webex アプリは、ユーザーの通話を追跡するための通話履歴をサポートしています。ユーザーのプライマリ回線の場合、通話履歴はユーザーのすべてのデバイスで同期されます。セカンダリ回線 (共有および仮想) の場合、アプリはローカル通話履歴レコードのみを保持します。

リリース45.11 では、セカンダリ回線（共有および仮想）の統合通話履歴も追加され、すべてのユーザーのデバイスで同期されます。現在の設定オプションでは、プライマリ回線とセカンダリ回線の統合通話履歴の両方を制御できるようになりました。

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_UNIFIED_CALL_HISTORY_WXT%	false	true、false	プライマリ回線のみ、アプリケーションが Unified Call History またはクライアント側（ローカル）を使用するかどうかを制御します。

6.1.36 ビデオ通話を無効にする

リリース41.9 では、ビデオ コールを無効にする機能が追加されました。BroadWorksのVoIPコールとLocus（無料）のVoIPコールには、それぞれ別の設定オプションがあります。

機能が有効で、機能タグが "false "に設定されている場合：

- ビデオをオンにして着信を受ける」設定が表示されない。
- 着信したビデオ通話をすべて音声通話にする。
- ユーザーはビデオ通話にエスカレーションできず、ビデオ通話へのエスカレーションは自動的に拒否されます。

ビデオ通話が有効になっている場合、新しい設定プロパティが追加され、「Accept incoming calls with my video on」設定のデフォルト値を制御できるようになりました。デフォルトでは、この機能はデスクトップではオンになっており、モバイルとタブレットではオフになっています。

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_SIP_VIDEOCALLS_WXT%	true	true、false	BroadWorks を介した SIP ビデオ通話の可用性を制御します。
%ENABLE_LOCUS_VIDEOCALLS_WXT%	true	true、false	軌跡（無料）ビデオ通話の可用性を制御します。
%VIDEOCALLS_ANSWER_WITH_VIDEO_ON_DEFAULT_WXT%	デスクトップ - true モバイル/タブレット - false	true、false	ビデオをオンにして着信を受ける」設定のデフォルト値を制御します。

6.1.37 緊急（911）通話:E911 プロバイダーによるロケーションレポート

デスクトップおよびタブレットの Webex クライアントは、BroadWorks 版 Webex 導入の RedSky、Intrado、または別の E911 緊急ロケーション プロバイダーを使用して、E911ロケーションレポートをサポートします。E911プロバイダーは、デバイスごとのロケーション サポート (Webex デスクトップ、タブレット アプリ、および HELD 対応の MPP デバイス) と、米国、その準州 (グアム、プエルトリコ、およびバージン諸島)、およびカナダのみの公共の安全応答ポイント (PSAP) への緊急コールをルーティングするネットワークを提供します。サービスはロケーションに基づいて有効にできます。

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%EMERGENCY_DIALING_ENABLE_REDSKY_WXT%	false	true、false	E911 プロバイダーの緊急ロケーション プラットフォームを有効にします。
%BWE911-PRIMARY-HELDURL%	空	文字列	HELD プロトコルをサポートする E911 プロバイダー緊急ロケーション プラットフォームへの URL を指定します。
%BWE911-CUSTOMERID%	空	文字列	E911 プロバイダー HTTPS 要求に使用される顧客 ID（HeldOrgId、CompanyID）。
%BWE911-SECRETKEY%	空	文字列	E911 プロバイダーの HTTPS 要求を認証するためのシークレット。
%BWE911-EMERGENCY-NUMBER-LIST%	空	CSV文字列	E911 プロバイダーがサポートする緊急番号のリスト。
%EMERGENCY_REDSKY_USER_REMINDER_TIMEOUT_WXT%	0 (再度プロンプトは表示されない)	番号 [0 - 43200]	現在の緊急ロケーションが入力されていないか、無効の場合に、ユーザーに緊急ロケーションを更新するようにリマインドするために使用されるタイムアウト（分単位）。 有効にする場合の推奨値：1440（1日）。
%EMERGENCY_REDSKY_USER_MANDATORY_LOCATION_WXT%	-1 (ユーザは常にダイアログをキャンセルできる)	番号 [-1 - 100]	ロケーションが必須になる前に、ユーザがロケーション ダイアログを閉じることを許可する時間（つまり、ロケーション ウィンドウを閉じることはできません）。 使用可能な値: ▪ N = -1（ユーザはいつでもダイアログをキャンセルできます） ▪ N = 0（ユーザーはダイアログをキャンセルすることができない。） ▪ N > 0 (ダイアログが必須になる前に、ユーザーはN回キャンセルできる)

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%EMERGENCY_REDSKY_USER_LOCATION_PROMPTING_WXT%	アグレッシブ、1回のログインにつき1回	once_per_login	E911 ロケーション プロンプトの動作を定義します。一方、「once_per_login」は、ダイアログを一度だけ表示し、ポップアップが表示されるのを防ぐ。

注意1: BWE911-*** タグは「動的組み込みシステムタグ」です。詳細については、「*5.7 Cisco BroadWorks 動的組み込みシステム タグ*」を参照してください。

注意2: VOIP 通話が無効になっている場合、緊急ダイヤル シーケンス (%EMERGENCY_CALL_DIAL_SEQUENCE_WXT%) の唯一の意味のある値は cs のみです。

6.1.38 アイデンティティとしてのPAI

着信呼の場合 、この新しいパラメータは、SIP FromヘッダーとP-Asserted-Identity (PAI)ヘッダーの優先順位、および通話回線IDとして使用するものを制御する。着信SIP INVITE中にX-BroadWorks-Remote-Party-Infoヘッダーがある場合、それは SIP FromヘッダーおよびPAIヘッダーよりも優先して使用される。着信 SIP INVITE に X-BroadWorks-Remote-Party-Info ヘッダーがない場合、この新しいパラメータは、SIP From ヘッダーが PAI ヘッダーよりも優先されるか、またはその逆かを決定します。

タグの enabled 属性が “true” に設定されている場合、PAI ヘッダーは From ヘッダーよりも優先順位で使用されます。この発信者IDは、コンタクトを解決してユーザーに提示するために使用される。

発信呼 の場合、このロジックは適用されない。18X、200OK 応答では、接続された回線 ID を受信するため、Webex アプリケーションは常に SIP PAI ヘッダーを優先度で使用します。

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%USE_PAI_AS_CALLING_IDENTITY_WXT%	false	true、false	ユーザーに提示される呼のIDを、SIP From ヘッダーまたはSIP P-Asserted-IDヘッダーのどちらから取得するかを制御する。PAI ヘッダーを優先的に使用する場合は "true " を設定する。

6.1.39 画面共有を無効にする

リリース42.5 では、画面共有の可用性を制御する機能が追加されています。画面共有が無効の場合：

- 1-1通話で画面共有を開始するオプションが表示されない。

- 受信した画面共有リクエストは拒否され、ユーザーには情報メッセージが表示されます。

デフォルトでは、この機能は有効になっています。

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_SCREEN_SHARE_WXT%	true	true、false	ユーザーに対して画面共有を有効にするかどうかを指定します。

6.1.40 スパムコール通知

フィーチャー トグル (展開タイプごと) が有効になっており、構成ファイルで機能が有効になっている場合、Webex アプリは NewCall プッシュ通知または通話履歴レコードの一部として受信された場合、スパム コール検証ステータスを示す新しいパラメータを処理します。

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_CALLS_SPAM_INDICATION_WXT%	false	true、false	Webex Calling のみの着信通話画面および通話履歴でのスパム通話表示の可用性を制御します。

6.1.41 PSTN/モバイル コールのノイズ除去と帯域幅拡張

ノイズ除去は、PSTN またはモバイル デバイスで Webex 以外のユーザーと通話するときに、通話ユーザーにより優れた通話エクスペリエンスを提供します。リリース43.12では、ノイズ除去がデフォルトでオンになっている。

Webex アプリのリリース44.2 では、狭帯域の PSTN 通話用の新しい着信音声メディアのスピーチ AI が導入されました。

- 新しい帯域幅拡張アルゴリズムが追加され、狭帯域PSTNスペクトラムの帯域幅を拡張し、ノイズを除去することで音質を向上させる。帯域幅が広がることで、明瞭度が増し、聴き疲れが軽減されます。
- 既存のノイズ除去アルゴリズムが強化され、ミュージック・オン・ホールドやその他の音声トーン（ビープ音など）の制限がなくなりました。
- この機能を有効にすると、「Smart audio - external」インジケータが表示され、入力されるオーディオメディアの音声AI拡張機能を制御できるようになります。

デフォルトでは、これらの音声拡張機能は有効になっており、オンになっています。ユーザーは、オーディオ環境設定のスマートオーディオ設定で初期状態を制御できます。

```
<config>
   <services>
```

```
    <calls>
      <speech-enhancements enabled="%ENABLE_SPEECH_ENHANCEMENTS_WXT%"/>
```

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_SPEECH_ENHANCEMENTS_WXT%	false	true、false	外部（着信）メディアの音声拡張機能を有効にします。

注： ノイズ除去は追加の音声強化の一部となり、新しい タグは廃止されました。ノイズ除去カスタムタグ %ENABLE_NOISE_REMOVAL_WXT% も廃止されています。

6.1.42 QoS DSCP マーキング

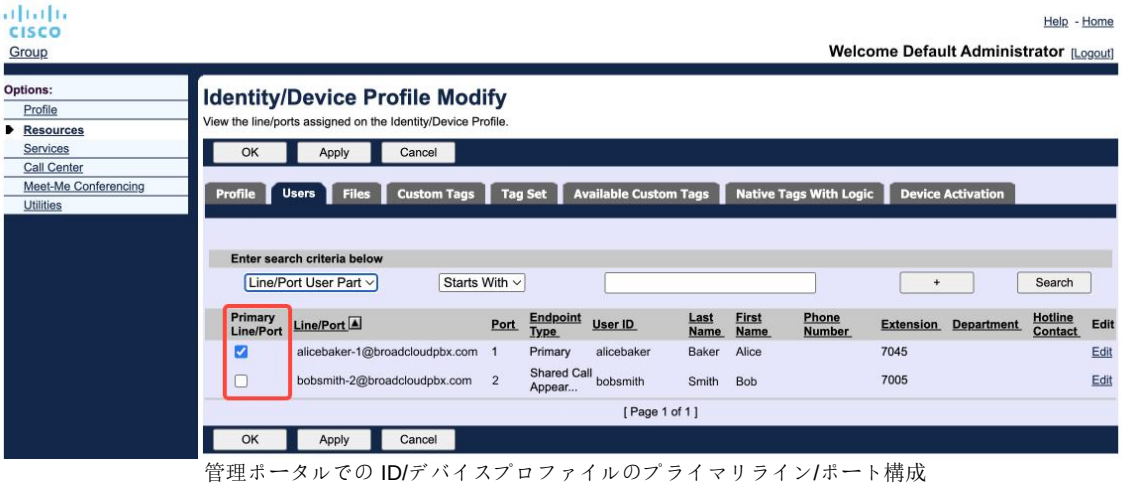
QoS DSCP マーキングは、Webex アプリの通話メディア RTP パケット (音声とビデオ) でサポートされています。DSCPはネットワークデータのトラフィック分類を決定する。これは、どのネットワークトラフィックがより高い帯域幅を必要とし、より高い優先順位を持ち、パケットをドロップする可能性が高いかを判断するために使用できる。

注意: Microsoft Windows オペレーティング システムの最新バージョンでは、アプリケーションが送信パケットに DSCP または UP を直接設定することを許可しません。代わりに、UDP ポート範囲に基づいて DSCP マーキング ポリシーを定義するためにグループ ポリシー オブジェクト (GPO) の展開が必要になります。

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_AUDIO_QOS_WXT%	true	true、false	音声通話のQoSを有効にします。
%AUDIO_QOS_VALUE_WXT%	46	0-63	音声通話の選択されたQoSタイプのQoS値を指定します。 注意: 値が提供されないか、値がうまくパースできなかった場合は、デフォルト値が使用される。
%ENABLE_VIDEO_QOS_WXT%	true	true、false	ビデオ コールの QoS を有効化
%VIDEO_QOS_VALUE_WXT%	34	0-63	ビデオ コールに対して選択した QoS タイプの QoS 値を指定します。 注意: 値が提供されないか、値がうまくパースできなかった場合は、デフォルト値が使用される。

6.1.43 主なプロフィール

共有回線の統合 (*6.1.50.1 デスクトップ - 共有回線アピアランス*) では、ユーザーの回線が別のユーザーと共有されている場合、ユーザーに対して同じタイプの複数のプロファイルが設定されている場合があります。電話サービスにサインインするための正しいプロファイルを選択するには、Cisco BroadWorks が拡張され、ユーザーがデバイスを所有しているかどうか、つまり、デバイスのプライマリ回線/ポートが割り当てられているかどうかを示します。Cisco BroadWorks の更新に関する詳細については、「Webex クライアント共有回線をサポートするためのデバイス リストの所有者フラグ」にチェックを入れます。



管理ポータルでの ID/デバイスプロファイルのプライマリライン/ポート構成

リリース43.2から、新しい設定オプション (*device-owner-restriction*) が追加され、プライマリ プロファイルの制限を適用するかどうかを制御します。Webex アプリケーションがプライマリ以外の回線/ポートプロファイルを使用して電話サービスにサインインすることを許可するために使用できます。この設定オプションは、ユーザーに設定されているプロファイルの数に関係なく、すべての設定に適用されます (**デバイスの所有者制限が有効になっており、対応するプラットフォームのプライマリ回線/ポートを持つデバイスがない場合、電話サービスは接続されません**)。

ユーザーがデスクトップ Webex アプリでペアリングできるデバイスにも同じ制限が適用されます。ユーザーは、所有しているデバイスのみを表示してペアリングできます。これにより、共有回線または仮想回線を割り当てられた他のユーザーのデバイスとペアリングすることができなくなります。同じコンフィギュレーション・パラメータの値は、この制限にも適用される。

```
<config>
<services><calls>
<device-owner-restriction enabled="%ENABLE_DEVICE_OWNER_RESTRICTION_WXT%"/>
```

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_DEVICE_OWNER_RESTRICTION_WXT%	true	true、false	電話サービスが指定されたデバイスのプライマリプロファイルを使用するかどうかを制御します。

> **注：** 所有者の制限を有効にすることを推奨する。無効にすると、電話サービスは最初に見つかったプロファイルを使用してサインインするため、同じタイプのユーザーに複数のプロファイルが設定されている場合、問題が発生する可能性があります。

6.1.44 ブロック リスト (Webex Calling のみ)

Webex アプリから43.5 、ユーザ定義の電話番号のブロック リストが導入されます。この機能が有効な場合、ユーザーは特定の番号からの着信をサーバー側でブロックし、ユーザーのどのデバイスにも配信されないように指定することができます。ブロックされた通話は通話履歴で確認できる。

ユーザーは、通話設定と通話履歴の2つの場所からブロックリストを設定することができます。環境設定では、ブロックされた番号のリストを確認し、編集することができます。通話履歴では、ユーザー定義のブロックリストによってブロックされた通話の通話履歴レコードを見ることができます。これらのレコードには、その番号がユーザー定義のブロックリストにある場合、ブロック済みと表示され、ユーザーは指定されたレコードの番号のブロックを直接解除するオプションがあります。ブロックオプションもある。

ユーザー定義ブロックリストに追加される番号のルール：

番号の形式

- 通話基本設定からブロックすると、Webex アプリで E.164 形式の制限がローカルで適用されます
- すべての Webex Calling レコードで通話履歴からのブロックが許可されます
- Cisco BroadWorks は、番号形式に基づいてブロックリストに追加された新しい番号の要求を許可または拒否できます。

内線番号 - 内線番号からの着信は、ユーザー定義のブロックリストに含まれていても、ユーザーに配信されます。

ユーザー定義のブロック リストは Cisco BroadWorks で構成され、ユーザーのためにすべての WxC デバイスに適用されます。この機能は、管理者が定義したブロック リストと連携して機能します。この機能はユーザーが構成できず、管理者は Control Hub を通してのみ制御できます。管理者定義のブロックリストでブロックされた着信の着信履歴レコードはありません。

ユーザー定義ブロックリストは、STIR/SHAKEN、管理者定義ブロックリスト、匿名着信拒否ポリシーの後に適用される。

```
<config>
```

```
<services><calls>
<call-block enabled="%ENABLE_CALL_BLOCK_WXT%"/>
```

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_CALL_BLOCK_WXT%	true	true、false	ユーザー定義のブロックリストを有効にする true」に設定すると、通話設定と通話履歴にブロックリストが表示されます。

注：この機能は、ユーザーに割り当てられている Cisco BroadWorks Call Block サービスによって異なります。

6.1.45 メディア適応とレジリエンスの実施（MARI）

6.1.45.1 レート適応

Webex アプリケーションには、音声がビデオ パケット損失の影響を受けないことを確認するための適応型メディア品質技術をすでに統合しています。また、ビデオがビデオ レート アダプテーションを利用して、輻輳時に使用される帯域幅の量を管理できるようにします。

レートアダプテーションまたはダイナミックビットレート調整は、利用可能な可変帯域幅に通話レートを適応させ、パケットロス状況に基づいてビデオビットレートをダウンスピードまたはアップスピードする。エンドポイントは、受信機からパケットロスを示すメッセージを受け取るとビットレートを下げ、パケットロスが減るとビットレートを上げる。

レート・アダプテーション・メカニズムの使用を制御するための設定項目はない。

6.1.45.2 転送エラー修正 (FEC) とパケット再送信 (RTX)

リリース43.4以降、Webex アプリは、音声とビデオ メディアの両方に対する転送エラー修正（FEC）とパケット再送信（RTX）をサポートするメディア適応メカニズムに追加します。

FECは、所定のアルゴリズムを使用することにより、伝送情報に冗長性を与える。冗長性により、受信側は送信側に追加データを要求することなく、限られた数のエラーを検出して訂正することができる。FECは、データの再送を要求するためのリバース・チャネル（RTCPなど）を必要とせずにエラーを修正する能力をレシーバーに与えるが、この利点は、固定的に高いフォワード・チャネル帯域幅（より多くのパケットを送信）の代償となる。

エンドポイントは768kbps未満の帯域幅ではFECを使用しない。また、FECを導入する前に少なくとも1.5%のパケットロスがなければならない。エンドポイントは通常、FECの有効性を監視し、FECが効率的でない場合は使用しない。

FECは再送よりも帯域幅を消費するが、遅延は少ない。RTXは、小さな遅延が許容され、帯域幅の制約がある場合に使用される。大きな遅延と十分な帯域幅がある場合は、FECが望ましい。

Webex アプリは、特定のメディア ストリームのネゴシエートされた帯域幅と遅延許容量に応じて、RTX または FEC を動的に選択します。FECは、冗長なビデオデータのために帯域幅の使用率が高くなりますが、失われたパケットを回復するための追加遅延は発生しません。一方、RTXは、RTCPフィードバックチャネルでレシーバーがパケット損失を示した場合にのみRTPパケットを再送するため、帯域幅の使用率の向上には寄与しない。RTXは、RTCPパケットが送信者から受信者に到達するまでの時間と、再送されたパケットが送信者から受信者に到達するまでの時間により、パケット回復遅延をもたらす。

RTXを有効にするには、FECを有効にする必要がある。

```
<config><services><calls>
<audio>
       <audio-quality-enhancements>
              <mari>
                     <fec enabled=”%ENABLE_AUDIO_MARI_FEC_WXT%”>
                            <x-ulpfecuc>8000</x-ulpfecuc>
                            <payload>111</payload>
                            <max_esel>1400</max_esel>
                            <max_n>255</max_n>
                            <m>8</m>
                            <multi_ssrc>1</multi_ssrc>
                            <non_seq>1</non_seq>
                            <feedback>0</feedback>
                            <order>FEC_SRTP</order>
                     </fec>
                     <rtx enabled=”%ENABLE_AUDIO_MARI_RTX_WXT%”>
                            <mari-rtx>90000</mari-rtx>
                            <payload>112</payload>
                            <time>180</time>
                            <data-flow>1</data-flow>
                            <order>RTX_SRTP</order>
                     </rtx>
              </mari>
...
<video>
       <video-quality-enhancements>
              <mari>
                     <fec enabled="%ENABLE_VIDEO_MARI_FEC_WXT%">
                            <x-ulpfecuc>8000</x-ulpfecuc>
                            <payload>111</payload>
                            <max_esel>1400</max_esel>
                            <max_n>255</max_n>
                            <m>8</m>
                            <multi_ssrc>1</multi_ssrc>
                            <non_seq>1</non_seq>
                            <feedback>0</feedback>
                            <order>FEC_SRTP</order>
                     </fec>
                     <rtx enabled="%ENABLE_VIDEO_MARI_RTX_WXT%">
                            <mari-rtx>90000</mari-rtx>
                            <payload>112</payload>
                            <time>180</time>
                            <data-flow>1</data-flow>
                            <order>RTX_SRTP</order>
                     </rtx>
```

```
                </mari>
```

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_AUDIO_MARI_FEC_WXT%	false	true、false	音声通話の FEC を有効にする
%ENABLE_AUDIO_MARI_RTX_WXT%	false	true、false	オーディオ通話でRTXを有効にする（オーディオFECを有効にする必要があります）
%ENABLE_VIDEO_MARI_FEC_WXT%	false	true、false	ビデオ コールの FEC を有効にする
%ENABLE_VIDEO_MARI_RTX_WXT%	false	true、false	ビデオ コールの RTX を有効化 (ビデオ FEC を有効にする必要があります)

6.1.46 同じユーザーとの同時通話

1つのデバイスで同一ユーザーとの同時通話をサポート。

この機能は、呼の提示されたIDが接続されたID と同じでない一部のデプロイメントに有用である。このため、元の相手への有人移籍を開始することができない。この機能を有効にすると、ユーザーは同じリモート・パーティーとの複数の同時通話を処理できるようになる。

```
<config>
   <services>
      <calls>
         <simultaneous-calls-with-same-user
enabled="%ENABLE_SIMULTANEOUS_CALLS_WITH_SAME_USER_WXT%"/>
```

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_SIMULTANEOUS_CALLS_WITH_SAME_USER_WXT%	false	true、false	Webex アプリに同じユーザーとの 1 つまたは複数の WxC 通話のみを使用できるかどうかを指定します。

6.1.47 RTCP-XR

リリース43.8から、Webex アプリはコール中に RTCP-XR パケット交換のネゴシエーションを追加します。ネゴシエーションはSIP INVITEセッションの確立中に起こる。両方のエンドポイントが RTCP-XR パケットをサポートしている場合、Webex Media Engine はこれらのパケットの交換を開始し、適応型通話品質メカニズムをサポートします。この機能は既定で選択済みです。

さらに、Webex Calling のみの場合、これらの追加メトリックは SIP BYE を通じて送信され、Control Hub で公開されます。

```
<config>
<protocols><sip>
   <rtcp-xr>
      <negotiation enabled="%ENABLE_RTCP_XR_NEGOTIATION_WXT%"/>
```

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_RTCP_XR_NEGOTIATION_WXT%	true	true、false	RTCP-XRネゴシエーションとパケット交換を有効にし、通話品質を向上。 デフォルトで有効になっています。

6.1.48 着信転送情報

Webex アプリのリリース44.2 では、通話関連画面と通話履歴での通話転送およびリダイレクト情報の可視性を制御するための設定可能なオプションが導入されました。

```
<config>
<services><calls>
<call-forwarding-info enabled="%ENABLE_CALL_FORWARDING_INFO_CALLS_WXT%"/>
```

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_CALL_FORWARDING_INFO_CALLS_WXT%	true	true、false	着信転送とリダイレクション情報の可視性を制御する。 true」に設定すると、通話関連画面や通話履歴に情報が表示されます。

6.1.49 発信者 ID

6.1.49.1 発信者 ID

Webex モバイル（リリース44.2）およびデスクトップ（リリース44.3）アプリでは、ユーザが発信通話の優先外部発信者 ID を選択するための新しい機能が導入されています。利用可能なオプションは以下の通り：

- 直通回線（デフォルト）
- ロケーション番号
- 同じ組織のカスタム番号
- エージェントが発信者番号を使用できるようにする、ユーザーが所属するコールキュー

- DNIS オプションが設定されている場合、それらのオプションを選択できるようになります。

- ユーザーが所属するハント グループ。エージェントが発信者 ID 番号を使用できます。
- 発信者 ID を非表示

メモ:

- オプションのリストは路線によって異なる:
  - プライマリーライン - オプション一式
  - 共有回線 - 利用不可
  - バーチャル回線 - コールキューオプションのみ
- すでに選択されているIDが利用できない場合、ユーザーのデフォルトの発信者IDが使用される。
- 緊急電話には、常にユーザーの緊急コールバック番号が使用されます。
- サービス>の下の発信コールタグを非推奨

利用可能なオプションのリストは、管理ポータルから設定可能です。Webex アプリでのこれらの強化の可用性を制御するために、別の DMS カスタム タグもあります。

```
<config>
<services><calls>
   <caller-id>
      <outgoing-calls enabled="%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_WXT%">
         <additional-numbers enabled="%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_ADDITIONAL_NUMBERS_WXT%"/>
         <call-center enabled="%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_CALL_CENTER_WXT%"/>
         <hunt-group enabled="%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_HUNT_GROUP_WXT%"/>
         <clid-delivery-blocking enabled="%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_DELIVERY_BLOCKING_WXT%"/>
      </outgoing-calls>
```

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_WXT%	false	true、false	発信時の回線ID番号選択を有効にする。
%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_ADDITIONAL_NUMBERS_WXT%	false	true、false	ユーザーに設定された追加番号の可用性を制御する。
%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_CALL_CENTER_WXT%	false	true、false	ユーザに設定されたコール センター（DNIS）番号の可用性を制御します。
%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_HUNT_GROUP_WXT%	false	true、false	ユーザに設定されたハント グループ番号の可用性を制御します。
%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_DELIVERY_BLOCKING_WXT%	false	true、false	発信コールの選択として発信者 ID 配信のブロックを有効にします。

注：デスクトップ アプリ バージョン 44.3 は、コール センター CLID のみをサポートし、44.4 は残りのオプションをサポートします。

6.1.49.2 リモート発信者 ID 名

コールを受信または開始すると、Cisco BroadWorks は SIP INVITE でリモートパーティの表示名を送信します。これは Webex アプリでデフォルトで使用されます。同時に、Webex アプリは複数のソースに対して次の優先順位で連絡先の解決を開始します。

- Common Identity (CI)
- コンタクトサービス（カスタムコンタクト）
- Outlook 連絡先 (デスクトップ)
- ローカルアドレス帳（モバイル）

いずれかの検索ソースに対してコンタクト解決に成功した場合、リモート・パーティの表示名が更新される。また、連絡先が CI で見つかった場合、コール セッションは同じユーザーの Webex クラウド サービスにリンクされ、リモートパーティのアバターとプレゼンスを表示したり、チャット、画面共有、Webex クラウド ミーティングにエスカレーションするオプションなどを提供します。

Webex アプリのリリース44.5では、連絡先解決を無視し、1:1 Cisco BroadWorks コールに使用されるワークスペースまたは RoomOS デバイスでの通話の Cisco BroadWorks 表示名を常に保持するための設定可能なオプションが追加されます。

```
<config>
<services><calls>
   <caller-id>
      <remote-name>
         <machine mode="%CLID_REMOTE_NAME_MACHINE_MODE_WXT%"/>
```

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%CLID_REMOTE_NAME_MACHINE_MODE_WXT%	解決済み	解決済み, sip	ワークスペースとRoomOSデバイスのリモートパーティ表示名を制御します。sip」を使用すると、コンタクトレゾリューションを無視し、SIP INVITEセッションで受け取った表示名を使用する。

6.1.50 複数回線

Webex ユーザは、プライマリ回線と最大9 のセカンダリ回線を持つことができます。セカンダリ回線は共有または仮想回線を使用できます（Webex Calling のみ）。BroadWorks 版 Webex の展開では、デスクトップ アプリは共有回線でのみ機能し、この機能はモバイル アプリではサポートされていません。

Webex アプリは、サインイン時にダウンロードされる DMS 設定ファイルを使用して、回線設定を取得します。12 回線設定の更新が検出された場合、ユーザーはアプリケーションを再起動して変更を適用するように要求されます。ユーザの再ログインは、回線設定の更新を即座に検出し、適用します。

デスクトップとモバイルの両方のマルチラインサポートに関する DMS 設定テンプレートのセクションを次に示します。

```
<config>
<protocols>
   <sip>
       <lines multi-line-enabled="%ENABLE_MULTI_LINE_WXT%">
          <personal>
              <line-port>%BWDISPLAYNAMELINEPORT%</line-port>
          </personal>
          <line lineType="%BW-MEMBERTYPE-1%">
              <external-id>%BWUSEREXTID-1%</external-id>
              <voice-mail-number>%BWVOICE-PORTAL-NUMBER-1%</voice-mail-number>
              <conference-service-uri>sip:%BWNETWORK-CONFERENCE-SIPURI-
1%</conference-service-uri>
              <domain>%BWHOST-1%</domain>
              <group-call-pickup>%BWGROUP-CALL-PICKUP-BOOL-1%</group-call-pickup>
             ...
          </line>
          <line lineType="%BW-MEMBERTYPE-2%">
              <external-id>%BWUSEREXTID-2%</external-id>
              <voice-mail-number>%BWVOICE-PORTAL-NUMBER-2%</voice-mail-number>
              <conference-service-uri>sip:%BWNETWORK-CONFERENCE-SIPURI-
2%</conference-service-uri>
              <domain>%BWHOST-2%</domain>
              <group-call-pickup>%BWGROUP-CALL-PICKUP-BOOL-2%</group-call-pickup>

             ...
          </line>
          ...
          <line lineType="%BW-MEMBERTYPE-10%">
              <external-id>%BWUSEREXTID-10%</external-id>
              <voice-mail-number>%BWVOICE-PORTAL-NUMBER-10%</voice-mail-number>
              <conference-service-uri>sip:%BWNETWORK-CONFERENCE-SIPURI-
10%</conference-service-uri>
              <domain>%BWHOST-10%</domain>
              <group-call-pickup>%BWGROUP-CALL-PICKUP-BOOL-10%</group-call-pickup>
             ...
          </line>
```

複数回線機能を制御するには、専用カスタム タグを使用します。

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_MULTI_LINE_WXT%	false	true、false	複数回線のサポートを有効にする（設定されている場合）。無効（"false "に設定）にすると、設定された最初の行だけがアプリケーションで使用される。

注意1: 機能の Boss-Admin (Executive-Assistant) サポート は、複数回線設定との組み合わせでは利用できません。

注2：追加の BroadWorks 要件については、『Webex-for-Cisco-BroadWorks-Solution-Guide』の「共有回線アピアランス」を参照してください。

6.1.50.1 デスクトップ - 共有回線アピアランス

リリース42.12以降、Webex アプリケーションは共有回線のサポートを追加します。管理者は、共有回線ごとに共有通話アピアランスを設定する必要があります。

リリース43.12すると、Webex アプリが拡張され、共有回線または仮想回線で保留中の通話を移動 (ローカルで再開) できます。これは、別のユーザまたは別のデバイス上の同じユーザによって処理されます。詳細については、*6.2.12 通話を移動* を参照してください。

6.1.50.2 デスクトップ - 仮想回線 (Webex Calling のみ)

Webex Calling 展開のみの場合、Webex アプリは仮想回線を使用した複数回線設定をサポートします。機能的には、仮想回線を使用する設定は、共有回線を使用する複数回線と一致します。ユーザーに設定された仮想回線を表示し、着信コールと発信コールに使用できます。

リリース43.4では、仮想回線のサポートが拡張され、グループ コール パークとコール パークの取得が追加されます。

リリース43.12すると、Webex アプリが拡張され、共有回線または仮想回線で保留中の通話を移動 (ローカルで再開) できます。これは、別のユーザまたは別のデバイス上の同じユーザによって処理されます。詳細については、*6.2.12 通話を移動* を参照してください。

6.1.50.3 モバイル (Webex Calling のみ)

Webex Calling 展開のみの場合、リリース45.4では、Webex アプリのモバイルバージョンで複数の回線（共有および仮想）のサポートが追加されます。回線の割り当ては、デスクトップとモバイル Webex アプリの両方に適用されます。

モバイル・プラットフォームの仕様により、ユーザーはどの回線でも同時に最大2つの通話ができる。

注意1: ネイティブ ダイヤラーを使用した通話が有効になっている場合 (*6.3.5.1 ネイティブダイヤラーによる通話*を参照)、複数回線が無効になります。

注意2: タブレット版のマルチラインはサポートされていません。

6.1.51 SIP 認証の強化

Webex アプリのリリース45.4 では、すべての SIP セッション間で認証を共有することで、SIP 通信を最適化するための設定可能なオプションが提供されます。アプリは認証を保存し、有効になるまで再使用します。

この機能により、サーバーと Webex アプリ間の SIP 通信がスピードアップし、トラフィックが軽減され、通話接続時間が短縮され、Webex アプリの全体的なパフォーマンスが向上します。

```
<config>
<protocols>
  <sip>
    <enhanced-authorization enabled="%ENABLE_ENHANCED_AUTHORIZATION_WXT%"/>
```

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_ENHANCED_AUTHORIZATION_WXT%	false	true、false	「true」に設定すると、SIP 認証の拡張機能が有効になります。

注1： 一部の SBC では、すべてのセッションで新しい SIP 認証が必要になる場合があります。そのため、この機能は展開の仕様に従って使用する必要があります。

注意2: この機能が有効になっている場合でも、Webex アプリが 401 Unauthorized を受信すると、次の SIP 要求で新しい認証が使用されます。

6.1.52 パーソナル アシスタント (退席中)

リリース44.11、モバイル Webex アプリおよびリリース45.3、デスクトップ Webex アプリでは、Cisco BroadWorks パーソナルアシスタント（PA）サービスとの統合が追加されます。ユーザーの退席中のプレゼンスと組み合わせて動作し、Webex Cloud プレゼンスと PA ステータスの同期が必要です。

PAサービスは、発呼側に発呼側が不在である理由を通知するオプションをユーザーに提供し、オプションとして、発呼側がいつ戻るか、通話を処理するアテンダントがいるかどうかに関する情報を提供する。

PAが有効になっている場合、Away presenceオプションが利用可能になります。Cisco BroadWorks 側で PA を設定するために使用できます。この機能を有効にすると、ユーザーは、PAステータスと設定された期間と組み合わせて、ユーザーのAwayプレゼンスが表示されます。

ユーザーはマニュアルPAコンフィギュレーションだけを設定することができます。PAサービスに影響するスケジュールがある場合、パーソナル・アシスタント・ステータス・シンクを通じてプレゼンスが更新されます。ただし、Webex アプリでは、スケジュール設定と PA に影響を与えるスケジュールは公開されません。

```
<config>
<services>
  <personal-assistant enabled="%PERSONAL_ASSISTANT_ENABLED_WXT%"/>
```

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%PERSONAL_ASSISTANT_ENABLED_WXT%	false	true、false	アウェイ・プレゼンス機能を利用できるかどうかを制御する。

注1： この機能を使用するには、Partner HubからPersonal Assistant Status Syncを有効にする必要があります。

注意2: DND、常時着信転送、または選択着信転送サービスがアクティブな間は、標準のパーソナル アシスタントコール ルーティングは有効になりません。

注3： 手動によるDo Not DisturbとBusyのプレゼンス状態は、Awayよりも優先度が高い。ユーザーマニュアルでこれらのプレゼンス・ステータスのいずれかを有効にした場合、パーソナル・アシスタントを有効にしても、プレゼンス・ステータスが「退席中」に変更されることはありません。

6.1.53 エンドツーエンド暗号化 (Webex Calling のみ)

リリース45.11以降、Webex Calling 導入のみで、Webex アプリは、同じ組織内のE2EEコールに対して音声およびビデオ メディアのエンドツーエンド暗号化（1-on-1）サポートを追加します。E2EE は、通信の参加者のみがコンテンツを復号できることを保証します。

そのコールは、SDP ネゴシエーション中に交換されたキーとともに、標準 SRTP 暗号化から始まります。2 人の参加者が E2EE をサポートしている場合、2 人の参加者にのみ利用可能な新しいキーセットが交換され、メディアの暗号化に使用されます。

```
<config><services>
<calls>
     <e2ee enabled="%ENABLE_CALLS_E2EE_WXT%"/>
```

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_CALLS_E2EE_WXT%	false	true、false	E2EEを1:1 コールに対して有効にするかどうかを制御します。

6.2 デスクトップのみの機能

6.2.1 強制ログアウト

この機能により、Cisco BroadWorks は同じデバイス タイプを持つオンライン クライアント インスタンスを追跡し、そのうちの 1 つのみ一度にオンラインになることができます。Cisco BroadWorks がクライアントにログアウトするように通知すると、SIP 接続は終了し、クライアントはコールが接続されていないことを示します。

この機能は、同じようなクライアントが同時にオンラインになる可能性があり、副作用を引き起こす可能性がある場合に必要となる。1つの例は、職場と自宅にデスクトップマシンを持つユーザーで、着信コールは、どちらのSIP登録がアクティブかによって、どちらかのクライアントでしか受信されない。

強制ログアウトはSIPに基づく。クライアントは、*bsoft-call-info*パラメータ値に関係なく、*From* ヘッダーに特別な*appid-value* を持つ*call-info* イベントパッケージにSIP SUBSCRIBEを送る。Cisco BroadWorks が同じ *appid* で複数のクライアント インスタンスをオンラインで検出すると、古いクライアント インスタンスに特別な SIP NOTIFY を送信し、ログアウトさせます。たとえば、Desktopクライアントは、*appid-value* 、クライアント側でこの識別子を使用することに制限はない。*appid-value* はサービスプロバイダーが設定する。

強制ログアウトを使用するには、SIP*Call-Info* サブスクリプションが有効になっていなければならないことに注意。

この機能に必要な Cisco BroadWorks パッチとリリースの詳細については、『*Cisco BroadWorks 版 Webex ソリューション ガイド*』の「Cisco BroadWorks ソフトウェア要件」のセクションを参照してください。

設定の詳細については、以下の例を参照のこと（本リリースでサポートされている制御プロトコルはSIPのみ）。

```
<config>
<services>
<forced-logout enabled="%ENABLE_FORCED_LOGOUT_WXT%" control-protocol="SIP"
appid="%FORCED_LOGOUT_APPID_WXT%"/>
```

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_FORCED_LOGOUT_WXT%	false	true、false	強制ログアウトを有効にする。
%FORCED_LOGOUT_APPID_WXT%	空	文字列	サーバー側で相関のために使用される Appid。これは任意の文字列である。 例"123abc"

6.2.2 通話ピックアップ

コールピックアップは、選択したユーザーがコールピックアップグループ内の任意の呼び出し音に応答できるマルチユーザーサービスです。コールピックアップグループは管理者によって定義され、グループ内のユーザーのサブセットで、お互いの通話をピックアップすることができます。

以下のピックアップケースに対応している：

- ブラインド・コール・ピックアップ
- ダイレクトコールピックアップ（各機能のアクセスコードに続いて着信している電話の内線番号をダイヤルすることで、グループ内の別の電話にかかってきた電話に応答することができます）。

```
<config>
<services><calls>
<call-pickup blind="%ENABLE_CALL_PICKUP_BLIND_WXT%"
directed="%ENABLE_CALL_PICKUP_DIRECTED_WXT%"/>
```

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_CALL_PICKUP_BLIND_WXT%	false	true、false	ブラインド・コール・ピックアップを有効にするには、"true "を設定します。
%ENABLE_CALL_PICKUP_DIRECTED_WXT%	false	true、false	ダイレクト コール ピックアップを有効にするには、「true」に設定します。

6.2.3 Boss-Admin (エグゼクティブ-アシスタント) のサポート

Cisco BroadWorks のエグゼクティブ アシスタント機能として知られる Boss-Admin は、アシスタントがエグゼクティブの代わりに操作して、「エグゼクティブ」としてコールをスクリーニング、応答、発信できます。一人のアシスタントが何人ものエグゼクティブを持つことは可能だ：

- 電話をかける際に必要な役割を選択します。
- エグゼクティブに代わって着信に応答し、エグゼクティブに電話をプッシュする。さらに、通常の通話管理オプションもすべて利用できる。
- 着信が実際に重役のものであることを確認する。

エグゼクティブとエグゼクティブ アシスタントは、2 つの相互関連の Cisco BroadWorks サービスであり、一緒に次の機能を提供します。

- エグゼクティブ・サービスを利用するユーザーは、通話を管理するアシスタントのプールを定義することができます。アシスタントは、Executive-Assistantサービスが割り当てられている同じグループまたは企業内のユーザーの中から選択する必要があります。

- エグゼクティブ・アシスタント・サービスを利用するユーザーは、エグゼクティブに代わって電話に出たり、電話をかけたりすることができます。
- エグゼクティブもアシスタントも、どの電話をアシスタントに転送するか、アシスタントに着信をどのように通知するか、アシスタントに転送された電話のうち、どの電話をエグゼクティブに提示し、スクリーニングするかなどを指定できる。

```
<config>
<services>
<executive-assistant enabled="%ENABLE_EXECUTIVE_ASSISTANT_WXT%"/>
```

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_EXECUTIVE_ASSISTANT_WXT%	false	true、false	Boss-Admin機能を有効にするには「true」を設定します。

注: ボス・アシスタント機能は、シェアード・ラインとの併用はできません。

6.2.4 SIP 通話をミーティングにエスカレーションする (Webex Calling のみ)

クライアントは、進行中の SIP コールを Webex Calling 経由でミーティングにエスカレーションする機能を提供します。標準的なアドホック会議の代わりにこの機能を使うことで、ユーザーは会議中にビデオだけでなく画面共有も使えるようになる。

```
<config>
<services><calls>
       <escalate-to-webex-meeting
enabled="%ENABLE_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT%"/>
```

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT%	false	true、false	[Webex ミーティングにエスカレーション] メニュー オプションを有効にするには、「true」に設定します。

6.2.5 卓上電話制御通話 - 自動応答

自動応答により、ユーザーはクライアントの発信電話にデスクフォンコントロール（DPC）を使用して、MPP電話をゼロタッチ応答で管理できます。

選択されたMPPフォンは、発信DPCコールのオーディオ/ビデオを伝送します。

自動応答は、プライマリおよび非プライマリのプロビジョニングデバイスで機能します。ペアリング可能なデスクホンが複数登録されている場合、選択 / ペアリングされたデバイスのみが自動応答する。

```
<config>
<services><calls>
<deskphone-control auto-answer="%ENABLE_DESKPHONE_CONTROL_AUTO_ANSWER_WXT%"/>
```

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_DESKPHONE_CONTROL_AUTO_ANSWER_WXT%	true	true、false	true "に設定すると、デスクホン制御の自動応答を有効にします。

注: DPCモードでは、自動応答は着信に影響しないため、着信時にデスクホンが鳴ります。

6.2.6 トーン通知による自動応答

この機能により、着信要求で指示された場合、ローカルデバイスの自動着信応答サポートが有効になります。

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_AUTO_ANSWER_WXT%	false	true、false	true "に設定すると、バックエンドから要求された場合、自動着信応答を有効にする。

6.2.7 デスクホン・コントロール - ミッドコール・コントロール - カンファレンス

この機能により、別のロケーションで終了したリモート（XSI）コールの会議およびマージ オプションが有効になります。

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_XSI_CONFERENCE_CALLS_WXT%	false	true、false	[true] に設定すると、別のロケーションで終了したリモート（XSI）コールの会議およびマージ オプションを有効にします。

6.2.8 コール ピックアップ通知

コールピックアップ通知は、監視するように設定されているユーザーへの着信があったときに、ユーザーに知らせる機能を提供します。コールピックアップ通知は、コールピックアップグループおよびビジーランプフィールドサービスで設定されたウォッチリストに対して受信できます。

コール・ピックアップ通知は、監視対象ユーザーが物理的に近くにおらず、同僚の電話の呼び出し音が聞こえない場合に便利です。

6.2.8.1 ビジー ランプ フィールド

デスクトップ Webex アプリケーションは、ビジー ランプ フィールド (BLF) ウォッチリストのメンバーが着信コールがアラート状態の場合に通知を表示します。通知には、発信者と着信を受けたユーザーに関する情報があり、着信に応答するか、無音にするか、通知を無視するかのオプションがある。ユーザーが着信に応答すると、ダイレクトコールピックアップが開始されます。

リリース43.4以降、BLF モニタ対象ユーザのリストは、通話用のマルチ コール ウィンドウ（MCW）で使用できます（Windows でのみ使用可能）。MCWにおけるBLFリストの統合は以下の通り：

着信を監視し、着信に応答するかアラートを無視するかを選択できます。

BLFユーザー一覧を見る

ユーザーのプレゼンスを監視します。豊富なプレゼンスは、Webex Cloud の利用資格を持つユーザーのみ利用できます。ベーシック（テレフォニー）プレゼンスは、BroadWorksのみのユーザーだけが利用できる。

BLFユーザーとの通話を開始する。

BLF ユーザーとのチャットを開始します。Webex Cloud の利用資格を持つユーザーのみが使用できます。

BLF ユーザを連絡先として追加します。

```
<config>
  <services>
    <calls>
      <busy-lamp-field enabled="%ENABLE_BUSY_LAMP_FIELD_WXT%">
        <display-caller enabled="%ENABLE_BLF_DISPLAY_CALLER_WXT%"/>
        <notification-delay time="%BLF_NOTIFICATION_DELAY_TIME_WXT%"/>
```

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_BUSY_LAMP_FIELD_WXT%	false	true、false	ビジー・ランプ・フィールドのモニタリングと、通話に応答できる他のユーザーへの呼び出し音通知を有効にします。
%ENABLE_BLF_DISPLAY_CALLER_WXT%	true	true、false	着信通知に発信者表示名/番号を表示できるようにする。
%BLF_NOTIFICATION_DELAY_TIME_WXT%	0	0-60	呼び出し音通知がユーザーに表示されるまでに何秒遅延させるかを制御します。

注意:この機能は、ダイレクトコールピックアップサービスに依存します。

6.2.8.2 コール ピックアップ グループ (Webex Calling のみ)

リリース44.2以降、Webex アプリケーションは Webex Calling 展開のグループ コール ピックアップ（GCP）通知のサポートを追加します。コール・ピックアップ・グループを通してモニターされているユーザーの着信をユーザーに通知することができます。

コールピックアップグループの一部であるユーザーに着信があった場合、着信側には通話に応答する機会が与えられる。コントロール・ハブで設定可能なGCP通知遅延があります。着呼側が設定された時間内に呼を処理しない場合、GCP通知がグループに送信される。

同じコール・ピックアップ・グループ内に複数のコールがある場合、それらのコールは受信された時間に基づいて順次処理されます。最も古いコールの通知が最初にグループに配信され、それが処理されると、次の通知がグループに配信される。

コントロールハブの管理ポータルの設定により、通知は音声のみ、画像のみ、または音声と画像で通知されます。視覚的なGCP通知がある場合、ユーザーはコールピックアップ機能を使って通話に出ることができます。音声のみの通知が設定されている場合、ユーザーには着信に対するビジュアル通知が表示されず、特定の着信音が聞こえ、Webex アプリで利用可能なコール ピックアップ メニューから、または FAC コード (*98) と内線番号を手動でダイヤルすることでコールをピックアップできます。

ユーザーは、アプリケーションの設定でGCP通知をミュートすることができます。この設定は、すべてのコールピックアップ通知（BLFとGCP）に適用され、デフォルトで通知はミュートされます。

この機能は、プライマリ回線と、ユーザーに割り当てられた共有回線またはバーチャル回線に対して機能する。

```
<config>
<services><calls>
    <group-call-pickup-notifications enabled="%ENABLE_GCP_NOTIFICATIONS_WXT%">
        <display-caller enabled="%ENABLE_GCP_DISPLAY_CALLER_WXT%"/>
        <max-timeout value="%GCP_NOTIFICATION_MAX_TIMEOUT_VALUE_WXT%"/>
    </group-call-pickup-notifications>
...
<protocols><sip>
    <lines>
        <line>
            <group-call-pickup>%BWGROUP-CALL-PICKUP-BOOL-1%</group-call-pickup>
            ...
        </line>
        <line>
            <group-call-pickup>%BWGROUP-CALL-PICKUP-BOOL-2%</group-call-pickup>
            ...
        </line>
        ...
```

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_GCP_NOTIFICATIONS_WXT%	false	true、false	グループコールピックアップ通知を有効にする
%ENABLE_GCP_DISPLAY_CALLER_WXT%	true	true、false	呼び出し通知で発信者の表示名/番号を表示できるようにします
%GCP_NOTIFICATION_MAX_TIMEOUT_VALUE_WXT%	120	5-120	GCP 通知が利用可能な最大時間を定義します。
%BWGROUP-CALL-PICKUP-BOOL-n%	false	true、false	対応する回線にコール・ピックアップ・グループが設定されているかどうかを示します。

注1： これは Webex Calling のみの機能です。

注2： この機能は、ユーザーに設定されているコールピックアップグループに依存します。

6.2.9 リモート コントロール イベント パッケージ

BroadWorks レセプショニスト シン クライアントや Webex アプリが通話デバイスである Go インテグレーターのようなクリックツーダイヤル クライアントの場合、通話を受信したり、Webex アプリの保留/再開を処理するときに、リモート コントロール イベント パッケージに敬意を表するようになりました。

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_REMOTE_CONTROL_EVENTS_WXT%	false	true、false	true "に設定すると、ユーザーに対してリモートコントロールを有効にすることを指定する。

6.2.10 サバイバビリティ ゲートウェイ (Webex Calling のみ)

リリース43.2以降、Webex アプリケーションはサバイバビリティ コール モードのサポートを追加します。この機能が有効で、Webex クラウド接続がない場合、Webex アプリケーションはサバイバビリティ モードで実行できます。このモードでは、ユーザーが利用できる通話機能が制限されます。

ローカル・サバイバビリティ・ゲートウェイは顧客によって配備される。

```
<config>
<protocols>
<sip>
<survivability-gateway enabled="%ENABLE_SURVIVABILITY_GATEWAY_WXT%" fallback-
time="%SURVIVABILITY_FALLBACK_TIME_WXT%">%BWSURVIVABILITYGATEWAY%</survivability-
gateway>
```

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_SURVIVABILITY_GATEWAY_WXT%	false	true、false	サバイバビリティモードのサポートを有効にする。
%SURVIVABILITY_FALLBACK_TIME_WXT%	30	>=30	フォールバック時間を指定（SSEへのサバイバビリティ・ゲートウェイ）

注：この機能は、オンプレミスからクラウド通話ソリューションへの移行に自信を与えてくれる。

6.2.11 リモート ミュート コントロール イベント パッケージ (Webex Calling のみ)

リリース43.9以降、Webex アプリは音声メディア ストリームのリモートミュート通話制御のサポートを追加します。これにより、Webex アプリが通話デバイスである BroadWorks レセプショニスト シン クライアントなどの別の場所から、進行中のコールのミュート/ミュート解除がトリガーされます。

この機能は新しい SIP*x-cisco-mute-status*info パッケージに依存する。通話 SIP INVITE セッションの確立中に *Recv-Info:x-cisco-mute-status* ヘッダーを受信した場合、音声通話セッションのミュート状態への更新 (ローカルまたはリモート) があるたびに、Webex アプリは *Info-Package:x-cisco-mute-status;muted=true* (または *muted=false*) を含む SIP INFO を送信します。ここで、muted パラメータは音声メディア ストリームの更新された状態を表します。

ミュートまたはミュート解除は、ローカルまたはリモートからトリガーできます。リモート更新は、*イベントで SIP NOTIFY をトリガーする：ミュート* (または *ミュート解除*) をアプリケーション サーバーから Webex アプリに送信します。Webex アプリはリモートリクエストを尊重し、音声メディア ストリームの状態の更新後、*Info-Package:x-cisco-mute-status;muted=true* (または *muted=false*) を含む SIP 通知を送信します。

```
<config>
<services>
   <calls>
       <remote-mute-control enabled="%ENABLE_REMOTE_MUTE_CONTROL_WXT%"/>
```

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_REMOTE_MUTE_CONTROL_WXT%	false	true、false	「true」に設定すると、リモート ミュート コール制御がユーザに対して有効になります。

6.2.12 通話を移動

Webex アプリは、別のロケーションで終了した VoIP コールの通話のモニタリングと通話制御を提供します。これは現在、ユーザーのプライマリ・ラインでのみ利用可能である。

リリース43.12以降、Webex アプリが拡張され、共有回線と仮想回線に対して別の場所で終了したコールが表示されます。このような通話は、情報目的で進行中の通話エリアに表示され、通話を制御するオプションはありません。このような通話が保留になった場合のみ、ユーザーはその通話をローカル・デバイスに移し、通話画面から再開することができる。この仕組みは、その通話が別の場所で同じユーザーによって処理された場合や、同じ回線を使用している別のユーザーによって処理された場合に便利である。

保留中の通話をペアリングしたデバイスに移動することはできません。ユーザーがデバイスとペアリングしている場合は、まず切断する必要があり、その後、ローカルで保留中の通話を再開できる。

共有回線および仮想回線の呼モニタリングは、SIP call-infoイベントパッケージに依存する。

ユーザーのプライマリ回線のコールのモニタリングは、XSIイベント（アドバンストコールイベントパッケージ）に依存し、ローカルデバイスへのコールの移動は、これらのコールでは使用できません。このタイプの通話では、Call Pull (*6.1.22 コール プル*) 機能を使用できます。コールプルは、ユーザーの最後にアクティブになったコールに対してのみ機能するが、共有回線とバーチャル回線用のメカニズムは、保留にされたユーザーのすべてのコールに対して機能する。

- 使用事例 1:
  a. アリスはボブの回線をデスクトップとデスクの電話プロファイルに割り当てている。
  b. アリスはデスクトップアプリケーションで、進行中の通話を見ることができます。
  c. アリスはデスクホンで通話を保留にします - アリスはデスクトップアプリから通話を再開できます。
- 使用事例 2:
  a. アリスはボブの回線をデスクトップとデスクの電話プロファイルに割り当てている。
  b. ボブはチャーリーと通話しています。アリスはデスクトップアプリで進行中の通話を確認できます。

c. ボブはチャーリーとの通話を保留にし、アリスはデスクトップアプリからチャーリーとの通話を再開できます。

- 使用事例 3:

a. アリスはボブの回線をデスクトップとデスクの電話プロファイルに割り当てている。

b. アリスはデスクトップアプリからデスクフォンとペアリングしている。

c. ボブはチャーリーと通話しています。アリスはデスクトップアプリで進行中の通話を確認できます。

d. Bob はチャーリーとの通話を保留にします。Alice はデスクトップアプリからチャーリーとの通話を再開できません。

e. アリスがデスクトップアプリケーションをデスクフォンから切断します。

```
<config>
<services><calls>
    <call-move>
         <move-here enabled="%ENABLE_CALL_MOVE_HERE_WXT%"/>
```

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_CALL_MOVE_HERE_WXT%	false	true、false	ローカルデバイスのコールムーブを有効にする。複数回線を使用する場合に、場所やユーザーをまたいで保留 / 再開するために使用される。

6.3 モバイルのみの機能

6.3.1 緊急コール

Cisco BroadWorks 版 Webex は、ネイティブの緊急コールをサポートしています。

この機能が有効になっている場合、発信VoIPコールの開始時に、アプリケーションはダイヤルされた番号を分析し、設定されている緊急番号のリストと比較します。番号が緊急用として識別された場合、アプリケーションは設定されたダイヤル動作を実行する。 *dial-sequence* タグを使って設定可能。

対応モードは以下の通り：

- cs-only – ネットワークが利用可能な場合、クライアントはセルラーネットワークを介してのみ緊急通話を発信します。
- cs-first - 緊急呼を開始すると、クライアントは現在のデバイスが接続されているネットワークタイプをチェックする。セルラーネットワークが利用可能であれば、クライアントはセルラーネットワーク経由で電話をかける。セルラーネットワークは利用できないが、セルラーデータ/WiFiネットワークは利用できる場合、クライアントはセルラーデータ/WiFiネットワークを介してVoIP通話として通話を行います。また、緊急通話が携帯電話ネットワーク経由で発信された場合、クライアントはユーザーに対し、緊急通報を VoIP として再試行することを提案します。
- VoIP のみ – セルラー データ/WiFi ネットワークが利用可能な場合、クライアントは VoIP としてのみ緊急通話を発信します。
- cs-voip - クライアントは、デバイスがネイティブ回線交換（CS）呼として開始できるかどうか を分析する（CSネットワークが利用可能かどうかは考慮しない）。デバイスがネイティブ・コールを開始できる場合、緊急番号は緊急CSコールとしてダイヤルされる。それ以外の場合、通話は VoIP としてダイヤルされます。

> **注**: VOIP 通話が無効になっている場合、緊急ダイヤル シーケンス (%EMERGENCY_CALL_DIAL_SEQUENCE_WXT%) の唯一の意味のある値は cs のみです。

サインイン時に緊急通報の免責メッセージが表示される。コンフィギュレーション・オプションでは制御できない。

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_EMERGENCY_DIALING_WXT%	false	true、false	緊急通報の検出を有効にするには「true」を設定する。 デフォルト値は空。

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%EMERGENCY_CALL_DIAL_SEQUENCE_WXT%	csのみ	cs のみ、cs-first、voip-only、cs-voip	緊急電話のダイヤルシーケンスモードを制御します。
%EMERGENCY_DIALING_NUMBERS_WXT%	“911,112”	CSVリスト	緊急番号の CSV リスト。 例: 911,112

6.3.2 コールのプッシュ通知

着信があると、モバイルクライアントはまずプッシュ通知（PN）を受け取る。SIP REGISTER セッションを確立するタイミングを制御するために使用できるコンフィグパラメータがある：

1. プッシュ通知を受け取ったら、または
2. 通話がユーザーに受け入れられたとき。

二つ目のアプローチが推奨される。しかし、最初のケースと比べると、通話が確立するまでに若干の遅延が生じる。

iOS の13 要件に従って、VoIP PN は着信コールにのみ使用する必要があります。それ以外のコール関連のイベントは、通常のPNを使用する。

この要求を満たすために、新しいPN登録APIが導入され、アプリケーションサーバーに対応するパッチを適用する必要がある。バックエンドが iOS 13 PN をサポートするように設定されていない場合、設定パラメータを使用して、すべてのコール関連イベントが VoIP PN を介して配信されるレガシープッシュ通知の使用を強制できます。

着信中の通話が別の場所で着信者によって受け付けられたり、着信者によって切断されたり、ボイスメールにリダイレクトされたりすると、アプリケーションサーバー（AS）からプッシュ通知が送信される。iOS 13 では、このタイプのプッシュ通知は通常のものになり、いくつかの制限があります。Apple Push Notification Service（APNS）によって遅延されたり、まったく配信されないこともあります。コール更新PNの欠落または遅延を処理するために、設定可能な呼び出しタイムアウトが追加され、最大呼び出し時間を制御する。最大呼び出し時間に達した場合、着信側の呼び出し音は停止され、不在着信として扱われる。発呼側では、アプリケーションサーバー(AS)に設定された「着信無応答」ポリシーが実行されるま で、呼は着信状態のままである可能性がある。

アプリケーションの動作を一貫して維持するために、設定可能な呼び出し音タイマーは Android と iOS の両方に適用されます。

プッシュ通知として着信があった場合の着信拒否動作を指定する設定オプションが別途追加されました。クライアントは、コールを無視するか、拒否が「true」または「false」に設定された XSI を通じてサーバに応答するように設定できます。この場合、割り当てられた Cisco BroadWorks コール処理サービスが適用されます。decline_false」が設定されている場合、発信者が放棄するか、無応答タイ マーが切れるまで呼は鳴り続け、関連する呼処理サービスが開始される。decline_true」が設定されている場合、辞退理由は呼の処理を指定する。辞退理由が "busy "に設定されている場合、サーバーは直ちにbusy処理サービスを強制する。temp_unavailable "が設定されている場合、一時的に利用できない処置サービスが適用される。

```
<config>
<services>
    <push-notifications-for-calls enabled="true"
    connect-sip-on-accept="%PN_FOR_CALLS_CONNECT_SIP_ON_ACCEPT_WXT%"
    ring-timeout-seconds="%PN_FOR_CALLS_RING_TIMEOUT_SECONDS_WXT%"/>
    <calls>
        <reject-with-xsi mode="%REJECT_WITH_XSI_MODE_WXT%"
        declineReason="%REJECT_WITH_XSI_DECLINE_REASON_WXT%"/>
```

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%PN_FOR_CALLS_CONNECT_SIP_ON_ACCEPT_WXT%	false	true、false	SIP REGSITERセッションが確立されるタイミング（着信のプッシュ通知を受信したとき、または着信を受け入れたとき）を制御する。
%PN_FOR_CALLS_RING_TIMEOUT_SECONDS_WXT%	35	[0-180]	PNで着信した通話の最大着信呼び出し時間を制御する。指定された期間内にCallUpd PNを受信しなかった場合、その通話は不在として扱われる。
%REJECT_WITH_XSI_MODE_WXT%	decline_false	無視、decline_true、decline_false	着信拒否の動作を指定する。
%REJECT_WITH_XSI_DECLINE_REASON_WXT%	通話中	busy、temp_unavailable	着信拒否モードが "decline_true "に設定されている場合、着信拒否の理由を指定する。

6.3.2.1 MWI

MWI 機能を有効にすると、モバイル Webex クライアントは MWI プッシュ通知をサブスクライブして、ユーザーのボイスメールによる更新を受信して通知します。

通知の数を減らし、不必要な注意散漫を避けるため、MWIプッシュ通知は場合によっては抑制されます。たとえば、ユーザーがボイスメール メッセージを聞いているとき、またはモバイル Webex クライアント内で既読としてマークしている場合 (未読の数は減少しています)。これをコントロールする設定オプションはない。

MWI の詳細については、*6.1.27 ボイスメール、ビジュアルボイスメール、メッセージ待機インジケータ*を参照してください。

6.3.2.2 リング スプラッシュ

BroadWorksサービス（DNDなど）は、着信がリダイレクトされたときに着信リマインダーを送信できます。Webex モバイル クライアントは、リング スプラッシュ プッシュ通知を有効にし、BroadWorks によってトリガーされたときにユーザーに提示するように設定できます。

```
config>
<services>
<ring-splash enabled="%ENABLE_RING_SPLASH_WXT%"/>
```

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_RING_SPLASH_WXT%	false	true、false	BroadWorksの設定でRing Splashを有効にします。

6.3.2.3 配信モード (Webex Calling のみ)

Webex アプリは Notification Push Server (NPS) を使用して、APNS/FCM にコールのプッシュ通知を配信します。Webex アプリのリリース45.2 では、コール関連のプッシュ通知を APNS/FCM に配信する方法を設定するために、3 つの異なる配信モードをサポートするようになりました。

- NPS - NPSを使った現在のメカニズム
- クラウド - Cisco Webex Cloud マイクロサービスを使用した強化されたメカニズム
- 外部 - サードパーティのシステムを使用するメカニズム。サードパーティシステムと Cisco WebHooksエンジンの統合が必要です。

```
<config>
<services><calls>
<push-notifications-for-calls enabled="true"
      connect-sip-on-accept="%PN_FOR_CALLS_CONNECT_SIP_ON_ACCEPT_WXT%"
      ring-timeout-seconds="%PN_FOR_CALLS_RING_TIMEOUT_SECONDS_WXT%"
      delivery-mode="%PN_FOR_CALLS_DELIVERY_MODE_WXT%">
```

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%PN_FOR_CALLS_DELIVERY_MODE_WXT%	NPS	NPS, クラウド, 外部	通話のプッシュ通知の配信モードを指定します。

6.3.3 単一アラート

モバイルシングルアラート機能は、BroadWorks Mobilityサービスを活用したFMC（Fixed-Mobile Convergence）/MNO（Mobile Network Operator）展開を対象としています。これなしでは、Webex クライアントにログインして着信コールを受信すると、ユーザーは同時に 2 つのコール (ネイティブ 1 つとプッシュ通知 (VoIP) コールを受信します。この機能を有効にすると、アプリケーションはログイン時にユーザーのBroadWorks Mobilityロケーションに関するMobilityアラートを無効にし、ログアウト時にアラートを有効にします。この機能を使用するための重要な前提条件は、ユーザーにBroadWorks Mobilityサービスが割り当てられており、ロケーションが正確に1つ設定されていることです。

```
<config>
<services><calls>
<single-alerting enabled="%ENABLE_SINGLE_ALERTING_WXT%"/>
```

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_SINGLE_ALERTING_WXT%	false	true、false	シングルアラートを有効にするには "true "を設定する。

6.3.4 クリックしてダイヤル (コールバック)

アウトバウンドのクリック・トゥ・ダイヤルは、エンドユーザーが個人の回線交換携帯電話で通話し、ビジネスDNを通話回線IDとして提供することを保証します。

モバイル Webex クライアントは、BroadWorks Anywhere サービスを使用したクリックツーダイヤル（コールバック）コールをサポートします。Webex アプリケーションの BroadWorks Anywhere のロケーションは単一番号リーチ (SNR) ロケーションと呼ばれます。

この機能が有効になっている場合、ユーザーはデバイスのペアリング・メニューからSNRの場所を選択できる。SNRロケーションとペアリングすると、すべての発信通話はクリック・トゥ・ダイヤル（コールバック）で開始されます。二重アラートを防ぐため、着信時のプッシュ通知は無効になっています。

ユーザーがクリック・トゥ・ダイヤルで通話を開始すると、選択したSNRロケーションで着信が予想される情報が表示された発信画面が表示されます。このスクリーンは設定可能なタイマーに基づいて自動的に閉じられます。

SNR ロケーションからの切断時に、アプリケーションは着信のプッシュ通知に再度登録します。

```
<config>
<services>
  <dialing>
    <call-back enabled="%ENABLE_DIALING_CALL_BACK_WXT%"
timer="%DIALING_CALL_BACK_TIMER_WXT%"/>
```

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_DIALING_CALL_BACK_WXT%	false	true、false	クリックダイヤル（コールバック）を有効にするには、「true」を設定します。
%DIALING_CALL_BACK_TIMER_WXT%	10	[3-20]	コールバック画面が自動的に閉じるまでの秒数を制御する。

6.3.5 MNO サポート

6.3.5.1 ネイティブダイヤラーによる通話

この機能により、BroadWorks Mobility（BWM）サービスを活用したモバイルネットワーク事業者（MNO）の展開がサポートされます。ユーザーにはBroadWorks Mobilityサービスが割り当てられており、少なくとも1つのロケーションが設定されているものとします。

ユーザーがネイティブダイヤラを使って通話を開始する機能は、**ネイティブ** 構成タグによって制御されます。有効にすると、アプリケーションはネイティブのダイヤラーを起動し、電話をかけます。さらに、VoIP通話の可用性は、**voip** タグによって制御される。VoIP通話は、展開要件に基づいて、有効または無効にすることができる。

VoIPとネイティブ通話が有効になっている場合、ユーザーはどちらのオプションを使用するかを選択できる。

タグは、ユーザーが着信および発信通話の開始/受信方法を選択できるかどうかを制御します。ネイティブ通話とVoIP通話の両方を有効にする必要がある。

リリース43.12以降、ネイティブのダイヤル設定が拡張され、カスタムプレフィックスが発信コール番号に事前保留される機能を提供します。これは、ダイヤルされた番号が FAC コードで始まっている場合にのみ、Webex アプリから開始されたセルラー通話に適用されます。

この機能は、統合型 Cisco BroadWorks アプリケーション サーバにリダイレクトされる代わりに、FAC コードが Telecom バックエンドで処理される場合に、MNO 展開を使用する顧客にとって役立ちます。新しいタグが セクションに追加され、テレコムはこの問題を解決するために使用できます。

```
<config>
<services>
  <dialing>
    <voip enabled="%ENABLE_DIALING_VOIP_WXT%"/>
    <native enabled="%ENABLE_DIALING_NATIVE_WXT%" enable-bwks-mobility-
dependency="%DIALING_NATIVE_ENABLE_BWKS_MOBILITY_DEPENDENCY_WXT%">
      <fac-prefix value="%DIALING_NATIVE_FAC_PREFIX_WXT%"/>
    </native>
    <dialing-mode enabled="%ENABLE_DIALING_MODE_WXT%" default="%DIALING_MODE_DEFAULT_WXT%"/>
```

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_DIALING_VOIP_WXT%	true	true、false	VoIP通話オプションを有効にするには「true」を設定する。

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_DIALING_NATIVE_WXT%	false	true、false	ネイティブ通話オプションを有効にするには、「true」に設定します。
%ENABLE_DIALING_MODE_WXT%	false	true、false	環境設定の通話設定で、ユーザーが通話モードを選択できるようにします。
%DIALING_MODE_DEFAULT_WXT%	VoIP	ボイップ、ネイティブ	選択されているデフォルトの通話モードを指定する。
%DIALING_NATIVE_ENABLE_BWKS_MOBILITY_DEPENDENCY_WXT%	false	true、false	ネイティブ通話の可用性を、ユーザーに設定されているBroadWorks Mobilityサービスの割り当てとMobility Locationに依存させるかどうかを制御します。
%DIALING_NATIVE_FAC_PREFIX_WXT%	空	文字列	FACコードで始まる番号への発信がセルラー通話として開始される場合に、付加されるべきプレフィックスを指定する。 デフォルトでは、FAC接頭辞は定義されておらず、タグは空である。

注1： voip および ネイティブ 通話のうち少なくとも1つを有効にする必要があります。

注意2: ネイティブ 呼び出しだけが有効になっている場合、MNOの配備では、クライアントがBWMアラートを無効にするのを防ぐため、シングルアラートを無効にすることが推奨される。

注意3: ネイティブ および voip 通話の両方が有効な場合、MNOの配備では、二重アラートを防止するため、シングルアラートを有効にすることが推奨される。

6.3.5.2 通話中コントロール

この機能により、モバイル Webex クライアントは、Cisco BroadWorks にアンカーされているモバイル デバイス上の XSI ネイティブ コールを介して制御できます。XSI Call Controlsは以下の場合にのみ使用可能です：

- BroadWorks Mobility（BWM）サービスがユーザーに割り当てられます、
- BMWモバイル・アイデンティティは1つしか設定されていない、
- ネイティブ通話モードはユーザーが選択します (詳細については、セクション*6.3.5.1 ネイティブダイヤラーによる通話 を参照してください*)、
- BroadWorksにBMWのサービスを経由する電話がかかってきている、

- 携帯電話で通話中。

リリース43.1 では、コンサルティング転送の処理を改善し、Webex アプリに表示される 2 つのセルラー コール間の関連付けを作成し、ユーザが転送を完了するためのオプションを提供します。また、同じデバイスに2つの独立したセルラー通話がある場合、転送メニューが強化され、それらの間に関連付けが作成されていなくても、一方をもう一方に転送できるようになった。

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_XSI_CALL_CONTROL_WXT%	false	true、false	MNO環境のXSI呼制御を有効にする。
%XSI_CALL_CONTROL_DEPLOYMENT_TYPE_WXT%	MNO_Access	MNO_アクセス、MNO_ネットワーク	アプリケーションで使用される XSI MNO 展開タイプを制御します。次のいずれかの値になります。 ▪ MNO_Access - 以下のノードで定義されたデバイスタイプを持つすべてのリモート（XSI）コールを表示します。 ▪ MNO_Network - すべてのリモート（XSI）コールを表示します。
%DEPLOYMENT_DEVICE_TYPE_1_WXT%, %DEPLOYMENT_DEVICE_TYPE_2_WXT%, %DEPLOYMENT_DEVICE_TYPE_3_WXT%	“”	文字列	MNO_Accessの展開タイプで使用されるべきデバイスタイプ名（複数可）。
%ENABLE_XSI_HOLD_CALLS_WXT%	true	true、false	XSIモバイル通話で、ユーザーが通話保留アクションを利用できるかどうかを制御する。

6.3.5.3 発信通話回線 ID (CLID) – デュアル ペルソナ

モバイル リリース42.12では、Webex アプリを使用すると、ユーザは発信コールを開始するときにリモートパーティに提示された通話回線アイデンティティ（CLID）を選択できます。

ユーザが Cisco BroadWorks Mobility、モバイルネットワークオペレーター（MNO）展開の典型的な設定で構成されており、ネイティブ通話が有効になっている場合、ユーザは、通話しているユーザに表示される ID を選択できます。ユーザーは、ビジネスまたは個人のアイデンティティを選択することができます。自分の身元を隠すオプションもあり、通話は匿名として表示される。

```
<config>
<services><calls>
```

```
<caller-id>
   <outgoing-calls enabled="%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_WXT%">
      <mobility enabled="%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_MOBILITY_WXT%"/>
```

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_MOBILITY_WXT%	false	true、false	展開タイプがMNO_AccessまたはMNO_Networkに設定されている場合、ネイティブコールの個人管理を有効にします。(ネイティブ通話にはBroadWorks Mobilityが使用され、すべてのネイティブ通話はBroadWorksにアンカーされます。)

6.3.5.4 ネイティブ・コールの通知

MNO で展開されているユーザーの場合、この機能は、ネイティブ コールの通知バナーを追加し、Webex アプリで制御できます。この通知は、コールが確立されたときにアプリケーションサーバーから送信されるプッシュ通知に依存します。

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_PN_MOBILE_CALL_INFO_WXT%	true	true、false	MOBILE_CALL_INFO プッシュ通知の購読を有効にします。

6.3.5.5 ネイティブ・コールをコンバージド・ミーティングへ

MNO を使用して導入されたユーザの場合、この機能により、1:1 コールの両当事者のミーティングにネイティブ音声コールをエスカレーションできます（相手が Webex ユーザでない場合でも）。リモートユーザーが Webex ユーザーである場合、ミーティングに参加すると、当事者は次の機能を持ちます。

- ミーティング チャットで Webex を開始する
- ビデオを追加する（音声はネイティブ通話で継続されることに注意してください）
- 画面 / コンテンツを共有する
- ミーティング録画のトリガー

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT%	false	true、false	パワーアップ（招待とミーティング、ビデオミーティングアクション）を有効にする。

6.3.5.6 MNO モビリティ - 通話中のウィジェット

Android Webex アプリ（モバイルおよびタブレット）のリリース43.7では、新しいコール制御ウィジェット（バブル）が正式に導入され、モビリティ サービスを使用して、Cisco BroadWorks にアンカーされたネイティブコールに対して追加のコール制御を提供します。ウィジェットはネイティブUIの上に表示され、ユーザーに以下のアクションを許可する：

- 保留/再開
- ブラインド/コンサルタティブ転送 - Webex アプリの転送ダイアログにユーザーを配置します。
- [完全な転送（Complete Transfer）]:コンサルタティブ転送（リリース43.1）を完了するためのオプションを提供します。
- ビデオ ミーティング - 参加者を Webex ミーティングに移動します。
- 終了

```
<config>
<services><calls>
        <hold xsi-enabled="%ENABLE_XSI_HOLD_CALLS_WXT%" widget-
enabled="%ENABLE_WIDGET_HOLD_CALLS_WXT%"/>
        <transfer-call enabled="%ENABLE_TRANSFER_CALLS_WXT%" xsi-
enabled="%ENABLE_XSI_TRANSFER_CALLS_WXT%" widget-
enabled="%ENABLE_WIDGET_TRANSFER_CALLS_WXT%" type="%TRANSFER_CALL_TYPE_WXT%"/>
        <escalate-to-webex-meeting
enabled="%ENABLE_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT%" widget-
enabled="%ENABLE_WIDGET_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT%"/>
```

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_WIDGET_HOLD_CALLS_WXT%	true	true、false	コールウィジェットの Hold アクションの可用性を制御します。
%ENABLE_WIDGET_TRANSFER_CALLS_WXT%	true	true、false	通話ウィジェットで 転送と転送完了 アクションの可用性を制御します。

%ENABLE_WIDGET_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT%	true	true、false	通話ウィジェットで ビデオ ミーティング アクションの可用性を制御します。

6.3.6 着信発信者 ID

リリース 44.2 では、名前と番号に基づいて、ユーザに表示される連絡先情報を制御する機能が追加されます。着信画面と着信通知、および不在着信通知でユーザーに表示される情報を制御するための2つの設定オプションが追加された。

6.3.6.1 着信通話画面

Android と iOS は、着信通話画面にデータを表示する場合に、プラットフォームの違いがあります。着信の情報を表示するネイティブの経験は以下の通り：

Android - 着信通話画面には 2 つの別々のフィールドがあり、名前と番号の両方が表示されます

iOS - 名前または番号を表示するフィールドは 1 つだけです。両方が利用可能な場合、名前が優先されます。

着信通話の新しい構成オプションを使用して、iOS Webex アプリが名前の隣のコール画面に番号が表示されていることを確認できます (形式: *名前（番号）*）。Android Webex アプリの動作には影響しません。

6.3.6.2 着信通話通知

場合によっては、着信が通知としてユーザーに提示される。スペースが限られているため、背番号が表示されるとは限らない。

着信に関する新しい設定オプションは、着信通知に表示される情報も制御します。有効にして名前と番号の両方が利用可能な場合、Webex アプリは名前の隣に番号を追加します (形式: *名前（番号）*）。これは Webex アプリの動作が Android と iOS の両方に適用されます。

6.3.6.3 不在着信通知

不在着信通知の設定パラメータが追加されました。着信通知と同様に、リモート・パーティーの情報を制御するために使用することができ、リモート・ユーザーの表示名に番号を付加し、不在着信通知に表示することができる。これは Webex アプリの動作が Android と iOS の両方に適用されます。

```
<config>
<services><calls>
   <caller-id>
      <incoming-calls>
         <append-number enabled="%ENABLE_CLID_INCOMING_CALLS_APPEND_NUMBER_WXT%"/>
```

```
    </incoming-calls>
    <missed-calls>
       <append-number enabled="%ENABLE_CLID_MISSED_CALLS_APPEND_NUMBER_WXT%"/>
    </missed-calls>
```

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_CLID_INCOMING_CALLS_APPEND_NUMBER_WXT%	false	true、false	着信通話画面 (iOS のみ) および通知の名前に番号を追加するかどうかを制御します。
%ENABLE_CLID_MISSED_CALLS_APPEND_NUMBER_WXT%	false	true、false	不在着信通知の名前に番号を追加するかどうかを制御します。

注: 番号が表示名として配信される場合、または表示名が番号で終わる場合、Webex アプリは重複を避けるため、番号は 1 回だけ表示されます。

7 アーリーフィールドトライアル（BETA）の特徴

7.1 緊急（911）コール - Cisco 緊急ロケーション情報サービス（Webex Calling のみ）および設定のクリーンアップ

Webex アプリは、6.1.36 1x37d="1" />*6.1.37*に記載されているように、サードパーティ プロバイダーを使用する緊急通話の緊急ロケーションをすでにサポートしています。緊急（911）通話:E911 プロバイダーによるロケーションレポートこの機能は、米国、その準州（グアム、プエルトリコ、およびバージン諸島）、およびカナダ周辺の Public Safety Answering Points (PSAP) への緊急コールにのみ適用されます。

Webex Calling 展開専用の場合、Cisco は独自の緊急ロケーション情報サービスを追加して、HELD/HELD+ インタラクションを処理して保存し、会社とユーザーが作成したワイヤマップを管理し、PIDF-LO 属性でアドレスを保存し、緊急通話のロケーション情報を送信します。

Webex アプリのリリース45.1により、Cisco 緊急ロケーション サービスとのインテグレーションが追加されます。DMS 構成テンプレートが更新され、さまざまな緊急ロケーション プロバイダーのサポートが追加されます。

- DMS 構成テンプレートの の下の の現在の DMS セクションは廃止されています。代わりに、新しいセクション が追加され、今後は Webex アプリで使用されます。
- 新しい*プロバイダー* オプションが新しいセクションで利用できるようになり、Webex アプリが使用するべき緊急ロケーション プロバイダーを制御できるようになりました。利用可能なオプションには、*redsky*、*intrado*、*9line*、*webex* が含まれます。最初の 3 つのオプションは、BroadWorks 版 Webex 展開で使用でき、主にトラッキング目的で使用され、サードパーティ プロバイダーとの通信に HELD+ プロトコルを利用します。*Webex* オプションは、Webex Calling 展開でのみ利用でき、アプリが Cisco Emergency Location Information Service を利用できるようにします。これにより、ワイヤーマップと緊急通話の PIDF-LO サポートが強化されました。
- 手動設定が必要な新しいカスタム タグが追加され、現在の設定 (機能がすでに使用されている場合) と一致します。設定されていない場合、デフォルト値が使用されます。これは、機能を無効にするか、動作を変更する可能性があります。
- 、、 およびに使用されるシステムタグに更新はありません。
- [重要] 設定ミスにより緊急ロケーション機能が無効になるのを防ぎます。緊急ロケーション機能 (%ENABLE_EMERGENCY_LOCATION_WXT%) の可用性を制御する新しいカスタム タグが、レガシータグ (%EMERGENCY_DIALING_ENABLE_REDSKY_WXT%) と同じ方法で設定されていることを確認してください。

- [重要] 構成ミスによりこの重要な機能が失われるのを避けるため、Webex アプリには下位互換ロジックが追加されました。テンプレートに新しい構成セクション がない場合、または新しいカスタム タグ (%ENABLE_EMERGENCY_LOCATION_WXT%) が設定されていない場合、enabled 属性を "false" に設定すると、Webex アプリは従来の構成セクション () を読み取り、その値を適用しようとします。
- この機能が無効になっている場合、緊急コールは適切な PSAP にルーティングする前に発信者の位置を検証するために ERC (Emergency Relay Center) によってトリアージのためにルーティングされ、追加料金が発生する場合があります。

次のスニペットに、DMS 設定テンプレートの変更を示します。

```
<config><services>
<emergency-dialing enabled="%ENABLE_EMERGENCY_DIALING_WXT%">
   <redsky enabled="%EMERGENCY_DIALING_ENABLE_REDSKY_WXT%">  <!-- DEPRECATED by <emergency-
location> -->
      <held-url>%BWE911-PRIMARY-HELDURL%</held-url>
      <held-org-id>%BWE911-CUSTOMERID%</held-org-id>
      <secret>%BWE911-SECRETKEY%</secret>
      <number-list>%BWE911-EMERGENCY-NUMBER-LIST%</number-list>
      <user-reminder-timeout>%EMERGENCY_REDSKY_USER_REMINDER_TIMEOUT_WXT%</user-reminder-
timeout>
      <user-mandatory-location>%EMERGENCY_REDSKY_USER_MANDATORY_LOCATION_WXT%</user-
mandatory-location>
      <user-location-prompting>%EMERGENCY_REDSKY_USER_LOCATION_PROMPTING_WXT%</user-location-
prompting>
   </redsky>
   <emergency-location enabled="%ENABLE_EMERGENCY_LOCATION_WXT%"
                       provider="%EMERGENCY_LOCATION_PROVIDER_NAME_WXT%">
      <held-url>%BWE911-PRIMARY-HELDURL%</held-url>
      <held-org-id>%BWE911-CUSTOMERID%</held-org-id>
      <secret>%BWE911-SECRETKEY%</secret>
      <number-list>%BWE911-EMERGENCY-NUMBER-LIST%</number-list>
      <user-reminder-timeout>%EMERGENCY_LOCATION_USER_REMINDER_TIMEOUT_WXT%</user-reminder-
timeout>
      <user-mandatory-location>%EMERGENCY_LOCATION_USER_MANDATORY_LOCATION_WXT%</user-
mandatory-location>
      <user-location-prompting>%EMERGENCY_LOCATION_USER_LOCATION_PROMPTING_WXT%</user-
location-prompting>
   </emergency-location>
</emergency-dialing>
```

次の表に、新しいカスタム タグとレガシーのカスタム タグ間のマッピングを示します。

構成オプション	非推奨のカスタム タグ	新しいカスタム タグ
タグのenabled属性と、レガシータグの同じ属性です。	%EMERGENCY_DIALING_ENABLE_REDSKY_WXT%	%ENABLE_EMERGENCY_LOCATION_WXT%
Tag <user-reminder-timeout>	%EMERGENCY_REDSKY_USER_REMINDER_TIMEOUT_WXT%	%EMERGENCY_LOCATION_USER_REMINDER_TIMEOUT_WXT%

Tag <user-mandatory-location>	%EMERGENCY_REDSKY_USER_MANDATORY_LOCATION_WXT%	%EMERGENCY_LOCATION_USER_MANDATORY_LOCATION_WXT%
Tag <user-location-prompting>	%EMERGENCY_REDSKY_USER_LOCATION_PROMPTING_WXT%	%EMERGENCY_LOCATION_USER_LOCATION_PROMPTING_WXT%

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%ENABLE_EMERGENCY_LOCATION_WXT%	false	true、false	緊急ロケーション プラットフォームの使用を有効にします。
%EMERGENCY_LOCATION_PROVIDER_NAME_WXT%	レッドキー	redsky, イントラッド, 9ライン, webex	どの緊急ロケーション プロバイダーを使用する必要があるかを指定します。 「webex」は Webex Calling 展開にのみ適用され、Cisco 緊急ロケーション情報サービスを利用するように設定する必要があります。
%BWE911-PRIMARY-HELDURL%	空	文字列	HELD プロトコルをサポートする E911 プロバイダーへの URL を指定します。
%BWE911-CUSTOMERID%	空	文字列	E911 プロバイダー HTTPS 要求に使用される顧客 ID（HeldOrgId、CompanyID）。
%BWE911-SECRETKEY%	空	文字列	E911 プロバイダーの HTTPS 要求を認証するためのシークレット。 E911 プロバイダーとして「webex」では使用しない (空)
%BWE911-EMERGENCY-NUMBER-LIST%	空	CSV文字列	E911 プロバイダーがサポートする緊急番号のリスト。
%EMERGENCY_LOCATION_USER_REMINDER_TIMEOUT_WXT%	0 (再度プロンプトは表示されない)	番号 [0 - 43200]	現在の緊急ロケーションが入力されていないか、無効の場合に、ユーザーに緊急ロケーションを更新するようにリマインドするために使用されるタイムアウト（分単位）。 有効にする場合の推奨値：1440（1日）。
%EMERGENCY_LOCATION_USER_MANDATORY_LOCATION_WXT%	-1 (ユーザは常にダイアログをキャンセルできる)	番号 [-1 - 100]	ロケーションが必須になる前に、ユーザがロケーション ダイアログを閉じることを許可する時間（つまり、ロケーション ウィンドウを閉じることはできません）。 使用可能な値: ▪ N = -1（ユーザはいつでもダイアログをキャンセルできます） ▪ N = 0（ユーザーはダイアログをキャンセルすることができない。） N > 0 (ダイアログが必須になる前に、ユーザーはN回キャンセルできる)

タグ	省略時のデフォルト	サポートされている値	説明
%EMERGENCY_LOCATION_USER_LOCATION_PROMPTING_WXT%	once_per_login	アグレッシブ、1回のログインにつき1回	▪ E911 ロケーション プロンプトの動作を定義します。一方、「once_per_login」は、ダイアログを一度だけ表示し、ポップアップが表示されるのを防ぐ。

8 Cisco BroadWorks 版 Webex と UC-One 間のカスタム タグ マッピング

次の表に、UC-One のレガシー カスタム タグと一致する Cisco BroadWorks 版 Webex のカスタム タグを示します。

Cisco BroadWorks 版 Webex タグ	デスクトップ・レガシータグ	モバイルレガシータグ
%ENABLE_REJECT_WITH_486_WXT%	%ENABLE_REJECT_WITH_486_DESKTOP%	%ENABLE_REJECT_WITH_486_MOBILE%
%REJECT_WITH_XSI_MODE_WXT%	該当なし	%REJECT_WITH_XSI_MODE_MOBILE%
%REJECT_WITH_XSI_DECLINE_REASON_WXT%	該当なし	%REJECT_WITH_XSI_DECLINE_REASON_MOBILE%
%ENABLE_TRANSFER_CALLS_WXT%	%ENABLE_TRANSFER_CALLS%	%ENABLE_TRANSFER_CALLS_MOBILE%
%ENABLE_CONFERENCE_CALLS_WXT%	該当なし	%ENABLE_CONFERENCE_CALLS_MOBILE%
%ENABLE_NWAY_PARTICIPANT_LIST_WXT%	%ENABLE_NWAY_PARTICIPANT_LIST_DESKTOP%	該当なし
%MAX_CONF_PARTIES_WXT%	%MAX_CONF_PARTIES%	該当しない
%ENABLE_CALL_STATISTICS_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_CALL_PULL_WXT%	%ENABLE_CALL_PULL_DESKTOP%	%ENABLE_CALL_PULL_MOBILE%
%PN_FOR_CALLS_CONNECT_SIP_ON_ACCEPT_WXT%	該当なし	%PN_FOR_CALLS_CONNECT_SIP_ON_ACCEPT_MOBILE%
%ENABLE_MWI_WXT%	%DESKTOP_MWI_ENABLE%	%ENABLE_MWI_MOBILE%
%ENABLE_MWI_WXT%	%DESKTOP_MWI_ENABLE%	%ENABLE_MWI_MOBILE%
%MWI_MODE_WXT%	%DESKTOP_MWI_MODE%	%MWI_MODE_MOBILE%
%ENABLE_VOICE_MAIL_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_VISUAL_VOICE_MAIL_WXT%	%ENABLE_VISUAL_VOICE_MAIL%	該当なし
%ENABLE_FORCED_LOGOUT_WXT%	%ENABLE_FORCED_LOGOUT%	該当なし
%FORCED_LOGOUT_APPID_WXT%	%FORCED_LOGOUT_APPID%	該当しない
%ENABLE_CALL_FORWARDING_ALWAYS_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_WXT%	該当しない	該当しない

Cisco BroadWorks 版 Webex タグ	デスクトップ・レガシータグ	モバイルレガシータグ
%ENBLE_BROADWORKS_ANYWHERE_DESCRIPTION_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_ALERT_ALL_LOCATIONS_WXT%	該当しない	該当しない
%BROADWORKS_ANYWHERE_ALERT_ALL_LOCATIONS_DEFAULT_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_CALL_CONTROL_WXT%	該当しない	該当しない
%BROADWORKS_ANYWHERE_CALL_CONTROL_DEFAULT_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_DIVERSION_INHIBITOR_WXT%	該当しない	該当しない
%BROADWORKS_ANYWHERE_DIVERSION_INHIBITOR_DEFAULT_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_ANSWER_CONFIRMATION_WXT%	該当しない	該当しない
%BROADWORKS_ANYWHERE_ANSWER_CONFIRMATION_DEFAULT_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_EMERGENCY_DIALING_WXT%	該当しない	該当しない
%EMERGENCY_DIALING_NUMBERS_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_USE_RPORT_WXT%	%USE_RPORT_IP%	%ENABLE_USE_RPORT_MOBILE%
%RPORT_USE_LOCAL_PORT_WXT%	該当なし	%RPORT_USE_LOCAL_PORT_MOBILE%
%USE_TLS_WXT%	%USE_TLS%	該当なし
%SBC_ADDRESS_WXT%	%SBC_ADDRESS%	%SBC_ADDRESS%
%SBC_PORT_WXT%	%SBC_PORT%	%SBC_PORT%
%USE_PROXY_DISCOVERY_WXT%	%USE_PROXY_DISCOVERY%	%USE_PROXY_DISCOVERY_MOBILE %
%USE_TCP_FROM_DNS_WXT%	%USE_TCP_FROM_DNS%	該当なし
%USE_UDP_FROM_DNS_WXT%	%USE_UDP_FROM_DNS%	該当なし

Cisco BroadWorks 版 Webex タグ	デスクトップ・レガシータグ	モバイルレガシータグ
%USE_TLS_FROM_DNS_WXT%	%USE_TLS_FROM_DNS%	該当なし
%DOMAIN_OVERRIDE_WXT%	%DOMAIN_オーバーライド%	%DOMAIN_オーバーライド%
%SOURCE_PORT_WXT%	%SOURCE_PORT%	%SOURCE_PORT%
%USE_ALTERNATIVE_IDENTITIES_WXT%	%USE_ALTERNATIVE_IDENTITIES%	該当なし
%TCP_SIZE_THRESHOLD_WXT%	%TCP_SIZE_THRESHOLD%	該当なし
%SIP_REFRESH_ON_TTL_WXT%	%SIP_REFRESH_ON_TTL%	該当なし
%ENABLE_SIP_UPDATE_SUPPORT_WXT%	%ENABLE_SIP_UPDATE_SUPPORT_DESKTOP%	%ENABLE_SIP_UPDATE_SUPPORT_MOBILE%
%ENABLE_PEM_SUPPORT_WXT%	%ENABLE_PEM_SUPPORT_DESKTOP%	該当しない
%ENABLE_SIP_SESSION_ID_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_FORCE_SIP_INFO_FIR_WXT%	該当しない	該当しない
%SRTP_ENABLED_WXT%	%USE_SRTP%	%SRTP_ENABLED_MOBILE%
%SRTP_MODE_WXT%	%SRTP_PREFERENCE%	%SRTP_MODE_MOBILE%
%ENABLE_REKEYING_WXT%	%ENABLE_RE_KEYING_DESKTOP%	%ENABLE_RE-KEYING_MOBILE%
%RTP_AUDIO_PORT_RANGE_START_WXT%	%RTP_AUDIO_PORT_RANGE_START%	%RTP_AUDIO_PORT_RANGE_START%
%RTP_AUDIO_PORT_RANGE_END_WXT%	%RTP_AUDIO_PORT_RANGE_END%	%RTP_AUDIO_PORT_RANGE_END%
%RTP_VIDEO_PORT_RANGE_START_WXT%	%RTP_VIDEO_PORT_RANGE_START%	%RTP_VIDEO_PORT_RANGE_START%
%RTP_VIDEO_PORT_RANGE_END_WXT%	%RTP_VIDEO_PORT_RANGE_END%	%RTP_VIDEO_PORT_RANGE_END%
%ENABLE_RTCP_MUX_WXT%	%ENABLE_RTCP_MUX%	%ENABLE_RTCP_MUX%
%ENABLE_XSI_EVENT_CHANNEL_WXT%	%ENABLE_XSI_EVENT_CHANNEL%	該当なし
%CHANNEL_HEARTBEAT_WXT%	%CHANNEL_HEARTBEAT%	%CHANNEL_HEARTBEAT_MOBILE%
%XSI_ROOT_WXT%	%XSI_ROOT%	%XSI_ROOT%
%XSI_ACTIONS_PATH_WXT%	該当なし	%XSI_ACTIONS_PATH_MOBILE%
%XSI_EVENTS_PATH_WXT%	該当なし	%XSI_EVENTS_PATH_MOBILE%

Cisco BroadWorks 版 Webex タグ	デスクトップ・レガシータグ	モバイルレガシータグ
%ENABLE_CALLS_AUTO_ RECOVERY_WXT%	該当なし	%ENABLE_CALLS_AUTO_RE COVERY _MOBILE%
%EMERGENCY_CALL_DIAL_ SEQUENCE_WXT%	該当なし	%EMERGENCY_CALL_DIAL_S EQUENCE _MOBILE%
%ENABLE_CALL_PICKUP_BLI ND_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_CALL_PICKUP_ DIRECTED_WXT%	該当しない	該当しない
%WEB_CALL_SETTINGS_URL _WXT%	該当しない	%WEB_CALL_SETTINGS_URL %
%USE_MEDIASEC_WXT%	%USE_MEDIASEC_MOBILE%	%USE_MEDIASEC_DESKTOP %
%ENABLE_CALL_CENTER_ WXT%	%ENABLE_CALL_CENTER_D ESKTOP %"	該当しない
%WEB_CALL_SETTINGS_TAR GET_WXT%	該当しない	該当しない
%WEB_CALL_SETTINGS_CFA _ VISIBLE_WXT%	該当しない	%WEB_CALL_SETTINGS_CFA _VISIBLE%
%WEB_CALL_SETTINGS_DN D_VISIBLE_WXT%	該当なし	%WEB_CALL_SETTINGS_DN D_VISIBLE%
%WEB_CALL_SETTINGS_AC R_VISIBLE_WXT%	該当なし	%WEB_CALL_SETTINGS_AC R_VISIBLE%
%WEB_CALL_SETTINGS_CFB _VISIBLE_WXT%	該当なし	%WEB_CALL_SETTINGS_CFB _VISIBLE%
%WEB_CALL_SETTINGS_CFN R_VISIBLE_WXT%	該当なし	%WEB_CALL_SETTINGS_CFN R_VISIBLE%
%WEB_CALL_SETTINGS_CFN A_VISIBLE_WXT%	該当なし	%WEB_CALL_SETTINGS_CFN A_VISIBLE%
%WEB_CALL_SETTINGS_SIM RING_VISIBLE_WXT%	該当なし	%WEB_CALL_SETTINGS_SIM RING_VISIBLE%
%WEB_CALL_SETTINGS_ SEQRING_VISIBLE_WXT%	該当なし	%WEB_CALL_SETTINGS_SE QRING_VISIBLE%
%WEB_CALL_SETTINGS_RO_ VISIBLE_WXT%	該当なし	%WEB_CALL_SETTINGS_RO_ VISIBLE%
%WEB_CALL_SETTINGS_ACB _VISIBLE_WXT%	該当なし	%WEB_CALL_SETTINGS_ACB _VISIBLE%
%WEB_CALL_SETTINGS_CW _VISIBLE_WXT%	該当なし	%WEB_CALL_SETTINGS_CW _VISIBLE%
%WEB_CALL_SETTINGS_CLI DB_VISIBLE_WXT%	該当なし	%WEB_CALL_SETTINGS_CLI DB_VISIBLE%

Cisco BroadWorks 版 Webex タグ	デスクトップ・レガシータグ	モバイルレガシータグ
%WEB_CALL_SETTINGS_PA_VISIBLE_WXT%	該当なし	%WEB_CALL_SETTINGS_PA_VISIBLE%
%WEB_CALL_SETTINGS_BWA_VISIBLE_WXT%	該当なし	%WEB_CALL_SETTINGS_BWA_VISIBLE%
%WEB_CALL_SETTINGS_CC_VISIBLE_WXT%	該当なし	%WEB_CALL_STANDARD_SETTINGS_CC_VISIBLE%
%WEB_CALL_SETTINGS_BWM_VISIBLE_WXT%	該当なし	%WEB_CALL_SETTINGS_BWM_VISIBLE%
%WEB_CALL_SETTINGS_VM_VISIBLE_WXT%	該当なし	%WEB_CALL_SETTINGS_VM_VISIBLE%
%ENABLE_DIALING_CALL_BACK_WXT%	該当しない	該当しない
%DIALING_CALL_BACK_TIMER_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_EXECUTIVE_ASSISTANT_WXT%	%ENABLE_EXECUTIVE_ASSISTANT_DESKTOP%	該当しない
%PN_FOR_CALLS_RING_TIMEOUT_SECONDS_WXT%	該当しない	%PN_FOR_CALLS_RING_TIMEOUT_SECONDS_MOBILE%
%ENABLE_CALL_RECORDING_WXT%	%ENABLE_CALL_RECORDING_DESKTOP%	%CALL_RECORDING_MOBILE%
%ENABLE_SINGLE_ALERTING_WXT%	該当なし	%ENABLE_SINGLE_ALERTING%
%ENABLE_CALL_PARK_WXT%	%ENABLE_CALL_PARK_DESKTOP%	該当しない
%CALL_PARK_AUTO_CLOSE_DIALOG_TIMER_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_RTP_ICE_WXT%	該当しない	該当しない
%RTP_ICE_MODE_WXT%	該当しない	該当しない
%RTP_ICE_SERVICE_URI_WXT%	該当しない	該当しない
%RTP_ICE_PORT_WXT%	該当しない	該当しない
%SIP_REFRESH_ON_TTL_USE_RANDOM_FACTOR_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_DIALING_VOIP_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_DIALING_NATIVE_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_DESKPHONE_CONTROL_AUTO_ANSWER_WXT%	該当しない	該当しない

Cisco BroadWorks 版 Webex タグ	デスクトップ・レガシータグ	モバイルレガシータグ
%SIP_URI_DIALING_ENABLE_LOCUS_CALLING_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_UNIFIED_CALL_HISTORY_WXT%	該当しない	該当しない
%WEB_CALL_SETTINGS_BRANDING_ENABLED_WXT%	該当しない	該当しない
%USER_PORTAL_SETTINGS_URL_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_DEVICE_OWNER_RESTRICTION_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_AUDIO_MARI_FEC_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_AUDIO_MARI_RTX_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_VIDEO_MARI_FEC_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_VIDEO_MARI_RTX_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_CALL_BLOCK_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_WIDGET_HOLD_CALLS_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_WIDGET_TRANSFER_CALLS_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_WIDGET_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_SIMULTANEOUS_CALLS_WITH_SAME_USER_WXT%	該当しない	該当しない
%SIP_REGISTER_FAILOVER_REGISTRATION_CLEANUP_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_CALL_MOVE_HERE_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_SPEECH_ENHANCEMENTS_WXT%	該当しない	該当しない
%DIALING_NATIVE_FAC_PREFIX_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_TRANSFER_AUTO_HOLD_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_RTCP_XR_NEGOTIATION_WXT%	該当しない	該当しない

Cisco BroadWorks 版 Webex タグ	デスクトップ・レガシータグ	モバイルレガシータグ
%ENABLE_CLID_INCOMING_CALLS_APPEND_NUMBER_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_CLID_MISSED_CALLS_APPEND_NUMBER_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_ADDITIONAL_NUMBERS_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_CALL_CENTER_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_HUNT_GROUP_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_DELIVERY_BLOCKING_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_CALL_FORWARDING_INFO_CALLS_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_BUSY_LAMP_FIELD_WXT%	%ENABLE_BUSY_LAMP_FIELD_DESKTOP%	該当なし
%ENABLE_BLF_DISPLAY_CALLER_WXT%	%ENABLE_BLF_DISPLAY_CALLER_DESKTOP%	該当しない
%BLF_NOTIFICATION_DELAY_TIME_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_GCP_NOTIFICATIONS_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_GCP_DISPLAY_CALLER_WXT%	該当しない	該当しない
%GCP_NOTIFICATION_MAX_TIMEOUT_VALUE_WXT%	該当しない	該当しない
%UDP_KEEPALIVE_ENABLED_WXT%	該当しない	該当しない
%TCP_KEEPALIVE_ENABLED_WXT%	該当しない	該当しない
%TLS_KEEPALIVE_ENABLED_WXT%	該当しない	該当しない
%PERSONAL_ASSISTANT_ENABLED_WXT%	%DESKTOP_PERSONAL_ASSISTANT_ENABLED%	%ENABLE_PERSONAL_ASSISTANT_PRESENCE%
%PN_FOR_CALLS_DELIVERY_MODE_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_ENHANCED_AUTHORIZATION_WXT%	該当しない	該当しない

Cisco BroadWorks 版 Webex タグ	デスクトップ・レガシータグ	モバイルレガシータグ
%ENABLE_CONFERENCE_DROP_TWO_PARTY_CONFERENCE_WXT%	該当しない	該当しない
%CALL_PULL_MODE_WXT%	該当しない	該当しない
%CALL_PULL_DEFAULT_ACTIVE_MOVE_OPTION_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_EMERGENCY_LOCATION_WXT%	該当しない	該当しない
%EMERGENCY_LOCATION_USER_REMINDER_TIMEOUT_WXT%	該当しない	該当しない
%EMERGENCY_LOCATION_USER_MANDATORY_LOCATION_WXT%	該当しない	該当しない
%EMERGENCY_LOCATION_USER_LOCATION_PROMPTING_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_CALLS_E2EE_WXT%	該当しない	該当しない
%ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_MOBILITY_WXT%	該当しない	該当しない
%CHANNEL_INACTIVITY_TIMEOUT_WXT%	該当しない	該当しない

注: N/Aは、UC-Oneでその機能を制御する対応するカスタムタグがなかったことを示します。デスクトップとモバイルのレガシータグの両方の N/A を持つことは、Cisco BroadWorks 版 Webex タグが新しく、新しい機能または既存の機能のいずれかを制御することを示します。これは、UC-One のカスタム タグで制御されませんでした。

9 別紙A: TLS 暗号化

BroadWorks 版 Webex クライアントは、追加のセキュリティ強化により OpenSSL をベースにした CiscoSSL を使用します。

10 別紙B: DMタグ・プロビジョニング・スクリプト

多くの顧客が新しいコンフィギュレーション・パラメーター用のタグを好むため、カスタムDMタグの数はリリースごとに増えている。カスタムDMタグをより簡単にプロビジョニングする仕組みを提供するために、このセクションでは、カスタムDMタグに値を割り当てるためにアプリケーションサーバー（AS）側で実行できるスクリプトを紹介する。このスクリプトは特に、カスタムDMタグのほとんどが使用されることを想定している新規デプロイメントを対象としている。

このスクリプトは、カスタムDMタグが作成される新規デプロイメントにのみ有効であることに注意。既存のカスタムDMタグを変更するには、以下のスクリプトのコマンドを「add」から「set」に変更する必要がある。

スクリプトテンプレートには、いくつかのカスタムタグしか設定されていません（実際のデプロイでは、カスタムタグの大きなリストを入力する必要があります）。なお、以下の例はモバイル用である。デスクトップでは、Connect_Tagsの代わりにBroadTouch_tagsタグセットを使用します。タブレットの場合は、Connect_Tagsの代わりにConnectTablet_Tagsタグセットを使用する。

```
%% ********************************** Connect_Tags - read file **********************************
%%
%% Instructions:
%% ------------------
%% - This read file can be used to create, add and set Webex for BroadWorks
%% client custom tags
%% - Use %% to comment out any steps not required based on deployment specific
%% service requirements:
%% Step 1 -- for new deployments only, create initial tag set label
%% Step 2 -- add a new custom tag (an entry is required for each new tag)
%% Step 3 -- set value for an existing custom tag (entry required for each applicable tag)
%% Step 4 -- display and visually verify tag settings
%%
%% - Edit, modify file as needed respecting command syntax. Save file (e.g. WxT_Tags.txt)
%% - SFTP read file to AS under directory /tmp
%% - Login to AS, bwcli (login as admin)
%% - Execute the following command from bwcli: AS_CLI> r /tmp/ WxT_Tags.txt
%% - Verify results
%%
%% ----------------------------------------------------------------------------------------------------------------
%% Step 1: Create Connect tag set label - Connect_Tags
%% ----------------------------------------------------------------------------------------------------------------
quit all;System;DeviceTagSet
add Connect_Tags
%% ----------------------------------------------------------------------------------------------------------------
%% Step 2: Add WxT for BWKS custom tags
%% EXAMPLE – for all mobile tags see the list below----------------------------------------------------
quit all;System;DeviceTagSet;Tags
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_TRANSFER_CALLS_WXT% true
%% ----------------------------------------------------------------------------------------------------------------
%% Step 3: Set Connect custom tags (if tag already exists)
%% EXAMPLE – for all mobile tags see the list below
set tagSetName Connect_Tags %ENABLE_TRANSFER_CALLS_WXT% isOverridable true
tagvalue false
```

```
%% ----------------------------------------------------------------------------------------------------------------
%% Step 4: Verify custom tags have been correctly defined and set
%% ----------------------------------------------------------------------------------------------------------------
quit all;System;DeviceTagSet;Tags
get tagSetName Connect_Tags
quit all
```

以下に、Cisco BroadWorks 版 Webex で使用されるすべてのカスタム タグを例に示します (デフォルトまたは推奨)。タグの中には、対応する配置に固有の値(サーバーアドレスなど)を必要とするものがあることに注意してください。そのため、これらのタグはスクリプトの最後に追加されるが、空のままである。

10.1 デスクトップ

```
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_REJECT_WITH_486_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_TRANSFER_CALLS_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_XSI_TRANSFER_CALLS_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_XSI_CONFERENCE_CALLS_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_BUSY_LAMP_FIELD_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_BLF_DISPLAY_CALLER_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %BLF_NOTIFICATION_DELAY_TIME_WXT% 0
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_REMOTE_CONTROL_EVENTS_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_CALLS_SPAM_INDICATION_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_NOISE_REMOVAL_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %TRANSFER_CALL_TYPE_WXT% full
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_CONFERENCE_CALLS_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_NWAY_PARTICIPANT_LIST_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %MAX_CONF_PARTIES_WXT% 10
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_CALL_STATISTICS_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_CALL_PULL_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_MWI_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_VOICE_MAIL_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_VISUAL_VOICE_MAIL_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_CALL_FORWARDING_ALWAYS_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_DESCRIPTION_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_ALERT_ALL_LOCATIONS_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %BROADWORKS_ANYWHERE_ALERT_ALL_LOCATIONS_DEFAULT_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_CALL_CONTROL_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %BROADWORKS_ANYWHERE_CALL_CONTROL_DEFAULT_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_DIVERSION_INHIBITOR_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %BROADWORKS_ANYWHERE_DIVERSION_INHIBITOR_DEFAULT_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_ANSWER_CONFIRMATION_WXT%
false
add tagSetName BroadTouch_tags %BROADWORKS_ANYWHERE_ANSWER_CONFIRMATION_DEFAULT_WXT%
false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_USE_RPORT_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %RPORT_USE_LOCAL_PORT_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %USE_TLS_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %SBC_PORT_WXT% 5075
add tagSetName BroadTouch_tags %USE_PROXY_DISCOVERY_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %USE_TCP_FROM_DNS_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %USE_UDP_FROM_DNS_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %USE_TLS_FROM_DNS_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %PROXY_DISCOVERY_ENABLE_BACKUP_SERVICE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %PROXY_DISCOVERY_ENABLE_SRV_BACKUP_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %PROXY_DISCOVERY_BYPASS_OS_CACHE_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %SIP_TRANSPORTS_TCP_CONNECT_TIMEOUT_WXT% 5000
add tagSetName BroadTouch_tags %SIP_TRANSPORTS_TLS_CONNECT_TIMEOUT_WXT% 10000
```

```
add tagSetName BroadTouch_tags %SOURCE_PORT_WXT% 5060
add tagSetName BroadTouch_tags %USE_ALTERNATIVE_IDENTITIES_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %SIP_FAILBACK_ENABLED_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %SIP_FAILBACK_TIMEOUT_WXT% 900
add tagSetName BroadTouch_tags %SIP_FAILBACK_USE_RANDOM_FACTOR_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %SIP_TRANSPORTS_ENFORCE_IP_VERSION_WXT% dns
add tagSetName BroadTouch_tags %TCP_SIZE_THRESHOLD_WXT% 18000
add tagSetName BroadTouch_tags %SIP_REFRESH_ON_TTL_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %SIP_REFRESH_ON_TTL_USE_RANDOM_FACTOR_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_SIP_UPDATE_SUPPORT_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_PEM_SUPPORT_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_SIP_SESSION_ID_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_FORCE_SIP_INFO_FIR_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %SRTP_ENABLED_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %SRTP_MODE_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_REKEYING_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %RTP_AUDIO_PORT_RANGE_START_WXT% 8000
add tagSetName BroadTouch_tags %RTP_AUDIO_PORT_RANGE_END_WXT% 8099
add tagSetName BroadTouch_tags %RTP_VIDEO_PORT_RANGE_START_WXT% 8100
add tagSetName BroadTouch_tags %RTP_VIDEO_PORT_RANGE_END_WXT% 8199
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_RTCP_MUX_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_XSI_EVENT_CHANNEL_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %CHANNEL_HEARTBEAT_WXT% 10000
add tagSetName BroadTouch_tags %XSI_ACTIONS_PATH_WXT% /com.broadsoft.xsi-actions/
add tagSetName BroadTouch_tags %XSI_EVENTS_PATH_WXT% /com.broadsoft.xsi-events/
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_CALLS_AUTO_RECOVERY_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %USE_MEDIASEC_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_SCREEN_SHARE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_CALL_CENTER_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_TARGET_WXT% external
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_CFA_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_CFB_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_CFNR_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_CFNA_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_DND_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_ACR_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_SIMRING_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_SEQRING_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_ACB_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_CW_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_CLIDB_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_PA_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_CC_VISIBLE_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_BWA_VISIBLE_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_BWM_VISIBLE_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_RO_VISIBLE_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_VM_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_BRANDING_ENABLED_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_EMAIL_VM_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %USER_PORTAL_SETTINGS_URL_WXT%
add tagSetName BroadTouch_tags %USER_PORTAL_SETTINGS_TARGET_WXT% external
add tagSetName BroadTouch_tags %USER_PORTAL_SETTINGS_SSO_ENABLED_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_CALL_PICKUP_BLIND_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_CALL_PICKUP_DIRECTED_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_SIP_VIDEOCALLS_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_LOCUS_VIDEOCALLS_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %VIDEOCALLS_ANSWER_WITH_VIDEO_ON_DEFAULT_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %EMERGENCY_DIALING_ENABLE_REDSKY_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %EMERGENCY_REDSKY_USER_REMINDER_TIMEOUT_WXT% 0
add tagSetName BroadTouch_tags %EMERGENCY_REDSKY_USER_MANDATORY_LOCATION_WXT% -1
```

```
add tagSetName BroadTouch_tags %EMERGENCY_REDSKY_USER_LOCATION_PROMPTING_WXT%
once_per_login
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_FORCED_LOGOUT_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_EXECUTIVE_ASSISTANT_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_CALL_RECORDING_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_CALL_PARK_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %CALL_PARK_AUTO_CLOSE_DIALOG_TIMER_WXT% 10
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_DESKPHONE_CONTROL_AUTO_ANSWER_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_RTP_ICE_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %RTP_ICE_MODE_WXT% icestun
add tagSetName BroadTouch_tags %RTP_ICE_PORT_WXT% 3478
add tagSetName BroadTouch_tags %SIP_URI_DIALING_ENABLE_LOCUS_CALLING_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_UNIFIED_CALL_HISTORY_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %RTP_ICE_SERVICE_URI_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %FORCED_LOGOUT_APPID_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %XSI_ROOT_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %SBC_ADDRESS_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %SBC_PORT_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %MWI_MODE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_VOICE_MAIL_TRANSCRIPTION_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %WEB_CALL_SETTINGS_URL_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %DOMAIN_OVERRIDE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_AUTO_ANSWER_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %USE_PAI_AS_CALLING_IDENTITY_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_MULTI_LINE_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_AUDIO_QOS_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %AUDIO_QOS_VALUE_WXT% 46
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_VIDEO_QOS_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %VIDEO_QOS_VALUE_WXT% 34
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_DEVICE_OWNER_RESTRICTION_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_AUDIO_MARI_FEC_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_AUDIO_MARI_RTX_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_VIDEO_MARI_FEC_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_VIDEO_MARI_RTX_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_CALL_BLOCK_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_SIMULTANEOUS_CALLS_WITH_SAME_USER_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_REMOTE_MUTE_CONTROL_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_VOICE_MAIL_FORWARDING_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %SIP_REGISTER_FAILOVER_REGISTRATION_CLEANUP_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_CALL_MOVE_HERE_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_SPEECH_ENHANCEMENTS_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_TRANSFER_AUTO_HOLD_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_RTCP_XR_NEGOTIATION_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_ADDITIONAL_NUMBERS_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_CALL_CENTER_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_HUNT_GROUP_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_DELIVERY_BLOCKING_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_CALL_FORWARDING_INFO_CALLS_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_GCP_NOTIFICATIONS_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_GCP_DISPLAY_CALLER_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %GCP_NOTIFICATION_MAX_TIMEOUT_VALUE_WXT% 120
add tagSetName BroadTouch_tags %UDP_KEEPALIVE_ENABLED_WXT% true
add tagSetName BroadTouch_tags %TCP_KEEPALIVE_ENABLED_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %TLS_KEEPALIVE_ENABLED_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_RTP_ICE_IPV6_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %CLID_REMOTE_NAME_MACHINE_MODE_WXT% resolved
add tagSetName BroadTouch_tags %PERSONAL_ASSISTANT_ENABLED_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_ENHANCED_AUTHORIZATION_WXT% false
```

```
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_CONFERENCE_DROP_TWO_PARTY_CONFERENCE_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %CALL_PULL_MODE_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %CALL_PULL_DEFAULT_ACTIVE_MOVE_OPTION_WXT% call_move
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_EMERGENCY_LOCATION_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %EMERGENCY_LOCATION_PROVIDER_NAME_WXT% redsky
add tagSetName BroadTouch_tags %EMERGENCY_LOCATION_USER_REMINDER_TIMEOUT_WXT% 0
add tagSetName BroadTouch_tags %EMERGENCY_LOCATION_USER_MANDATORY_LOCATION_WXT% -1
add tagSetName BroadTouch_tags %EMERGENCY_LOCATION_USER_LOCATION_PROMPTING_WXT%
once_per_login
add tagSetName BroadTouch_tags %ENABLE_CALLS_E2EE_WXT% false
add tagSetName BroadTouch_tags %CHANNEL_INACTIVITY_TIMEOUT_WXT% 60000
add tagSetName BroadTouch_tags %XSI_PROXY_DISCOVERY_MODE_WXT% srv-host
```

10.2 モバイル

```
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_REJECT_WITH_486_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_TRANSFER_CALLS_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CALLS_SPAM_INDICATION_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_NOISE_REMOVAL_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %TRANSFER_CALL_TYPE_WXT% full
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_XSI_TRANSFER_CALLS_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CONFERENCE_CALLS_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_NWAY_PARTICIPANT_LIST_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %MAX_CONF_PARTIES_WXT% 10
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CALL_STATISTICS_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CALL_PULL_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_MWI_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_VOICE_MAIL_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_VISUAL_VOICE_MAIL_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CALL_FORWARDING_ALWAYS_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_DESCRIPTION_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_ALERT_ALL_LOCATIONS_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %BROADWORKS_ANYWHERE_ALERT_ALL_LOCATIONS_DEFAULT_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_CALL_CONTROL_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %BROADWORKS_ANYWHERE_CALL_CONTROL_DEFAULT_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_DIVERSION_INHIBITOR_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %BROADWORKS_ANYWHERE_DIVERSION_INHIBITOR_DEFAULT_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_ANSWER_CONFIRMATION_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %BROADWORKS_ANYWHERE_ANSWER_CONFIRMATION_DEFAULT_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_USE_RPORT_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %RPORT_USE_LOCAL_PORT_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %USE_TLS_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %SBC_PORT_WXT% 5075
add tagSetName Connect_Tags %USE_PROXY_DISCOVERY_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %USE_TCP_FROM_DNS_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %USE_UDP_FROM_DNS_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %USE_TLS_FROM_DNS_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %PROXY_DISCOVERY_ENABLE_BACKUP_SERVICE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %PROXY_DISCOVERY_ENABLE_SRV_BACKUP_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %SIP_TRANSPORTS_TCP_CONNECT_TIMEOUT_WXT% 5000
add tagSetName Connect_Tags %SIP_TRANSPORTS_TLS_CONNECT_TIMEOUT_WXT% 10000
add tagSetName Connect_Tags %SOURCE_PORT_WXT% 5060
add tagSetName Connect_Tags %USE_ALTERNATIVE_IDENTITIES_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %SIP_TRANSPORTS_ENFORCE_IP_VERSION_WXT% dns
add tagSetName Connect_Tags %TCP_SIZE_THRESHOLD_WXT% 18000
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_SIP_UPDATE_SUPPORT_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_PEM_SUPPORT_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_SIP_SESSION_ID_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_FORCE_SIP_INFO_FIR_WXT% false
```

```
add tagSetName Connect_Tags %SRTP_ENABLED_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %SRTP_MODE_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_REKEYING_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %RTP_AUDIO_PORT_RANGE_START_WXT% 8000
add tagSetName Connect_Tags %RTP_AUDIO_PORT_RANGE_END_WXT% 8099
add tagSetName Connect_Tags %RTP_VIDEO_PORT_RANGE_START_WXT% 8100
add tagSetName Connect_Tags %RTP_VIDEO_PORT_RANGE_END_WXT% 8199
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_RTCP_MUX_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_XSI_EVENT_CHANNEL_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %CHANNEL_HEARTBEAT_WXT% 10000
add tagSetName Connect_Tags %XSI_ACTIONS_PATH_WXT% /com.broadsoft.xsi-actions/
add tagSetName Connect_Tags %XSI_EVENTS_PATH_WXT% /com.broadsoft.xsi-events/
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CALLS_AUTO_RECOVERY_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %USE_MEDIASEC_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_SCREEN_SHARE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CALL_CENTER_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_TARGET_WXT% external
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_CFA_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_CFB_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_CFNR_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_CFNA_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_DND_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_ACR_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_SIMRING_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_SEQRING_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_ACB_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_CW_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_CLIDB_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_PA_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_CC_VISIBLE_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_BWA_VISIBLE_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_BWM_VISIBLE_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_RO_VISIBLE_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_VM_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_BRANDING_ENABLED_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_EMAIL_VM_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %USER_PORTAL_SETTINGS_URL_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %USER_PORTAL_SETTINGS_TARGET_WXT% external
add tagSetName Connect_tags %USER_PORTAL_SETTINGS_SSO_ENABLED_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_EMERGENCY_DIALING_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %EMERGENCY_CALL_DIAL_SEQUENCE_WXT% cs-only
add tagSetName Connect_Tags %EMERGENCY_DIALING_NUMBERS_WXT% 911,112
add tagSetName Connect_Tags %PN_FOR_CALLS_CONNECT_SIP_ON_ACCEPT_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %REJECT_WITH_XSI_MODE_WXT% decline_false
add tagSetName Connect_Tags %REJECT_WITH_XSI_DECLINE_REASON_WXT% busy
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_DIALING_CALL_BACK_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %DIALING_CALL_BACK_TIMER_WXT% 10
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CALL_RECORDING_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %PN_FOR_CALLS_RING_TIMEOUT_SECONDS_WXT% 35
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_SINGLE_ALERTING_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CALL_PARK_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %CALL_PARK_AUTO_CLOSE_DIALOG_TIMER_WXT% 10
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_RTP_ICE_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %RTP_ICE_MODE_WXT% icestun
add tagSetName Connect_Tags %SIP_URI_DIALING_ENABLE_LOCUS_CALLING_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %RTP_ICE_PORT_WXT% 3478
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_DIALING_VOIP_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_DIALING_NATIVE_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_DIALING_MODE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %DIALING_MODE_DEFAULT_WXT% true
```

```
add tagSetName Connect_Tags %DIALING_NATIVE_ENABLE_BWKS_MOBILITY_DEPENDENCY_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_XSI_CALL_CONTROL_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %XSI_CALL_CONTROL_DEPLOYMENT_TYPE_WXT% MNO_Access
add tagSetName Connect_Tags %DEPLOYMENT_DEVICE_TYPE_1_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %DEPLOYMENT_DEVICE_TYPE_2_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %DEPLOYMENT_DEVICE_TYPE_3_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_XSI_HOLD_CALLS_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_UNIFIED_CALL_HISTORY_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %RTP_ICE_SERVICE_URI_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %XSI_ROOT_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %SBC_ADDRESS_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %SBC_PORT_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %MWI_MODE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_VOICE_MAIL_TRANSCRIPTION_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_URL_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %DOMAIN_OVERRIDE_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_SIP_VIDEOCALLS_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_LOCUS_VIDEOCALLS_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %VIDEOCALLS_ANSWER_WITH_VIDEO_ON_DEFAULT_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %EMERGENCY_DIALING_ENABLE_REDSKY_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %EMERGENCY_REDSKY_USER_REMINDER_TIMEOUT_WXT% 0
add tagSetName Connect_Tags %EMERGENCY_REDSKY_USER_MANDATORY_LOCATION_WXT% -1
add tagSetName Connect_Tags %EMERGENCY_REDSKY_USER_LOCATION_PROMPTING_WXT% once_per_login
add tagSetName Connect_Tags %USE_PAI_AS_CALLING_IDENTITY_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CLID_DELIVERY_BLOCKING_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_MOBILITY_PERSONA_MANAGEMENT_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_RING_SPLASH_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_PN_MOBILE_CALL_INFO_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_AUDIO_QOS_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %AUDIO_QOS_VALUE_WXT% 46
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_VIDEO_QOS_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %VIDEO_QOS_VALUE_WXT% 34
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_DEVICE_OWNER_RESTRICTION_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_AUDIO_MARI_FEC_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_AUDIO_MARI_RTX_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_VIDEO_MARI_FEC_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_VIDEO_MARI_RTX_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CALL_BLOCK_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_WIDGET_HOLD_CALLS_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_WIDGET_TRANSFER_CALLS_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_WIDGET_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_SIMULTANEOUS_CALLS_WITH_SAME_USER_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_VOICE_MAIL_FORWARDING_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %SIP_REGISTER_FAILOVER_REGISTRATION_CLEANUP_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_SPEECH_ENHANCEMENTS_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %DIALING_NATIVE_FAC_PREFIX_WXT%
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_TRANSFER_AUTO_HOLD_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_RTCP_XR_NEGOTIATION_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CLID_INCOMING_CALLS_APPEND_NUMBER_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CLID_MISSED_CALLS_APPEND_NUMBER_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_ADDITIONAL_NUMBERS_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_CALL_CENTER_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_HUNT_GROUP_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_DELIVERY_BLOCKING_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_MOBILITY_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CALL_FORWARDING_INFO_CALLS_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %UDP_KEEPALIVE_ENABLED_WXT% true
add tagSetName Connect_Tags %TCP_KEEPALIVE_ENABLED_WXT% false
```

```
add tagSetName Connect_Tags %TLS_KEEPALIVE_ENABLED_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_RTP_ICE_IPV6_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %CLID_REMOTE_NAME_MACHINE_MODE_WXT% resolved
add tagSetName Connect_Tags %PERSONAL_ASSISTANT_ENABLED_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %PN_FOR_CALLS_DELIVERY_MODE_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_MULTI_LINE_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_ENHANCED_AUTHORIZATION_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CONFERENCE_DROP_TWO_PARTY_CONFERENCE_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %CALL_PULL_MODE_WXT% blind
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_EMERGENCY_LOCATION_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %EMERGENCY_LOCATION_PROVIDER_NAME_WXT% redsky
add tagSetName Connect_Tags %EMERGENCY_LOCATION_USER_REMINDER_TIMEOUT_WXT% 0
add tagSetName Connect_Tags %EMERGENCY_LOCATION_USER_MANDATORY_LOCATION_WXT% -1
add tagSetName Connect_Tags %EMERGENCY_LOCATION_USER_LOCATION_PROMPTING_WXT% once_per_login
add tagSetName Connect_Tags %ENABLE_CALLS_E2EE_WXT% false
add tagSetName Connect_Tags %CHANNEL_INACTIVITY_TIMEOUT_WXT% 60000
add tagSetName Connect_Tags %XSI_PROXY_DISCOVERY_MODE_WXT% srv-host
```

10.3 タブレット

```
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_REJECT_WITH_486_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_TRANSFER_CALLS_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %TRANSFER_CALL_TYPE_WXT% full
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_XSI_TRANSFER_CALLS_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CALLS_SPAM_INDICATION_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_NOISE_REMOVAL_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CONFERENCE_CALLS_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_NWAY_PARTICIPANT_LIST_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %MAX_CONF_PARTIES_WXT% 10
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CALL_STATISTICS_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CALL_PULL_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_MWI_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_VOICE_MAIL_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_VISUAL_VOICE_MAIL_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CALL_FORWARDING_ALWAYS_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_DESCRIPTION_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_ALERT_ALL_LOCATIONS_WXT%
false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %BROADWORKS_ANYWHERE_ALERT_ALL_LOCATIONS_DEFAULT_WXT%
false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_CALL_CONTROL_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %BROADWORKS_ANYWHERE_CALL_CONTROL_DEFAULT_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_DIVERSION_INHIBITOR_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %BROADWORKS_ANYWHERE_DIVERSION_INHIBITOR_DEFAULT_WXT%
false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_BROADWORKS_ANYWHERE_ANSWER_CONFIRMATION_WXT%
false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %BROADWORKS_ANYWHERE_ANSWER_CONFIRMATION_DEFAULT_WXT%
false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_USE_RPORT_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %RPORT_USE_LOCAL_PORT_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %USE_TLS_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %SBC_PORT_WXT% 5075
add tagSetName ConnectTablet_Tags %USE_PROXY_DISCOVERY_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %USE_TCP_FROM_DNS_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %USE_UDP_FROM_DNS_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %USE_TLS_FROM_DNS_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %SIP_TRANSPORTS_TCP_CONNECT_TIMEOUT_WXT% 5000
add tagSetName ConnectTablet_Tags %SIP_TRANSPORTS_TLS_CONNECT_TIMEOUT_WXT% 10000
```

```
add tagSetName ConnectTablet_Tags %PROXY_DISCOVERY_ENABLE_BACKUP_SERVICE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %PROXY_DISCOVERY_ENABLE_SRV_BACKUP_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %SOURCE_PORT_WXT% 5060
add tagSetName ConnectTablet_Tags %USE_ALTERNATIVE_IDENTITIES_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %SIP_TRANSPORTS_ENFORCE_IP_VERSION_WXT% dns
add tagSetName ConnectTablet_Tags %TCP_SIZE_THRESHOLD_WXT% 18000
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_SIP_UPDATE_SUPPORT_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_PEM_SUPPORT_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_SIP_SESSION_ID_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_FORCE_SIP_INFO_FIR_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %SRTP_ENABLED_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %SRTP_MODE_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_REKEYING_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %RTP_AUDIO_PORT_RANGE_START_WXT% 8000
add tagSetName ConnectTablet_Tags %RTP_AUDIO_PORT_RANGE_END_WXT% 8099
add tagSetName ConnectTablet_Tags %RTP_VIDEO_PORT_RANGE_START_WXT% 8100
add tagSetName ConnectTablet_Tags %RTP_VIDEO_PORT_RANGE_END_WXT% 8199
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_RTCP_MUX_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_XSI_EVENT_CHANNEL_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %CHANNEL_HEARTBEAT_WXT% 10000
add tagSetName ConnectTablet_Tags %XSI_ACTIONS_PATH_WXT% /com.broadsoft.xsi-actions/
add tagSetName ConnectTablet_Tags %XSI_EVENTS_PATH_WXT% /com.broadsoft.xsi-events/
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CALLS_AUTO_RECOVERY_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %USE_MEDIASEC_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_SCREEN_SHARE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CALL_CENTER_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_TARGET_WXT% external
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_CFA_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_CFB_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_CFNR_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_CFNA_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_DND_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_ACR_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_SIMRING_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_SEQRING_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_ACB_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_CW_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_CLIDB_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_PA_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_CC_VISIBLE_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_BWA_VISIBLE_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_BWM_VISIBLE_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_RO_VISIBLE_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_VM_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_BRANDING_ENABLED_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_EMAIL_VM_VISIBLE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %USER_PORTAL_SETTINGS_URL_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %USER_PORTAL_SETTINGS_TARGET_WXT% external
add tagSetName ConnectTablet_Tags %USER_PORTAL_SETTINGS_SSO_ENABLED_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_EMERGENCY_DIALING_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %EMERGENCY_CALL_DIAL_SEQUENCE_WXT% cs-only
add tagSetName ConnectTablet_Tags %EMERGENCY_DIALING_NUMBERS_WXT% 911,112
add tagSetName ConnectTablet_Tags %PN_FOR_CALLS_CONNECT_SIP_ON_ACCEPT_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %REJECT_WITH_XSI_MODE_WXT% decline_false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %REJECT_WITH_XSI_DECLINE_REASON_WXT% busy
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_DIALING_CALL_BACK_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %DIALING_CALL_BACK_TIMER_WXT% 10
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CALL_RECORDING_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %PN_FOR_CALLS_RING_TIMEOUT_SECONDS_WXT% 35
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_SINGLE_ALERTING_WXT% false
```

```
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CALL_PARK_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %CALL_PARK_AUTO_CLOSE_DIALOG_TIMER_WXT% 10
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_RTP_ICE_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %RTP_ICE_MODE_WXT% icestun
add tagSetName ConnectTablet_Tags %SIP_URI_DIALING_ENABLE_LOCUS_CALLING_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %RTP_ICE_PORT_WXT% 3478
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_DIALING_VOIP_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_DIALING_NATIVE_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_DIALING_MODE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %DIALING_MODE_DEFAULT_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %DIALING_NATIVE_ENABLE_BWKS_MOBILITY_DEPENDENCY_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_XSI_CALL_CONTROL_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %XSI_CALL_CONTROL_DEPLOYMENT_TYPE_WXT% MNO_Access
add tagSetName ConnectTablet_Tags %DEPLOYMENT_DEVICE_TYPE_1_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %DEPLOYMENT_DEVICE_TYPE_2_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %DEPLOYMENT_DEVICE_TYPE_3_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_XSI_HOLD_CALLS_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_UNIFIED_CALL_HISTORY_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %RTP_ICE_SERVICE_URI_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %XSI_ROOT_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %SBC_ADDRESS_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %SBC_PORT_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %MWI_MODE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_VOICE_MAIL_TRANSCRIPTION_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %WEB_CALL_SETTINGS_URL_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %DOMAIN_OVERRIDE_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_SIP_VIDEOCALLS_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_LOCUS_VIDEOCALLS_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %VIDEOCALLS_ANSWER_WITH_VIDEO_ON_DEFAULT_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %EMERGENCY_DIALING_ENABLE_REDSKY_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %EMERGENCY_REDSKY_USER_REMINDER_TIMEOUT_WXT% 0
add tagSetName ConnectTablet_Tags %EMERGENCY_REDSKY_USER_MANDATORY_LOCATION_WXT% -1
add tagSetName ConnectTablet_Tags %EMERGENCY_REDSKY_USER_LOCATION_PROMPTING_WXT%
once_per_login
add tagSetName ConnectTablet_Tags %USE_PAI_AS_CALLING_IDENTITY_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CLID_DELIVERY_BLOCKING_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_MOBILITY_PERSONA_MANAGEMENT_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_RING_SPLASH_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_PN_MOBILE_CALL_INFO_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_AUDIO_QOS_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %AUDIO_QOS_VALUE_WXT% 46
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_VIDEO_QOS_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %VIDEO_QOS_VALUE_WXT% 34
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_DEVICE_OWNER_RESTRICTION_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_AUDIO_MARI_FEC_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_AUDIO_MARI_RTX_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_VIDEO_MARI_FEC_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_VIDEO_MARI_RTX_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CALL_BLOCK_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_WIDGET_HOLD_CALLS_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_WIDGET_TRANSFER_CALLS_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_WIDGET_CALLS_ESCALATE_TO_WEBEX_MEETING_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_SIMULTANEOUS_CALLS_WITH_SAME_USER_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_VOICE_MAIL_FORWARDING_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %SIP_REGISTER_FAILOVER_REGISTRATION_CLEANUP_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_SPEECH_ENHANCEMENTS_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %DIALING_NATIVE_FAC_PREFIX_WXT%
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_TRANSFER_AUTO_HOLD_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_RTCP_XR_NEGOTIATION_WXT% true
```

```
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CLID_INCOMING_CALLS_APPEND_NUMBER_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CLID_MISSED_CALLS_APPEND_NUMBER_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_ADDITIONAL_NUMBERS_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_CALL_CENTER_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_HUNT_GROUP_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_DELIVERY_BLOCKING_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CLID_OUTGOING_CALLS_MOBILITY_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CALL_FORWARDING_INFO_CALLS_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %UDP_KEEPALIVE_ENABLED_WXT% true
add tagSetName ConnectTablet_Tags %TCP_KEEPALIVE_ENABLED_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %TLS_KEEPALIVE_ENABLED_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_RTP_ICE_IPV6_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %CLID_REMOTE_NAME_MACHINE_MODE_WXT% resolved
add tagSetName ConnectTablet_Tags %PERSONAL_ASSISTANT_ENABLED_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %PN_FOR_CALLS_DELIVERY_MODE_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_ENHANCED_AUTHORIZATION_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CONFERENCE_DROP_TWO_PARTY_CONFERENCE_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %CALL_PULL_MODE_WXT% blind
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_EMERGENCY_LOCATION_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %EMERGENCY_LOCATION_PROVIDER_NAME_WXT% redsky
add tagSetName ConnectTablet_Tags %EMERGENCY_LOCATION_USER_REMINDER_TIMEOUT_WXT% 0
add tagSetName ConnectTablet_Tags %EMERGENCY_LOCATION_USER_MANDATORY_LOCATION_WXT% -1
add tagSetName ConnectTablet_Tags %EMERGENCY_LOCATION_USER_LOCATION_PROMPTING_WXT%
once_per_login
add tagSetName ConnectTablet_Tags %ENABLE_CALLS_E2EE_WXT% false
add tagSetName ConnectTablet_Tags %CHANNEL_INACTIVITY_TIMEOUT_WXT% 60000
add tagSetName ConnectTablet_Tags %XSI_PROXY_DISCOVERY_MODE_WXT% srv-host
```

10.4 システム タグ

BroadWorks 版 Webex で使用されるシステム タグを次に示します。

```
%BWNETWORK-CONFERENCE-SIPURI-n%
%BWVOICE-PORTAL-NUMBER-n%
%BWLINEPORT-n%
%BWHOST-n%
%BWAUTHUSER-n%
%BWAUTHPASSWORD-n%
%BWE164-n%
%BWNAME-n%
%BWEXTENSION-n%
%BWAPPEARANCE-LABEL-n%
%BWDISPLAYNAMELINEPORT%
%BWLINEPORT-PRIMARY%
%BWE911-PRIMARY-HELDURL%
%BWE911-CUSTOMERID%
%BWE911-SECRETKEY%
%BWE911-EMERGENCY-NUMBER-LIST%
%BW-MEMBERTYPE-n%
%BWUSEREXTID-n%
```

11 頭字語および略語

このセクションでは、本書で使用される略語と略称を示します。頭字語および略語は、その意味とともにアルファベット順に記載されている。

ACBグループ	自動コールバック
ACD	自動通話分配
ACR社	匿名通話の拒否
AESグループ	高度な暗号化規格
ALG	アプリケーション レイヤー ゲートウェイ
API	アプリケーション プログラミングインターフェイス
APK の	アプリケーションパッケージ
APNS	Apple Push Notification Service
アルス	自動ビット レートの選択
AS	アプリケーション サーバー (Cisco BroadWorks)
AVP）	音声ビジュアル プロファイル
BW	BroadWorks
BWA）	BroadWorks Anywhere
BWKS の	BroadWorks
FIFAワールドカップ	BroadWorks Mobility
BYOD	自分のデバイスを使用
CC	コール センター
CFBモード	話中転送
CFNA）	無応答転送
CFNRシリーズ	通話転送に到達できない
CIF	共通の中間形式
CLI	コマンド ライン インターフェイス
CLID 社	発信回線 ID
CLIDB 社	発信回線 ID の配信ブロック
CRLF）	キャリッジリターン回線フィード
CS	スイッチオン
CSWVシリーズ	コール設定 Web ビュー

CWシリーズ	着信待ち受け
データベース	データベース
DM	デバイス管理
DND	応答不可
DNS	ドメイン名システム
DPCシステム	卓上電話のコントロール
DTAF	デバイス タイプ アーカイブ ファイル
ECACS）	緊急通話アドレス変更サービス
FMC	固定モバイル収束率
FQDN	完全修飾ドメイン名
HMAC の	ハッシュメッセージ認証コード
ICE	インタラクティブ接続の確立
iLBC	インターネット低ビットレート コーデック
IM	インスタント メッセージ
IM&P	インスタント メッセージとプレゼンス
IOTシステム	相互運用性テスト
IP	インターネット プロトコル
JID	Jabber 識別子
M/O	必須/オプション
MNO	モバイルネットワークオペレーター
MTUシステム	最大伝送ユニット
MUC	複数ユーザーのチャット
MWI	メッセージ待機インジケーター
NAL (企業)	ネットワーク抽象レイヤー
NAPTR の	名前付け権限ポインタ
NAT	ネットワーク アドレス変換
Ott	トップ
PAグループ	パーソナル アシスタント
パイ	Pアサート・アイデンティティ
PEM	P-Early メディア
PLI）	画像損失の表示
PLMN	公衆移動通信網

識別番号	プッシュ通知
キューシフ	クォーター共通中間形式
QoS	サービスの質（QoS）
RO	リモート オフィス
RTCP	リアルタイム コントロール プロトコル
RTP	リアルタイム プロトコル
サアS	サービスとしてのソフトウェア
サン	件名の代替名
SASL社	シンプルな認証とセキュリティレイヤー
サップ	セキュアな音声ビデオ プロファイル
SBC	セッション ボーダー コントローラー
SCA	共有コールの形式
SCFシリーズ	セッションの継続性関数
SCTP	ストリーム制御伝送プロトコル
SDP	セッション定義プロトコル
セクリング	
シムリング	
SIP	セッション開始プロトコル
SNRシステム	信号対ノイズ比
SNRシステム	Single Number Reach
SRTCP の	セキュアなリアルタイム制御プロトコル
Srtp	セキュア リアルタイム トランスポート プロトコル
SSL	セキュア ソケット レイヤー
STUN	NAT 用のセッション トラバーサル ユーティリティ
サブチーフ	サブクォーター CIF
TCP	伝送制御プロトコル
TLS	トランスポート レイヤー セキュリティ
TTL	配信時間
TURN	リレー NAT を使用したトラバーサル
UDP	ユーザ データグラム プロトコル
UI	ユーザインタフェース

UMS	メッセージング サーバー (Cisco BroadWorks)
URI	ユニフォーム リソース ID
UVS	ビデオ サーバー (Cisco BroadWorks)
VGA	ビデオ グラフィック アレイ
VoIP	ボイス オーバー IP
VVMシステム	ビジュアル ボイスメール
WXT	Webex
XMPP	拡張可能メッセージングとプレゼンス プロトコル
XRシリーズ	拡張レポート
XSP	Xtended サービス プラットフォーム
XSI	Xtended サービス インターフェイス

Cisco および Cisco ロゴは、米国およびその他の国において Cisco およびその子会社の商標または登録商標です。Cisco 商標一覧は、こちらの URL でご確認ください。https://www.cisco.com/c/en/us/about/legal/trademarks.html. 第三者の商標は、それぞれの所有者の財産です。「パートナー」という言葉の使用は、シスコと他の会社間のパートナーシップ関係を意味するものではありません（1721R）。

©2025 Cisco Systems, Inc. 無断複写・転載を禁じます